

内閣文庫
八〇六三
和書
二一冊



305
12

南支南洋時報
第三十八號
昭和十九年九月二十五日
臺灣總督府外事部

目次

南支

福建省の石炭資源……………一頁
汕頭の事變前の商業……………三頁
廣東金融事情概況(昭和十九年第二・四半期)……………六頁
海口金融事情概況(昭和十九年第一・四半期)……………三頁

南洋

南方の黄麻栽培..... 六
 泰國輸出入物價概況..... 六
 暹谷泰人生計費指數..... 七
 印度の黄麻工業..... 一〇

時報

(南支・南洋)

厦門..... 一五
 厦門の養蠶増産三箇年計畫.....
 汕頭..... 一八
 汕頭舊法幣の流通を禁止.....
 汕頭に在留邦人職業輔導所を設置..... 二〇

廣東

廣東の米價安定化す..... 一〇
 廣東省長陳耀祖氏暗殺さる..... 一一
 廣東で葉煙草を栽培..... 一一
 粵海關轉口税を徴收..... 一三
 海南島..... 一四
 臺灣海南島事業を獨立化..... 一四
 香港..... 一五
 香港への食米輸入順調..... 一五
 香港特定地域向け輸移出取縮規則を廢止..... 一六
 南方一般..... 一七
 南方諸地域の爲替事務取扱開始..... 一七
 南洋各地の文教態勢..... 一八
 佛印..... 一八

佛印の黄麻増産實行計畫	一四
佛印でゴム製品の自給計畫進捗	一三
佛印にて畜産業者に休閒地を無償拂下	一三
佛印交趾支那で機械類の移動を禁止	一三
佛印ジャンクで沿岸航路開設	一六
佛印最初の水力發電所近く竣工	一六
泰 國	
泰國纖維界の近況	一五
泰國衣料統制令を發布	一四
泰國工業界の二つの新研究	一四
馬 来	
マライの銀行預金増加	一四
マライ原住民の勤勞觀一變	一四
スマトラ	

スマトラ電気事業を一元化	一四
スマトラに於ける苛性曹達現地自給有望	一四
スマトラに鑛山會を設立	一四
スマトラにて紅頭嶼藤を栽培	一七
ジャワ	
ジャワ電力の大擴充を企圖	一四
ジャワの住民經濟新體制	一四
ジャワにて近く行政警察制を實施	一五
ジャワ軍政監部物價安定方針を決定	一五
ジャワ軍政當局の衣料對策	一五
ジャワ輸出物査取引稅改正	一五
ジャワ食糧の統制管理を強化	一五
ジャワの端境期米増産で不安解消	一五
小スンダ	

小スンダの食糧増産既定數量達成……………一五八

バリ島防衛義勇軍を編制……………一五八

ロンボック島の棉作豫定收量突破確實……………一五六

ボルネオ

ボルネオにて米穀買上制を實施……………一五六

ボルネオの椰子油生産卸賣に統制組合……………一五九

ボルネオの畜類増産計畫……………一六〇

西ボルネオの木造船建造増強……………一六〇

南ボルネオの就學率激増……………一六一

セレベス

海軍軍政地區に恩赦……………一六三

海軍軍政當局米穀消費規正の基準量を明示……………一六三

海軍軍政地域の十八年度木材増産好成績……………一六四

セレベス纖維工業の増産要綱決定……………一六四

セレベス海運共同事務所を設置……………一六五

南セレベスの建設驚異的進捗……………一六六

マカッサル市内外の米穀小賣價格改訂……………一六六

マカッサルに農業中學校を開設……………一六六

比律賓

比島開發事業の一部を業者に委託經營……………一六九

比島の鑛物増産順調に進展……………一六九

比島の木材生産増大す……………一七〇

比島の木造船建造……………一七三

比島代用粉乳の製造に成功……………一七四

マニラ麻にて代用紙を製作……………一七四

緬甸

ビルマ行政機構を改革……………一七五

ビルマ全國に蓖麻栽培運動を展開……………一七六



ビルマで麻袋代用ゴム袋の製作に成功……………二六
印度……………二七
自由印度假政府の新銀行設立……………二七

統計

南支各地域別在留邦人人口概計表(一月一日現在)……………二六
南支各地物價表(二月末日)……………二六
華僑送金表(二月中)……………二七
廣東占領地區内中國人人口概計表(昭和十八年三月一日現在)……………二七
廣東占領地區内第三國人口概計表(昭和十八年十二月三十一日現在)……………二七
香港管區内人口構成表……………二八
香港人口調査結果表(昭和十九年三月十二日午前零時現在)……………二八
西貢總領事館管内在留邦人調(昭和十八年十月一日現在)……………二九
南支南洋時報總目次索引(自二六號至二八號)……………二九

南支

福建省の石炭資源

一 福建省の地下資源

福建省は我が臺灣と一衣帯水、海路半日足らず、空路僅か四十分の對岸に位し、獨逸の長距離砲でなら後に届く程近接して居り乍ら、その實情は餘り知られず、我等の關心も亦薄い。特に支那事變後は「謎の福建」と云はれ、福建省は凡ゆる意味に於て謎であつたのである。就中、その地下資源に至ると全くの未知數に屬し、悲觀、樂觀種々様々であるが、何れも徒らなる推測に過ぎなかつた。然し、何れにしてもこの西隣の謎福建は必ず我が南進の鍵臺灣に依つて解かれねばならない。

福建省に於ける地下資源の分布状態を見ると左の如く實に多種多様に亘つてゐる。即ち

石炭、鐵、金、鉛銀、銅、モリブデン、タングステン、アンチモニー、マンガン、アルミニウム、亜鉛、コ

バルト、錫、螢石、明礬、凍石、磁土、壽山石、花崗岩、水晶、筆鉛等

がありその埋藏量の豊富なることも豫想せられるが、其の賦存する地域の多くは交通不便な山間僻地にあるので、未だ充分な調査の行はれたことはなく、之が開發に就ても僅か舊式方法を以て石炭、鐵、鉛、銅等を採掘し其の地方の需要を充す程度のものに過ぎない。殊に石炭は殆んど良質な無煙炭でその推定埋藏量も四億噸と稱せられてゐるにも拘らず、年産僅か五萬噸といふ有様である。然し又一面から觀て、福建省の鑛産開發は將來に俟つべく、その前途は實に洋々たるものがあるのである。若し帝國と緊密なる合作提携の下に之を開發し、以て相互慶福の増進を圖つたならば、實に彼我兩國々運の進展に資するのみならず、亦以て東亞共榮圈に貢獻する所も大であらう。而して從來からも華僑等がこれに著目し、公司の設立、其の他積極的方法に依つて採掘に着手する者がないではなかつたが、鑛物及び地質調査の不充分に加へ、交通不便、技術拙劣、鑛業知識の缺除及び治安不良等に依り、事業に不安を伴ふこと、墓地、風水、神廟其の他に關して民衆の迷信が深く採掘を阻碍したこと、其の他多くの原因に依つてその開發は遅々として進まなかつたが、閩變（福建獨立事變）以後は政治も漸く軌道に乗り、社會状態も稍安定したので、省政府は各種建設事業を着々推進すると共に、鑛産開發に對しても力を注ぎ、探鑛、採鑛事業等小規模乍ら行はれるやうになつたのである。例へば、永泰壁坑に於ける銅鑛の採集、四規坑の硫化鐵開發に於ける官商合辦、金門磁土の經營、安溪鐵鑛及び厦門禾山のマンガン鑛の實地調査等の如きは之である。この

外建甌縣游塘の砂金洗採及び同縣梨山炭鑛開發等も計畫し、一般商民や華僑も亦漸く鑛業に興味と認識を持つやうになつて、探鑛願出が増加しつゝあつた處、支那事變の勃發により再び停頓するの已むなきに至つた。其の後支那事變から大東亞戰爭に進展するにつれて、福建省（重慶側）當局も亦從來の方針を變更し、その主力を省の西部及び北部に注ぎ、鑛産地質の調査探求、内地住民に對する鑛産知識の普及、及び探鑛獎勵を着々と進行しつゝあるのは注目に値する。

左に福建省各種地下資源の中、特に戦時下に於ける動力資源として急速増産を叫ぶるゝ石炭資源に就き一瞥することとする。

二 石 炭 資 源

一般に支那の石炭は質及び量的に見て山西省の右に出るものはないが、福建省のそれは支那全體から見れば假令微たるものであつても、省内に於ける資源としては相當な地位を占めるものである。換言すれば省内の地下資源を論ずる上に於ては、石炭は見逃し得ない有力な鑛物資源の一つであるのである。左にその概要を紹介する。

一 地 質

本省の地質はその東南半分が殆んど全部花崗岩、片狀火崗岩、片麻岩、石英斑岩等からなり、それ等が大凡そ北

★東—南々西、即ち南支那（並に東アジア全體）の海岸線の大勢に並行した排列を示してゐる。これは嘗て獨逸の地理學者リヒトホフエンが「支那方向」と名付けたものである。この大陸の東部に極めて特有な自然地理的基準方向である。尙省の西北半分にも右に述べた様な酸性火成岩や片麻岩も多少分布はしてゐるが、然し大部分はシルル紀、デヴォン紀、石炭紀、二疊紀等の水成岩類で、それ等が又「支那方向」の走向を有ち、大小多くの背斜や向斜の構造を形成してゐる。第三紀層は僅かに處々に陸成層として發達してゐる。

一體支那大陸各地に産する石炭を地質學的、地史學的に考へて大別すれば三つの異なる時代のものとなる。先づ第一は古生代末期たる二疊紀頃のものの、第二は中生代侏羅紀頃のものの、そして最も新しいのは新生代第三紀の生成にかゝるものである。ところで山西省や福建省南部のものは第一の類に屬し、古生代末の生成にかゝるものである。第二期即ち中生代の石炭は福建省北部に産し、山東、浙江、四川、滿洲、朝鮮などにも分布してゐる。最も新しいもの即ち新生代のものは支那には殆んど知られてゐない。

二 分布及び炭質

本省に於ける石炭資源の分布は左の如く極めて廣汎に亘つて居り、殆んど良質の無煙炭に屬する點は特筆すべきである。即ち南部龍巖方面は山西省或は滿洲の本溪炭田等と同じく古生代末の二疊紀に屬し、北部邵武、建寧方面は滿洲の新邱、北票、京都の舞鶴炭田と等しく中生代の侏羅紀に屬し、何れも炭質優良である。

福建省に於ける石炭分布状況は左の如く二十數縣に亘つてゐる。

- 西部—龍巖、華安、漳平、連城、永安、沙縣、永定、寧洋、武平
- 北部—邵武、建寧、崇安、浦城、順昌
- 南部—安溪、漳浦、海澄、永春
- 東部—寧德、政和、長樂

三 埋藏量

本省の石炭埋藏量に就ては種々推定されてゐるが、昭和十年の福建省統計概覽では五億噸と推定し、全國の〇・二%としてゐる。又その翌年の同省統計時報に據れば稍内輪に見積り、左表の如く三億九千六百萬噸とし、支那本部總埋藏量（推定）二千三百二十五億餘噸に比し約その〇・一七%に當るといふ。

福建省縣別石炭推定埋藏量表

縣別	炭田	地質年代	面積	炭層厚さ	無煙炭	煙炭	總埋炭量
邵武	蕉坑、酒口	侏羅紀	10.0	20	15,000,000	1	15,000,000
建寧	梨山	侏羅紀	10.0	15	11,000,000	1	11,000,000

其	他	1110	7,560	2,875,900	8,503,000	滿洲、新贛、青海、蒙古等
總計		10,000	100,000	3,749,800	12,752,800	

(一九三五年「中國鑛業紀要」に據る)

右表の如く本省の需要に對し大いに不足してゐるのである。之が爲毎年海關を經由して輸入される石炭は約十萬噸内外、價格にして百萬元以上である。斯くの如く、相當の埋藏量を有し乍ら顧られずに放置するの已むなきに至つてゐるのは、主として交通不便及びバルブ、電氣其他近代工業の未發達と治安の不確立とが因を成してゐることは、特に繰返へし述べて置く必要がある。左表は福建省に於ける海關經由の石炭輸入量に關する統計であるが、一九三〇乃至三五年の統計は「福建省統計時報」及び「福建省對外貿易統計」に據り、一九三七—三九年の統計は現地調査に據つたものである。但し後者は汽船による輸入のみを含み、支那事變後沿岸封鎖に依り活潑となつたジャンクに依る密貿易を含んでゐない。故に實際の輸入數量はそれ以上あるものと見るべきである。

福建省海關經由石炭輸入歷年統計表

(但し一九三六年を缺く)

年 別	外 國		内 國		合 計	
	噸 數	價 額	噸 數	價 額	噸 數	價 額

一九三〇	5,000	56,850	5,400	85,800	10,400	142,650
一九三一	5,200	67,750	6,000	134,350	11,200	202,100
一九三二	5,300	67,500	6,800	140,800	12,100	208,300
一九三三	5,300	67,500	7,000	140,800	12,300	208,300
一九三四	5,300	67,500	7,000	140,800	12,300	208,300
一九三五	5,300	67,500	7,000	140,800	12,300	208,300
一九三六	5,300	67,500	7,000	140,800	12,300	208,300
一九三七	5,300	67,500	7,000	140,800	12,300	208,300
一九三八	5,300	67,500	7,000	140,800	12,300	208,300
一九三九	5,300	67,500	7,000	140,800	12,300	208,300
一九四〇	5,300	67,500	7,000	140,800	12,300	208,300

三 主 要 炭 田

一 龍 巖 炭 田

龍巖炭田は龍巖盆地を中心とし、その大凡を北東から南西へかけて延長約七十餘軒、幅約四十軒に達するもので、その北東端は龍巖縣城の北東約三十五軒の漳平縣龍潭で、南西端は永定縣の北部に在る坎頭である。本炭田は良

質の無煙炭層を有し、埋藏量に於ても福建隨一と稱せられ、少くとも三千八百萬噸であると推定されてゐる。

(一) 地質及び炭層

地質は砂岩、粘板岩の互層を主とし、それに石灰岩、方砂岩等を挟む上部古生層で、走向は北々東―南々西乃至南々北であるが、時としては北々西―南々東に變ることもある。傾斜は稍急で三十乃至四十度を普通とし、場所によつては七十一八十度にも達してゐる。この地方の挾炭層は上、中、下三群に區別され得る。そしてその各群が三枚若くは四枚の炭層を挟んでゐるのである。上炭層群は石灰岩層上に位する粘板岩、砂岩の互層中であり、中部炭層群は砂岩中に挟在し、下部炭層群は粘板岩及び砂岩と交層してゐる。そして上部と中部との炭層群は互に整合し累積してゐるが、下部炭層群と中部炭層群とは斷層で接してゐるもの、様である。尙各主要炭層を列記すれば左の如くである。

1 牛坑炭層

龍巖縣東部に位し、炭層の厚さ二米以上であるが、往々追縮があつて三十種内外のものもあり、従つて地層の變動に依つて粉碎されたものも少なくない。その傾斜方向は東北方に連つて各炭層に通じ、何れも東方又は東南に向つて傾斜する。

2 蘇邦・大吉・水龍潭各炭層

この一帯に露出する層は牛坑と一層に互つて連るが、處々に斷層を生じ、走向は西方の炭層と殆んど平行し、傾斜は何れも西北に向つてゐる。

3 牛潭の小丘炭層

蘇邦の西北約十二軒にあり、一米餘の炭層を露し、走向は西北、傾斜は三十度である。本層の炭質は良好でないやうである。

4 牛嶺・永定間の炭層

厚さ約一米乃至一米半の炭層が露出し、龍巖縣城よりも百五十米の高處に位し、東西約五軒の林山頭炭層に連接してゐる。本層は龍巖溪を過ぎて更に南西に向つて進み龍門炭層に連るが、この地は地層の變動により傾斜が甚だ急で、炭層は半ば粉碎されてゐる。此處から更に南西に進み蓋頭地方に至ると再び露頭を現し、遠く永定縣境に達する。尙本炭層の下には更に一炭層が存在する模様である。又本炭層は處々に斷層を生じてゐるが延長三百五十軒に亘り、牛嶺、林山頭には厚さ一米餘の炭層が二つあり、その埋藏量は三百萬噸と推算されてゐる。又蓋頭、永定間の炭層面は前者の二倍、その埋藏量は六百萬噸である。更に採掘して地下三百米に達すれば炭量は千八百萬噸を加へるであらうと謂はれてゐる。

(二) 炭質

林 山 頭	白 沙		水 龍 潭			大 吉	
	下 炭	上 炭	下 炭	中 炭	上 炭	下 炭	上 炭
	五・二〇	五・一八	四・八三	五・二五	五・〇三	五・一四	四・五四
	三・三四	四・〇三	四・九七	三・二〇	三・九七	三・四七	三・八七
	六八・一九	七二・五七	六四・二八	六八・八七	七五・五七	八五・〇一	八六・四〇
	一八・二二	二二・七二	二五・七二	二六・八	一五・四一	六・三八	五・一九

(齊藤一採集 臺灣總督府分析に據る)

(三) 鑛 區

龍巖の東側では東方の山から西へ向つて龍巖河へ流れ込む小支流たる手坑溪、烏龍溪及び塔後溪等の溪谷内で採炭が行はれて居り、各炭坑の間には東西に走る斷層があり、炭田全體の幅は一杆、全延長は三杆半に近い。

又西方約七杆の龍門及びその附近には第二の採炭區があり、第三の採炭區は西南方に在る永定縣坎頭(坎市)地方である。本炭田には更に幾つもの小採炭區があり、石炭は全體として無煙炭で、一般に粉炭になり易いので粉炭として採掘されてゐるところもある。主要既採掘鑛區を挙げれば左の如くである。

- 1 水龍潭炭鑛區
縣城東北五十七支里の地にあり、面積九方支里、日産百擔。
- 2 牛坑炭鑛區
縣城東方約七支里の地にあり、日産約二百擔。
- 3 風恒岐炭鑛區
縣城北方五十三支里の地にあり、日産十五、六擔。
- 4 坑納炭鑛區

縣城西方二十五支里の地にあり、日産約一、二百擔であるが、その埋藏量莫大と謂はれてゐる。以上の如く龍巖炭田は相當の埋藏量があるにも拘らず、死蔵の儘にて開掘されず、假りに開發されるにしても僅かに土法による小規模なものに過ぎない。即ち日常の薪炭、石灰製造用としてのみ採掘されるに過ぎない現状にある。尙本炭田は清末曾て清朝政府の着目する所となり、之が開發の爲龍巖官商合辦鐵路公司を組織して

焦坑炭田所産石炭を本省前財政廳並に實業部に於て分析した處左の如き結果を得た。

一八

成分	福建省前財政廳分析結果		中央政府實業部分析結果
	第一次分析	第二次分析	
固定炭素	八四・〇七%	八四・九〇%	九〇・〇七%
揮発分	四・七五%	四・七五%	二・〇四六%
水分	四・六七%	四・五〇%	四・〇八三%
灰分	四・二〇%	三・八五%	三・七八五%
硫酸	二・二三%	二・〇二%	
燐		五、八八五カリ	七、四五一カリ
熱			紫
色澤			微粘性

(三) 炭量及び鑛區

本鑛區の範圍は東南西北の延長數十料を下らないが、炭層の厚さが未だ判然と調査されてゐない爲、正確な埋藏量を推算し難い。然し大體の概算に依れば少くとも八百萬噸を下るまいと謂はれるから、相當豊富であると

(福建省建設報告第二輯)に據る)

いふべく將來頗る有望である。

現在採鑛中の坑道は三つあり、出炭してゐるのは義記煤鑛公司の經營する二坑だけで、他の一坑は泉水が湧出し排出方法がないので廢坑となつてゐる。採鑛中の二坑の産量も亦微々たるもので年産僅か十萬噸位の所である。

四 建甌炭田

建甌炭田といふのは縣城の東方約七料の梨山附近の炭田を云ふ。該地一帯の地質は、尙れも中世紀砂岩及び頁岩からなり、中生層中に二米弱の炭層が一脈夾在してゐる。走向は北々西―南々東で西方は約四十五度位に傾斜してゐる。炭質は無煙炭で粉炭となり易い。露頭部分は漆黒脆弱にして光澤が強い。本炭田は既に發見された炭量丈でも一千万噸以上あると言はれてゐる。明治三十二年此の地を探査した井上禧之助氏の報告に據れば、採炭量四百萬噸の中、塊炭六割、粉炭四割であつた。今同氏分析の梨山石炭と古田石炭との對照表を掲ぐれば左の如くである。

一九

梨山及び古田炭質分析表

成分	梨山(第一號)	梨山(第二號)	古田(第一號)	古田(第二號)
水分	七・一八〇	七・八〇〇	六・三〇〇	八・〇六〇
揮發物	二・九四二	一・六五六	三・三〇三	三・三七八
燃焼物	六八・七五一	六四・五五九	七〇・一五三	七四・六六四
灰質	不粘	同上	同上	同上
灰分	二〇・六三九	二五・五五四	一九・九九三	一三・三六二
灰黄色	淡褐	同上	同上	同上
硫黄	〇・四八五	〇・四四一	〇・三三三	〇・五一四

(明治三十二年「地質學雜誌」第六卷第六十六號)

本炭田は清朝光緒二十三年十月より翌年にかけて約一箇年開坑したことがあつたが、損失の爲停止し、爾來廢坑の儘になつてゐる。

五 永春縣鉛坑炭田

鉛坑炭田は永春縣の東北境に位し、縣城の東北に在る下洋を距ること五支里、東南に在る桂洋を距ること二十支

里の地にある。本炭層は山溪中に露出し、巨大な横裂痕を生じ、裂縫に細小の斷層があり、炭系の頂岩及び炭層が沖出して山溪を成し、炭層も露出してゐる。而してその層次、層數、層厚、傾斜の程は皆歴然として數へ得られる。炭層は侏羅紀炭系の底部に挟り、炭系の地層は一樣ではなく二疊紀石灰岩上に混入してゐる。其の炭層は六層あり、炭質は良質の無煙炭で第一炭層は特に多くの炭分を含んでゐる。中でも第四層は光澤最も強く、斷口は介殼狀を呈し、灰分百分の十以下、揮發分も比較的に少い。第四層分析の結果は次の如くである。

水分	一〇・三%
固定炭素	七三・六%
揮發分	六・六%
灰分	九・五%

鉛坑より下洋に至る炭層は十一支里に亘り、南北二支里、炭層の厚さ七米、その推定埋藏量は六千萬噸とされ、第三層だけで四千八百餘萬噸、その六十%としても二千九百餘萬噸が採取し得られる。鉛坑炭は現在石灰燒業者に依つて土法で採掘されてゐるが、將來交通の開けた場合大資本を注入すれば重要な燃料資源供給地となるであらう。

六 崇安及建陽炭田

崇安縣の西南及東南と建陽縣の北部一帶の地に在り、その大部分は溪流の東岸及西北峰各峰上谷の間に在る。地質は中生代砂岩層に屬し、崇安縣西南の牛鳴潭より東に折れて藍富岡となり、江を渡り岸に従つて陳瀝坑口を経て下梅を挟み、建陽縣の北部に連る。この間に炭層が地表に露はれてゐる。牛鳴潭は海拔約四五〇米の高地に在り、その袋頭は雜草繁茂せる谷側に露はれ、藍富岡も海拔約四五〇米にしてその露頭は岩石の下に露はれ、走向は東西傾斜は北に向つて七十度、炭層の厚さ三十種位、約十米の距離を距て、三つの炭層が互に平行して露はれてゐる。其の他の箇所も大體之と同様である。その埋藏量は二十萬噸であると稱されてゐるが、詳細は尙調査の必要がある。今主なる炭坑を挙げれば次の如くである。

(一) 藍富岡炭坑

崇安縣城より海拔三十米の下馬坑を経て陸路三十五支里の地に在り、二十餘年前江西人が山の中腹に五箇所開坑したが、炭質不良のためか、需要少く遂に放棄した。

(二) 陳瀝炭坑

崇安縣城より約四十五支里の地に在り、鑛區面積約九方支里、清末時代採掘したことがあつたが、炭質不良の爲間もなく放棄した。

(三) 下梅炭坑



崇安縣城を距ること約三十支里、面積約八方支里で、會て現地人が試掘したが、炭質不良のため停止した。

七 順昌炭田

本炭田は縣城を距る約五支里の烏泥峽及び同じく約五十支里の庵山峽の二區である。地質は中生代砂岩より成り、建陽、崇安、建陽と同一と看做され、その炭層の露頭は烏泥峽山中の中部及び庵山峽の山腹に見える。炭質は烏泥峽は粉狀の無煙炭にして、庵山峽は烏泥峽より良好である。本炭田は未だ詳細なる調査が進められて居らず、兩地共採掘されたことがあるが、現在は廢坑となつてゐる。

八 寧洋炭田

寧洋縣東方の香寮郷に起り員當郷、曲稷林、茶林葉仔角、東寨坑に至り留田洋、後頭山、老樹林、大會郷に達し、遠く馬山一帶に至る延長約五、六十支里の間に在る。本炭田の地質は龍巖のそれと略々同様で、炭質は多く粉狀を成してゐる。日産約二萬噸にして主に石灰製造及び一般薪炭に用ひられてゐる。

九 漳浦炭田

本炭田は漳浦縣城を距る約六十支里、海を距る十支里の和坑及び縣城を距る四十五支里、海岸に迫れる舊鎮郷を更に距る二十五支里の下蔡との二坑である。和坑の地形は極めて平坦で、炭層の厚さは約七十種、その母岩は灰色砂岩である。上部を土壤で覆はれ、南に向つて延長五支里、東及び西北に向つて延長均しく二支里、東北及

び正面の二箇所には花崗岩及び玄武岩が噴出してゐる。石炭は褐炭に属するが、焔が長く、煙があり、比較的良質である。下炭層は田埔附近の窪地中に在り、延長四支里、幅約半支里、上部は泥砂を以て覆はれ、僅かに五、六十種の下部に厚さ一米乃至二米の泥炭層が二層に分れ、上層は植物繊維質であるが、下層は已に凝結して塊を成し、樹色を呈してゐる。炭層の下部は白色砂礫と稱されてゐる。本炭田は交通便利の地に在り小規模に採掘されてゐる。

一〇 長樂炭田

長樂には泥炭區が二箇所ある。一は江山郷に在り、鑛量約二十七萬噸、他は小社郷東南にあり、鑛量約三十萬噸である。兩方共月産約六百噸のやうであるが、支那事變後、海岸地帯に屬するを以て停頓の様相である。

一一 其 他

華安縣華封炭田は良質の石炭を産し、舊式法を以て採掘されて居り、華安城西十五支里の赤嶺及び城北の線良社、漳平東方五十支里の上坂及び南方の桂陽、坑洪、高山等も皆産出してゐるが少量である。

其他の各炭田は未調査で詳細不明のものか、或は調査の結果發見しても採坑に至らないものか、又は開坑しても間もなく廢坑或は停止した所が多く、炭質は何れも良質の無煙炭である。

汕頭市の事變前の商業

一 金 融

事變前に於ける汕頭の金融事業は三種あつて、銀行業、銀莊業、收買業と分れ、それに銀行同業組合、滙兌公所があり、一方に證券取引に類するものがあつた。又一方には票據交換所に類するものがあつて、各地の滙兌票價(爲替相場)の情報を集めると共に爲替交換所の役目をなし、交換の結果によつてその信用貸借の關係を定め、月末に公定利息を授受することにしてゐた。そして該所の公定相場は會員以外の取引には及ばなかつた。この交易所は初め澄海商人の獨占のやうになつてゐた。それは汕頭市がもと澄海縣に屬し汕頭商業界の領袖が多く之を牛耳つてゐたからである。民國になつてからは潮陽、大埔及び梅縣の商人達が商場の利を競ふやうになつて、多く之に加入するやうになつた。そのうちで最も出色のものは潮陽商人で、上海と關係のあるものであつた。これは阿片に依つて上海で巨利を得、それを以て汕頭で銀業を經營し、一舉に他の澄海商人其他を駕御するやうになつたのである。これが爲に、澄海系と潮陽系との間に軋轢を生ずるやうになり、遂に營業區域を香港と上海とに割分し、滙票は滙兌公所に、龍銀、毫洋の賣買は銀業公所にと分けるやうになつた。潮陽系は、滙兌公所に如入を許され、銀業は甲、乙、

丙、丁の四等、會費は五百、三百、二百、百元に分れ、市價の高低は香港電報を規準とすることにしてゐた。近年になつて、梅縣系のものゝ勢力を得、汕頭の業界は遂に潮安系と梅縣との二大派に分れて相角逐するに至つた。又近時に至つては本市の銀業、滙兌業は南洋の不況を受けて、送金減少となり、金高銀安に依つて一般商工業も活氣を缺き、銀行の資金運轉は非常な難境に遭遇した。之が續いて農村の崩潰、經濟破産、倒壞の風聲となつて貸出の大縮限を試みられ、他にも波及するやうになつて危境に陥入せるもの頻々たる有様であつたが、白票發行の救済辦法が行はれてから、その金庫組織によつて辛じて維持をなしてゐる仕末であつた。

一 滙兌業

汕頭市の滙兌業は六十二軒あつた。その業務は南洋、上海、香港等各港よりの爲替であるが、各商號のうち保證紙幣を發行してゐたものは下記の三十一家であつた。

莊名	保證銀額	紙の色相
泰安莊	八萬三千五百元	五(藍)一〇(紅)五〇(青)二〇〇(黑)
元安莊	十六萬元	五(青)一〇(紅)五〇(黄)
嘉發莊	五萬元	一〇(黄)

鴻裕	十二萬六千元	五(紫)一〇(青)五〇(赤)
春裕	五萬元	五(赤)一〇(青)五〇(藍)一〇〇(黄)
祥春	十萬元	五(黄)一〇(藍)五〇(紅)
康成	九萬三千元	五(紫)一〇(藍)五〇(紅)
永成	十五萬四千元	五(青)一〇(紫)五〇(赤)一〇〇(黑)
恒豐	八萬五千元	五、一〇(紫)五〇(赤)一〇〇(紅)
合豐	十萬元	五(紅)一〇(藍)五〇(赤)一〇〇(黑)
元豐	五萬五千五百元	五(藍)一〇(紫)
益生	十八萬元	五(紫)一〇(紅)五〇(黄)一〇〇(青)
卓安	十二萬元	五(紅)一〇(青)五〇(黄)一〇〇(黑)
和厚	九萬三千五百元	五(青)一〇(紅)五〇(紫)一〇〇(黑)
鼎利	十萬元	五(藍)一〇(青)五〇(紫)
成利	六萬元	五(黑)一〇(紅)五〇(赤)一〇〇(青)
仁成	十萬元	五(紅)一〇(赤)五〇(紫)一〇〇(綠)
鴻裕	十萬九千七百元	五(赤)一〇(青)五〇(紫)一〇〇(藍)
元利	九萬二千元	

速	興	莊	五萬元	五(赤)一〇(青)
仁	茂	莊	八萬四千元	五(青)一〇(紅)五〇(黃)一〇〇(藍)
阜	豐	莊	十萬元	五(赤)一〇(紫)五〇(藍)一〇〇(紅)

滙兌銀莊の百元券白票を出してゐたものは次の如くである。

住	成	五萬元	宏	康	四萬八千元
鴻	大	五萬元	宏	祥	二萬八千元
鼎	康	五萬元	永	成	五萬元
泰	安	三萬二千元	和	厚	一萬元
仁	茂	五萬元	成	利	二萬六千元
仁	元	五萬元	恒	濟	一萬六千元
宏	安	五萬元			

二 銀行

汕頭の銀業莊は總て六百六十二家の多きに達し、これらは専ら銀幣の出入を辦理してゐた。その内で紙幣發行をなしてゐたのは次の三十四軒であつた。

廣	豐	二萬七千元	五(青)一〇(紅)
振	泰	四萬八千元	五(紫)一〇(青)
晉	泰	一萬六千元	五(紫)一〇(紅)
永	孚	三萬元	五(赤)一〇(黑)
同	元	一萬五千五百元	五(紫)一〇(青)
和	泰	一萬元	五(赤)
榮	記	一萬四千元	五(赤)一〇(黃)
松	興	三萬七百元	五(藍)一〇(青)
漢	記	二萬七千元	五(青)一〇(赤)
孚	德	一萬元	一〇(青)
振	發	一萬元	五(青)一〇(藍)
美	和	三萬千元	五(赤)一〇(紅)

榮 榮 仁 健 利 富 茂 通 萬 永 允 成 協 榮 利

成 豐 安 源 元 源 興 裕 泰 泰 安 記 裕 興 東 元

莊 莊 莊 莊 莊 莊 莊 莊 莊 莊 莊 莊 莊 莊 莊 莊 莊 莊

一萬九千元
一萬九千元
五千元
四萬五千五百元
二萬七千元
二萬七千五百元
二萬五千元
三萬七千七百元
十萬元
二萬八千元
一萬元
五萬七千元
一萬九千元
二萬五千元
六萬七千元
二萬元

五(青)一〇(紅)
五(青)一〇(紅)
一(紅)
五(赤)一〇(紅)
五(青)一〇(赤)
五(藍)一〇(紅)
一〇(烏藍色)
五(青)一〇(紅)
五(紫)一〇(紅)
五(青)一〇(赤)
一(青)
五(藍)一〇(赤)
一〇(紅)
五(青)一〇(紅)
五(青)一〇(紅)
五(青)一〇(紅)

仁 澤 源 敏 廣 四 利 非 南 興 信 成 萬 興 裕 商

發 記 豐 通 泰 道 通 安 僑 隆 德 利 盛 華 業
合 長

莊 莊 莊 莊 莊 莊 莊 莊 莊 莊 莊 莊 莊 莊 莊 莊 莊 莊

一萬七千五百元
三萬六千元
一萬四千五百元
一萬二千元
三萬元
三萬二千五百元
三萬八千元
二萬三千元
一萬元
八萬元
一萬元
一萬元
五萬四千五百元
三萬五百元
八千元
二萬元

五(青)
五(青)一〇(紅)
五(紅)一〇(藍)
五(青)一〇(紅)
五(赤)一〇(紅)
五(青)一〇(藍)
五(紫)一〇(紅) 五(青)一〇(青)
五(藍)一〇(藍)
五(赤)一〇(藍)
五(藍)一〇(紅) 五(青)一〇(藍)
五(藍)一〇(紅)
五(青)一〇(青)
五(青)一〇(紫)
五(藍)一〇(赤) 五(藍)
五(黑)一〇(黑)
五(赤)一〇(青)



銀業發行の百元券白票を出してゐる商號は次の如くである。

行名	保證銀額	行名	保證銀額
協榮	五千元	友泰	五千元
廣豐	二萬元	南僑	一萬六千元
興發	二萬五千元	泰昌	九千元
信隆	二萬五千元	源成	二萬五千元
寶德	二萬三千元	成元	二萬元
鴻泰	六千元	記元	二萬元
紹大	二萬五千元	記元	二萬元
成記	一萬五千元	源元	一萬四千元
開榮	二萬五千元	元元	一萬三千元
興長	二萬三千元	豐元	二萬二千元
源豐	一萬九千元	德元	一萬六千元
集益	二萬五千元	利泰	一萬五千元
合		全	二萬四千元

厚豐	一萬三千元	茂源	二萬四千元
永美	一萬二千元	裕德	二萬五千元
恒生	一萬六千元	源德	八千元
廣通	五千元	源元	二萬四千元
美和	九千元	華元	二萬五千元
裕信	一萬八千元	利泰	二萬五千元
益學	二萬元	泰	二萬四千元

三 收 找 業

本市の收找業は近年開創するものが續出し、忽ちにして二百餘家の多きに達した。その營業は金銀の收找にあつて利鞘を儲けるにあつたが、その内で資本のやゝ多いのが貸出を爲してゐた。その利息は市價に準じて行はれたが、中には賭博の資を補充したりするのがあり、弊害が甚しいので政府はこれを嚴禁する方法を執つてゐた。

四 金 莊

本市には金銀店が十餘軒あつたがそれらは金銀の裝飾品を賣り商品はもと香港、上海から來るので、本市の金店では、舊金を買つて上海、香港に送つて決済にあてゐた。又、金葉や金條は皆外國金店が收買してゐた。内

地の富商は金の價格が日に暴漲するのを見て現銀に換へたり、華僑の歸郷したものが貯蔵の金を現銀に換へたりして、金相場は外人の操縦のまゝにあつた。かくて金の相場は暴騰しても、現存せる金が少くなつた爲、金買價も元は百萬餘元であつたのが、三、四十萬元に減じて仕舞つた。銀の産出は印度、メキシコを大宗とし、本市には上海香港より運び入れ、裝飾品となつてゐるのであるが、近時は婦女子に短髪をするものが多くなつたので賣行きが激減するに至つた。

五 典 業

本市の質屋業者は二十四軒であつた。此の商賣は世間の好、不景氣がよく反映する。質入狀況はもと一日一軒平均四百餘元であつたものが、近年百餘元に減するに至つた。その質入物は大部分は古衣で、利息は月三分、期限は一年、期限を過ぎた衣服は原價の六割で古衣として賣られることになつてゐた。

二 衣 服

一 綢 緞

本市に於て綢緞を扱ふ店は六十餘軒あつた。その入貨は英國、日本が多く、米國、ドイツ、ソ聯等が之に次いでゐた。毎年日本から來るものは二百餘萬圓に及んでゐるが、相繼ぐ日貨排斥に依つて漸減し、之に反して英國よ

りの入貨が益々多くなり、年四百餘萬元の輸入を見るに至つた。年々上海、廣州等から運び込まれるもの五百萬餘元、潮梅方面、澄海、揭陽等の土布の消費額四五十萬元に達した。土布は質が粗で、花模様がぼんやりしてゐる爲、逐年賣行を落すに至つた。この直接の原因は、廣州からの布の影響であるが、間接には外國布に壓倒された爲であり、往時の二分の一以下に減じてしまつた。

二 新 衣

汕頭市は逐年商業頹敗し、中流市民は生活困難に面し、衣服に對する貯蔵が次第に少くなり、往年の如き活潑なる買氣はなく、路傍にて古衣を買ふものが殖えるやうになつて専門の古衣店すら維持困難を感じるに至つた。街頭を行くものは悉く古衣であつたのを見ても新衣の賣れない有様が想像される。この古衣は廣東、香港、上海等から汕頭に入るのであるが、その額は驚くべきものがあつた。

三 古 衣

當時、一般の普通市民は多くは舊衣店、或は路傍の店から購入してゐた。故に鎮邦街、海墘街、永平路、昇平路、福平路、舊公園前等は見渡す限り皆舊衣店であつた。就中、福平路等に於ては商店の陳列以外、路傍に商人が居つて、これらは古衣を地上に列べて賣つてゐたのである。商人は流質品を買つて來て賣るが、他地力より入荷した古衣と流質品とで賣上も相當にあり活氣を呈してゐた。

四 紬 紗

三六

汕頭市の輸出品は土産品を除いては、工業品は皆無といつていゝ程であるが、家庭工業中、婦女の手工に成る紬紗、花邊、織繻は所謂ロンワークとして相當に見るべきものがある。金が高くなり、これが多く輸出を見るやうになつてから驟かに輸出額が増大するに至つたのが、この紬紗の輸出である。この紬紗は本市及び郊外、潮陽、揭陽、澄海各地の婦女でこれに従ふ者は十餘萬人、各地でこの種の工頭式の商店は數百軒、本市の各紬紗店で専門洗熨、裝成、包頭にあたる工人が二千餘人であつた。此等紬紗品の原料は苧布、赤麻布、赤白布、竹絲布、紗、線（絲）等で、その内、苧布を除いた外は全部外國品であり悉く歐米からの輸入品であつた。その製品の販路は米國が主で、紐育とシカゴでは二十餘軒の取扱店があり、汕頭にはこれらと直接取引をなすものとして柯實、喬治、麥樂、美樂、百樂、良安、具來、具利、茂來、麥蘇、誠信、寶華、十毛拉、薩登升、高升、愛双尤、双隆等の外商があつた。これらは本店の代理店として紬紗を集めて送つてゐるのであり、或は自家輸出をなすものとしては協成、振潮、復榮、隆合、順裕、成昌、治盛、潮州、佳昌、德昌、澤架、光亞、漢運、振中等があつた。毛布を専門に扱つてゐるのは柯實洋行で、年扱高百萬打、其他を合せて三百萬打以上、價格一千餘萬元を超えてゐた。其他紬紗四五百萬圓で、これらの運送は總てが郵便局の手によつてゐたので、これは郵便局の収入の唯一のものであつたといふ。

五 靴・帽子

本市の靴業は以前には潮州で製成する布靴が最も多く、潮安地方の所要の八割はこゝで製造されてゐた。然るに皮靴が流行するやうになり、新式の外國靴が入るやうになつてからは大打撃を蒙るに至り、揭陽の皮靴廠は時に乘じて賣行を擧げるやうになつた。民國二十一年の市情を見ると潮州産靴三十萬、香港靴二十萬、上海靴二十萬（汕頭にて製成せる上海式靴をも含む）、皮靴十五萬の需要であつて、皮靴の賣行が益々多くなり、布靴は日に壓迫されつゝやつと現状を維持しつゝある有様で、將來布靴製造の工人一萬餘人の生活とその轉職は相當に重視すべき問題とされてゐた。

帽子業は發達が遅れ、製造廠も僅かに民生と嶺東との二軒があるのみであつたが、民國二十二年百業凋落して以來、急に之に轉業するものを生じ、急に冠亞、大新、汕頭、中國の四軒を増して六軒の帽子廠を見るやうになつた。各家の原料は、香港より送り來るものは外貨であり、上海より送り來るものは中國貨であつた。その工人は未だ百餘人に過ぎず、製出するものは靴帽が多く、毎打十元乃至七十餘元、事變前では有望なる商業の一つに數へられてゐた。

三 食糧品・嗜好品

三七

一 煙草類

三八

煙草類といつても之を更に細く分けると鴉片煙、紙巻煙草、熟菸(刻み煙草)、鼻煙等がある。

(一) 鴉片

本市の鴉片煙館は舊時は百二十四、五軒を數へてゐたが、事變前には八十餘軒に減じた。鴉片の流入は雲南省、福建省、欽州からで、毎年の消費は公稱百五、六萬元であつたが、比の外に非正式の煙館での消費及び私吸食の甚だ多いことも想像されてゐる。

從來煙館は鴉片煙二支、税金一支二毫で館主は禁煙局から烟土を買ひ、之を膏に煮て、烟土一兩に付四元で賣つてゐた。民國二十二年四月、禁煙局は煙館の開燈の最低を六支とし、税金一支を四毫とし、配膏五匁、規定煙膏一兩を七十毫と改めた。生活程度の日に高くなるに従つて、苦力階級は嗜好を抑へて力めて更新を圖るやうになつたので、従前毎日賣上高千餘毫であつたのが七百餘毫に減つた。又煙膏を禁煙局から發賣するやうになつてから、有産者は規定煙膏を佳ならずとし、上等煙膏を求めて自吸するやうになつた。その爲煙館は利あらずとして閉業するものが多かつた。

(二) 煙草

紙巻煙草は消耗品中最大なるもの、一つである。本市には煙草會社の代理店が多く、英美、南洋、中華、亞州、民衆、徳美があり、それに漢業、華資の二公司があつた。此の地に製造廠を設けて製品を出してゐるものには英美公司の刀牌、三炮臺、大炮臺があり、これらはその賣行が仲々旺盛であつた。刀牌は每箱二百餘元、砲臺は每箱三百餘元で、通じて月に他へ送出されるもの四、五百箱に達してゐた。中國産の煙草は外國煙草の賣行の旺盛なのに到底對抗することが出来なかつた。それは資本に乏しく採取する煙草の原料の不良によるのであつた。その中で稍々賣行のよかつたのは南洋公司の製品たる地球牌、梅蘭芳等である。潮梅地方で一年間に消費する煙草は三萬三千數百箱に達するが、その内で中國産のものは千箱に過ぎず、他は皆外國系のもので、外國拂は千餘萬元の多きに及ぶのである。

熟菸は菸葉そのまゝで製出されるので、朱廣蘭、烏烟等數種がある。これを製造するものは二十數軒あつたが、紙巻煙草に壓倒されて、賣行は微々たるものであつた。

鼻煙はポルトガル、ブラジルからのものが多く、中國でこれを消費するのは、廣州のみであつた。民國前には愛好する者が甚だ多かつたが、事變前では老人のみが少許これを愛喫するのみであり、これを賣る店も僅かに一軒に過ぎなかつた。其の餘は土製のものを賣つてゐたのである。

二 酒類

酒は土酒と洋酒との二種であるが、本市の酒店は主たるもの二十餘軒であつたが、事變當時は不景氣で僅に十餘

軒を存するのみであつた。これが代理をなし、或は小賣を爲してゐたものは五十四、五軒を數へた。

土酒は高粱、五加皮、白玫瑰等の數種があり、これは天津から來るのが多く、毎年十二萬瓩（一瓩四十斤）、鹽に付もとは十四元であつたが、後十一元餘に下り、それに税金が三元六角を要した。民國二十一年には、廉價であつた爲に非常な賣行きであつた。土酒の中では高粱酒が七、八割を占めてゐた。土酒中には又、米酒、紅酒、荔枝酒があり、これは潮梅地方で米と砂糖とを混合して製成するので、海外のジャワ輸出が多かつた。然るに、一時ゴム價の下落で華僑の失敗者が多くなつたので、過去には年十餘萬件もあつたのが、事變當時は四、五千件に下つた。

洋酒は三星、蜜蜂標が多く、これは英米より輸入するものが大宗をなし、年四、五千件に及んだ。

三 牲 畜

牲畜は豚、牛、羊、鶏、鵝、鴨の六種で、先づ豚、牛、羊に就いて言ふと、豚店は七、八軒で、屠殺販賣者は約二百人であつた。消費は汕頭、潮州が最も多く、豐順、碣石、南下、甲子が之に次いでゐた。汕頭市の屠殺は日に百五、六頭、一頭最上三十元、年三百萬元に及んでゐる。海外積出では香港向が最も多く、月千餘頭である。汕頭市内では屠殺豚一頭に税金七角半、屠殺料六角であつた。

牛は市内で取扱ふものは合發公司一軒で、販賣者は五、六十家を數へた。市内へ運ばれるのは惠來からが最も多

く次は福建省の饒安からが多い。市内の毎日の屠殺牛數は十二、三頭で、年三十餘萬元、每頭税金四元六角、毎斤三角五分であつた。近來は惠來地方が安定となり、牛を養ふ者が多くなつたから追々は汕頭への送出が多くなることと思はれる。

羊は牛に較べて少い。市内では屠羊店は四軒のみであつた。羊のよく賣れるのは九月から正月までで、平均一日の屠殺數は四、五頭、一頭約十元、一斤一元で價格は牛よりも高い。年賣上高は七萬餘元であつた。羊は福建からも移入されてゐた。

鶏、鵝、鴨の取扱店は七、八軒、小賣店十四、五軒であつた。市内へ送つて來るものは潮州、揭陽からで、平均毎年の消費は十數萬元、福建より來るもの四、五萬元であつた。鶏は平均一元に付一斤三十匁、鴨は一元三斤、鵝鳥も一元三斤、一日の鶏、鵝、鴨の屠殺數は百四、五羽で、鴨が最も多かつた。

四 糖 業

砂糖は土糖、洋糖の兩種とする。市内で土糖を業とするものは約九十餘軒、洋糖を扱ふものは三十餘軒であつた。土糖は國産で、潮梅各地で甘蔗から製成し、潮、普、揭、汕、澄、饒の何れにも多く、産品は青島、烟臺、天津、漢口に送附され、民國二十一年に於けるこれらの移出は四千餘包で每包大洋十五元、洋糖に課税をするやうになつてから、少しく勢を得るやうになつた。この洋糖に對する課税のなかつたときの年輸入額は約三十餘萬包、

百斤十元で、土糖は之に對抗することを得なかつた。事變前では洋糖は百斤二十元二角となつてゐたが、それは税金が十二元二角七分を課せられるからで、爲に密輸入を企てる者が甚だ多いといはれてゐる。

五 魚 店

魚は鮮魚と鹹魚とがある。鮮魚店は以前には二十數軒を數へたが、事變前には五、六軒となり、これが小賣店は十四、五軒であつた。魚類は本市附近のものゝ輸入とであるが、輸入は香港よりのものが主で、次に厦門、福建省の東山邊から入るものでそれらは帯魚が大宗を爲し、冷凍して運び入れられるのであつた。

輸入魚は毎年六、七千桶で、一桶二百斤、上もの五十元、毎桶税金三元であつた。内地産魚は潮安の海門、達濠を大宗とし、甲子、澳角、汕尾、碣石、南澳、饒平が之に次ぐのであるが、汕頭市内への搬入は二萬餘元に過ぎない。かく附近の海灣で捕魚することの少いのは、漁戸が捕魚の方法に拙劣で、舊法を徒に墨守してゐるからである。鹹魚は青島よりの搬入が大宗をなし、年二、三萬元で、これを取扱ふものは百數軒あつた。消費は鮮魚に比して更に廣い。これは價格も非常に安く、百斤十五元内外、魚類は一年を通じて那哥、巴喇、什魚で十一月、十二月は鰻、綠魚、刺魚とし、蝦蟹は内溪に獲れ、風のあるときをよしとする。其の外なほ南港の汕尾、碣石、甲子、神前、澳角、靖海にも多少の漁獲があるが、その量は定まらない。

汕頭市内で消費される魚類は金龍、鰻、赤鯿、什魚で、これらの八割を占め、近村の潮安、巷垣、揭陽、澄海が

二割を占めてゐた。市内の毎月の消費量は二十五萬元、年三百萬元である。

六 蔬 菜

市内の蔬菜店は十五軒で、取扱ふ野菜の種類は數十種あつた。産地は主として潮安、梅縣で、潮梅地方からの搬入は年一萬餘元に及び、これは又他にも輸出され、遠くジャワ、泰にも及んでゐる。又内地移出としては上海が主で、上海だけで年四、五千元に及ぶといふ。

七 青 果

市内の青果店は二十四、五軒、小賣店五、六十軒、その取扱ふ種類は四、五十種に及んだ。生産地は潮安と惠來とが主で、毎年市内に搬入されるもの二百餘萬元に達してゐる。これは上海、香港、南洋各地にも移輸出されるので、其額は年五、六十萬元、滿洲事變後上海向が激減した。これは罐詰として送られるのであるが、荔枝が最も多く、この最上のは百斤十二元にも及んだことがある。事變前は一落千丈僅かに四元餘となつて居り、青梨も百斤五、六元したが、一元餘になり、罐詰界は悉く生氣を失つてゐた。輸出の主たるものは荔枝、柑柑であるが、これに次ぐものは桃、李、西瓜、瓜波羅(パイナップル)で、柑柑は十月から二、三月まで、荔枝は五月から六月が出盛りである。

八 食 鹽

本市の鹽分銷處（配給處）は海平路の益生號と同濟橋傍の同安號の二軒であり、鹽の市内に入るのは、達濠區と南澳、及び饒平縣の海山、東界等のものである。過去に於ける汕頭市内の鹽消費高は年四、五萬擔であつたのが、民國二十一年の統計によると二萬擔近くなつてゐる。これは近時南洋が不景氣で、漬物店、罐詰業が意氣揚らず、鹽の使用が少ないのと、税が高いため密輸が盛んなためである。又汕尾、碣石地方で製出される鹽は、廣州へ運ばれて其の需要に應じ、大埔、梅縣等の所要鹽は福建省から汕頭經由で轉出してゐる。

九 製粉業

本市の製粉業は地瓜粉（薯粉）、麵粉（麥粉）の二種に分れる。汕頭の地瓜粉業者は僅かに五、六軒で、麵粉を業とする者は二十餘軒であつた。地瓜粉は土産で潮陽縣の梅花、金浦、崗頭、南塘の地方に多く、福州への輸出が大宗を爲し、次に泰、ジャワ等に送られるが、毎年の輸出量は十餘萬件、最上もの百斤十元、輸出税百斤六角、事變前は麵粉が低廉なため、賣行が運鈍となつてゐた。麵粉の輸入は上海が大宗で、次は英、米其他であつたが、上海から毎年入荷されるのは十萬餘包、一包二十五斤入で、價格三元七角乃至六角である。この販路は主として潮梅地方で、天粉一包に付二元七角、綠麥粉二元六角六分、飛馬粉二元七角、南車粉二元六角八分、南船粉二元六角二分、南麥粉二元七角であつた。

一〇 茶業

本市の茶業は十四、五軒を數へ、その代理店は二十五、六家で、武彝、福州、見龍、大湖等を大口の輸出商とし、南洋群島を主たる販路とする。

この國産茶は福建省の北部、南部より出荷されるのであるが、近時は共產黨が盤據し、品物の輸出には課税が甚だしいので、送荷頗る少く、往年の六割以下である。本市へ輸入される茶は多くは福建省の武彝山附近からで、これは汕頭市から潮梅の各地方に轉賣されるので、その販路は甚だ廣い。往昔は清明節の前になると春茶が登場し始めたものであり、其の頃になると汕頭の茶商は武彝山地方に入つて茶を購ひ、これを赤石壩地方に運んで焙製するのであるが、今ではその地方は匪勢猖獗なので、茶商の進んでその地に入らんとする者がない。その爲に茶源が斷たれやうとしたが、其時福建の製茶が運ばれ來つて僅かに愁眉を開くに至つた。建寧地方は武彝山を距てること二百四十里、治安は赤石に較べて稍々良好であるが、出貨は極めて少い。この期に乗じて臺灣茶が輸入され、百斤二十圓足らずで、十圓以上の差があつた爲、一時驚くべき多量の輸入を見るに至つたが、九・一八事件の發生後は輸入が減り、中國茶は僅かに體面を維持し得てゐる。

一一 海味

水産品は海參、蝦米、魚、墨魚、尤魚、沙蚶等其の種類甚だ多く、この内海參、蝦米は南洋群島の産出で尤魚は後宅、甲子、神泉、達濠、海門等に多い。毎年海味の汕頭に入るもの百萬元前後、海參は一擔九十元―二百元、

税金二十元―四十元なので海味商は餘りの高價に取扱ふものが少くなつた。

四六

一 二 京 菓

京菓は陸産品である、本市の京菓店は之を取扱ふもの二十餘軒、第二回の取扱者十軒、第三回の取扱者二百餘軒で、取扱品は香瓜、草瓜、冬菜、針菜、木耳、烏棗、百合、貢蓮、冬粉、三巴蘭米等で、これらは福州、新州、天津、鎮江、青島から入り來り、年額百萬元を超えたが、神權（おまつり）を廢除するやうになつてから消費額が急に減り、事變前で之を求めめる者は多くは酒樓、茶館のみとなつた。

一 三 汽 水

本市の汽水（サイダー）製造廠は大中美、中華、安和、北平、新發等の數軒に過ぎず、屈臣氏の總代理たる廣成一軒がその中で規模稍々大なるものであつた。本市内及び潮梅各地で賣上額月二萬元、其他の製造廠一萬餘元である。

一 四 製 氷

本市の製氷廠には大東、華潮の二廠があつたが、その中、華潮は臺灣人が經營してゐたので、日貨排斥で停業し大東一廠のみが残つた。解渴用の氷及び凍魚用の製氷をしてゐたが、油尾、甲子、遠藻等の漁場に送り、年四、五萬封度の生産に過ぎない。

一 五 漢 藥

市内に於て漢藥、生藥を業とするものは二百餘軒、熟藥を取扱ふもの二百餘軒あり、藥品の來源は多くは四川、吉林、雲南、山東、江浙等の内地、及び米國、日本からである。四川から汕頭に來るものは茶、淮山、川黃信子、川棟等が最も多く、東三省よりは人參、鹿茸が入つて來るが、これは價が極めて高い。雲南からは麝香が多く、江浙からは抗菊、山東からは杏仁、仙渣、河北からは黃芩、知母、甘草、其他の藥品が入り、毎年の移入額は計六百萬元に達してゐる。

外國からの輸入は割合に少く、米國よりの洋參、平砂、砂仁、木香、日本よりの高麗（人蔘）假洋參等で、その年額は數十萬元である。又土産の藥物は極めて少く、潮安の土茯、臨隄の射干、潮陽、揭陽の仙渣、及び淡竹、桑葉等があり、この内には南洋の泰、ジャワ、安南及び香港等に輸入されてゐるものもあるが、其の額は極めて少い。藥材の種類は植物質が多く、八割を占め、動物質のものが之に次ぎ一割二分、礦物は最も少くて八分に過ぎない。

一 六 西 藥

汕頭は年々内地其他各地より相繼いで人が遷居して來て、人口が日に増加した。文明も亦之に従つて日に進歩し、醫業に於ても漢方醫は漢藥を用ひ、西醫は西藥を用ひ、其の限界ははつきりとしてゐた。文明が愈々進歩し

四七

て西醫が漸く一般市民の信頼を得るやうになると、西藥の用途は日用必需品の地位に上せられ、商業不況の際でも西藥の賣行のみは仲々活潑だといはれる。

一七 卵 類

卵は鶏卵と鴨卵とに分けられる。市内の卵店は四十餘軒を數へてゐたが、近時十餘軒の倒閉を見るに至つた。本市に入る卵は潮陽縣の桑田、連藻、沙浦のものが多く、次は碓石、油尾のもので、年の移入額二百萬元、これは又、汕頭から出向される。その中香港向が最も多く、百萬元以上に及ぶと謂はれる。鶏卵は一元で六十五、六個、鴨卵は六十個で、輸出税は千個に付一元である。

一八 豆 業

本市の豆店は百餘軒あつた。この原料は營口、鎮江、天津、長江各地から來るもので、年百餘萬包、一包九元、消費先は本市及び韓江の上流地、梅縣各地である。賣行きは黄豆がよく、綠豆、扁豆、番豆が之に次ぐ。近時神權の廢除を勵行されるやうになつてから消費が非常に減つたといはれる。

一九 醬 園

本市の醬園(漬物)業は三十餘家で、これらは専ら蔬菜を醃製するので、これは南洋各地に輸出されてゐた。醃製廠は内地の各處にも開かれてゐたが、南洋の商業が日に衰落に趨くにつれて、醬園業も大打撃を受け、續々

と倒閉者を生じるに至つた。この醬園業者の失敗は又間接には潮梅地方の農業に影響し、之を甚だしく萎微せしめた。近時は農民にして菜園を維持經營するものは、往昔の六割以下に減じたといはれる。

二〇 餅 業

潮梅地方にあつて潮陽、貴嶼、潮安、意溪等は月餅の産地名があり、汕頭では香港より職人を招いて餅を製作するに至つた。以前はこの月餅なるものは著名で、毎中秋節には汕頭に運び込んで賣られるもの二萬元の多きに及んだといふ。

二一 酒 樓

本市には酒樓、茶房、茶館が合せて三十餘軒もあつた。商場が繁昌してゐたときは、一般富商、華客等は通宵曉に達し、皆肉林酒海に沈酔し、酒樓の營業は蒸々として日に上つた。然し近時商業の衰微は該業を沈湮させ、悲觀させてゐる。不景氣の影響の上に、當局が打牌時間を制限したことが料理屋を淋れさす大きな原因となつてゐるといふ。事變前辛うじて經營を維持せるものは陶芳、中央等の數軒に過ぎなかつた。

四 其 他

一 石 炭

薪炭、水、米等は日常必需品として缺くべからざる品物であるが、木炭の移入源は、大埔、松口、丙村、梅縣、西陽、三河壩、湯坑等であり、間々福建省からも入るが、その数は微々たるものであつた。市内で消費される額は毎年百餘萬元であるが、近時は來貨が非常に減するに至つた。其原因は二つあつて、一つは出炭地方で農務の收穫時期と炭の時期とが一時に重なり合ふこと、今一つは近時外國よりの石炭が安價に供給せられるに至つたからである。外國炭とは日本の基隆炭、佛印の鴻基炭等で、年の輸入二十餘萬噸、一噸の重量千六百七十斤、噸當り大洋十五、六元の安價である。其の消費量は年三百五、六十萬元といふ巨額に達するが、需要が多くて一元九十斤替である。これは梅縣、丙村の産出があると、頗る緩和し得るものと思はれる。

二 船 業

本市の船務公司是英國の太古、怡和、和通の三、ノールウェーの渣華、大信の二、日本の大阪、日清の二、中國側では招商局と、波寧、元亨、維記、豐順とがあつた。日本の大阪、日清の兩公司是、九一八事件後配貨が無く、て空しく廻航し來る有様であつたが、他の公司と雖も生氣がなく、南洋一般の不況で往來の貨物が極めて少く、それにシンガポールで華工の入國拒絶があつた爲、商況日に衰微する有様であつた。英國系の船務洋行は資本は雄厚であるが、前記の原因で近來の損失は相當なものであつたもの、數十年來、汕頭港を牛耳つてゐたその勢力は磨然たるものがあり、汕頭の交通は一つに外國系の公司に握られてゐたのである。中國側は曾つて航商法を立

て、自救の方法を講じたことがあつたが、總商局を除く外の公司是、外國の代理店のやうな存在で自主性がなく、偶々あつても租借船で、僅かな利益を得るに過ぎない有様であつた。韓江は潮梅地方の大河流で、上流には梅縣の五華松口があり、これより流に沿ふて大埔、潮安、澄海の都市がつゞき、航線甚だ長く、汕頭貨物の運輸、輸出入にこの水運を利用することが頗る多い。各地の韓江航運業者は工人十萬餘人を使ふ盛況さであるから、この韓江航業の盛衰は潮梅地方一帯に關係するところ頗る深い。この河を航行する船舶には梅縣人の篷船、潮安人の五肚船、四肚船、駁船があり、船工四、五萬人、雜役三、四萬人が雇傭されてゐる。篷船は、上流地方即ち三河以北にまで遡航し、五肚船、四肚船は三河まで上り、駁船は潮州、汕頭、潮陽を自由に往來した。一時モーター船が電船聯合を計つて利益を擧げんとしたが、數萬人の船工の生活を奪ふものとして、社會問題となり、その事止み、四肚船、五肚船も復活するに至つたが、其の後一載の不況で貨客ともに動かず、船業者は苦惱に喘いでゐる。

三 田 料

本市の田料（肥料）代銷處は三、四十軒あり、總てが英國、米國、ドイツ、日本から運んで來たものを取扱ふのである。日貨排斥があつてからは英國もの、フランスもの輸入が増加し、米國ものは「金」高で敢て扱はぬやうになつた。

田料は一包十八元内外であるが、實價は十元内外で、中山大學建設附加費、海關稅雜費に六、七元以上を要した。この田料の消費先は揚陽が最も多く、潮陽、潮安が之に次ぎ、年消費額二百餘萬元、その五割は揚陽に入つてゐた。中國の産出し得る田料は只この外國田料に混合する鳥糞のみである。この鳥糞の田料としての價値は遠く外國田料に及ばない爲、農夫はこの舶來品を争つて購入せんとするのである。元來潮安地方は韓江（東江）の流域にあたり、土地肥沃、物産の豊饒なところで、田肥としては從來は豆粕、落花生粕を用ひ、それに人糞、鳥糞を併用してゐたのであつたが、外國田料の輸入を見るやうになつてから、農人が争つて之のみに頼るやうになつたのである。この外國田料なるものはアンモニヤと硫酸との化合物なので、一時の増收を圖り得るが、土壤を變質すること驚くべきものがあり、これは憂ふべき現象とされる。

外國田料が中國に輸入されるやうになつたのは、清の末葉、光緒年間のことと、最初は英商の德肥洋行がこれを入れた。その時は商略上、これを「鳥糞」と名付て購飾し、利用を圖り、其の後、化製肥田料として農家の試用に贈つたりして普及を圖つたが、農夫はその用法を諳んずることが出来ずして失敗した。民國八年香港の廣利洋行は太極麥肥田料として賣出し、説明を加へ、各地で指導を行つたりして漸く擴まる氣運となつて來た。その時民國十年八二風災が起り、潮汕沿海地方の田圃は淹没して地質變變を來した。各農家はこれを開闢したが、在來の田肥では用ひても即效がないので、止むを得ず外國田料を利用するやうになつたのであるが、當時又豆粕が高かつ

たのと相俟つて、滔々として外國田料の使用を盛んならしめるに至り、これが習慣となつて、抜き難いものとなつた。

英商ト内門公司の月眉麥、ドイツ商、捷成公司の獅馬麥の肥粉が相繼いで輸入され、これらは相互に競争して販路擴張に大業となつたので、使用量はぐんぐと増し、民國十六年以後は二十餘萬包以上、二百餘萬元の巨額を輸入するやうになり、これが爲に國産の豆粕は大打撃を受け、一蹶不振を極めるに至つた。英商ト内門公司が田料輸入に覇を唱へてから新昌洋行、德記洋行、廣利洋行が大打撃を受けて相繼いで停業したが、其間オランダ商の裕農公司が双斧麥を入れて争つたが又失敗し、僅かに捷成公司の代理たるドイツ商愛禮司の獅馬麥が之を牽制し得たのみであつた。ここに日本商の三麟洋行が英商ト内門に對抗して起ち、一時はこれを逐はんとする形勢に至つたが、圖らずも九一八事件以來の排日の頻發で頓挫して仕舞つた。

本市の豆粕の需要は、從來は年四百餘萬斤を入れてゐたのであるが、外國田料の侵入と豆粕の高價とで賣行不振となり、取扱商で破産するものを見るに至つたが、近時に至り百斤六元といふ二元下落で漸く賣行を恢復し、又心ある農家のうちにも、永久の田料として耕土を肥厚させるのには豆粕に限ることを氣付くものも出來て、需要が漸次増すに至つた。又國産肥料の獲得を目指して、中華農礦公司在西沙群島の開闢に當り、其の鳥糞肥料を汕頭に入れんとしたのであるが、熱せざるうちに立消えとなつた。

四 肥 皂

五四

本市の肥皂（石鹼）製造廠には大成、鴻茂、源記、華興、振刷、平民、中和、大昌、光安の九軒があり、市内、渤海各地に福建省の詔安等販路廣く、輸入を合せて年約二十萬元の消費を示してゐる。本市製出の肥皂は、然し乍ら、質が不良で、漢口の祥泰製の鷲鐘標、及び上海の紹昌行のものに壓倒されて、業態は佳良とし難い。殊に香皂（化粧石鹼）に至つては、上海、香港よりの外國品が多く、本市の製造廠は光安一軒のみで、それもあまり賣行がよくない。

五 セメント

市内で販賣してゐるセメントには國産品と外國品とがあるが、國産を取扱つてゐるのは渣道、通安の二軒、外國産品を販賣してゐるのは有全、成豐、外一軒で三軒ある。國産のセメントは天津、上海、漢口から入市するのが最も多く、一年の移入二十五、六萬元、外國品は英、フランス、泰等から來油し、その數量は略々國産と匹適し、價格も大差がない。國産品では木馬牌が品質良く、外國品に匹適するやうになつたので、舶來の青州、烏龍は價格を下げて輸入の増加を圖つた爲、政府はこれに増税を爲し、備かに之を抑へ得るやうになつた。然し乍ら、近年一般の不況で建造工廠が閉息するに至つたので、自然セメントの賣行も香しくない。

六 煤 油

煤油（石油）は外國油と國産油とであるが、この外油が輸入されるやうになつたのは、さまで古いことでなく、中國とソ聯とが復交を見るに至らなかつた前までは、極く微量が英米から入つてゐたのみである。本市では國産油を製造する工廠のものを除いて、外油は香港、上海、廣州の英米油商から供給を仰いでゐた。國産油は本市でも出來、價格は一箱七元の安價で相當の賣行を示してゐたが、その製油原料は油渣を蒸溜して製成するのであつて、その原料は外油なのである。この外油の入市額は年六十餘萬箱、一箱十一元であつたが、ソ聯から油が入るやうになつて、光明、美大の会社が本市に華々、永厚の兩號を設けて代理店としてから俄然油價は下り、一箱賣九元となつたので、ソ聯油と英米油との間に激烈なる競争が起り、その影響は國産油に及んで、二十八軒をも數へた取扱店は四軒に減じて仕舞つた。近時になつて外油に特税を課し、國産油獎勵辦法を設けて實行するやうになつてから落付きを見せ、國産油も徐々に回復しつゝあつたのである。

七 建 築

本市の建築業の最盛期は數年前で、それは道路が開闢され樓屋が構築されたときであつた。其後本市の商業は匪禍の影響を受けて一時伸びなかつたが、近年に至つて、金價が高漲して外匯が増加し、それに南洋華僑の錦衣歸郷したものが殖えて家屋を構築する者が多くなり、建築業は一時非常に榮えた。其の後建築材料が騰貴するに至つて着手難に悩んでゐる。

五五

八 油 漆

本市の油漆(塗料)店は十二軒あり、原料の生漆は長江筋及び安南から入つてゐるが、長江筋の漆は安南のものに比して高價である。年輸入額は約三十四、五萬元に達するが、その内油漆となつて泰、ジャワに輸入されるものが十四、五萬元である。近時は内地の不安と富者が建築を避けること及び南洋一帯の不況で消費は舊時の五割に減じたと云はれる。

九 蘇 廣

蘇廣(雜貨)業なる名稱は中國が開港をしなかつた以前に國內手工製品に對し付けられたもので、それらの雜貨品は蘇州と廣州とものが特に優れてゐたからこの名を得たのである。その賣る所の雜貨は種々雜多で小資本商人の扱つてゐるものである。海禁が解かれて舶來機械による製品が進入して來ると、その精巧さ、廉價さは到底手工業品の及ぶ所でないが故に、何時のまにか蘇廣業者は洋貨をも取扱ふやうになり、名稱の如きも蘇廣行を改めて蘇廣什貨行とするやうになつた。百貨店はこの蘇廣の改造されたものと見ていゝのである。

一〇 火 柴

本市の火柴(マッチ)は多く上海、日本から仰いでゐたのであつたが、年來の日貨排斥で日貨は遂に尠少となつた。こゝに於て中國製品が漸く市場に伸びるやうになつたのである。

マッチの輸入は年二萬餘件、一件千包、民國十七年にスエーデン製のマッチが價格の低廉を以て市場に現はれ、本市にも裕徳公司なるものが設立されて其の代理店となり、民國十八年には輸入九千五百七十三件、一件大洋二十七元であつたが、その年日本との間に和親がなり、日本より一萬一千六百八十六件を輸入し、スエーデンを壓するに至つた。

中國のマッチ製造は、その原料を外國に仰ぐので、價格が非常に高く、日本、スエーデンの輸入品に到底及ばない。その爲に中國マッチ廠は何回も事業を起して結局倒閉したものである。然るにスエーデンに於てマッチ王が自殺してより輸入がとぎれ、日本からも日貨排斥で入貨が無いやうになつて、國産マッチは勢を得るやうになり工場が設立さるゝもの三、その販路は頗る暢びやかなるものとなつたが、其の製品は到底潮梅一帯迄への需要に應じ得ない微力さである。

一一 牛 皮

本市に於ては牛皮を業とするものは二十餘軒を數へ、事業が非常に暢旺であり、營業の最大なる聯成、昌隆の如きは毎歲南洋から運び來るもの百餘萬元の多きを見てゐたのが、打續く不況と南洋の不景氣で相繼いで倒閉するものを生じ、現在では唯五、六軒のみといふ凋落振りである。この原因の一是海關稅の加重と特捐で、二倍以上に増し、それに鞣皮材が來なくなつたこと、仕入の方法が拙劣であつたこと等から、商人が舶來の靴を仕入れ、

或は西歐の原料を用ひるようになり、牛皮業は一落千丈の苦境に陥るに至つた。

五八

廣東金融事情概況

(昭和十九年第一・四半期)

一 一般概況

本期當初に於ては一般民需物資の入荷杜絶勝ちの上に、戦局に關聯せる敵側の事實無根のデマ放送に因り、金塊、舊法幣、米價等が急騰せるため、諸商品も追従して軒並に上昇し、一月中旬財政廳は金塊取引の取締に出たので、高値警戒は一時軟化の傾向であつた。然るに舊正明け、先高見越に例年の如き舊正決濟期に於ける物價低落も見られず、殊に華商の買氣擡頭した上に、二月一日より輸入税が従來の從價税より從價税に改められ、又一部商品に對する統稅引上實施のため、商品は軒並に上昇歩調を辿つた。

二月下旬の電力節減實施と米價昇騰等に刺激せられ、換物人氣は益々旺盛となり、物價暴騰の氣配濃厚にして、三月中旬香港の米配給停止に刺激されて、遂に米價の百斤六百圓、金塊の一兩四千圓突破を首め、諸商品は常軌を逸した暴騰振りを示し、民生安定上放任を許さない状態に陥つたのである。茲に於て南支軍當局は強硬なる聲明書を發

表し、省政府財政廳は流言蜚語の根源と目される兩替屋の全面的營業停止、省政府手持米の放出等非常措置を執つたので、三月下旬米四百圓、金塊三千圓見當に戻り、投機物資も亦概ね急反落を示したが、尙奸商の策動を完封するため、日華兩當局協議の結果、粳、米、落花生、落花生油、砂糖、小麥粉、豆類、燐寸、綿絲、綿布、金及び金製品、銅及び銅製品、並に鐵等の重要物資十三品目の在庫高の申告制を實施し、以て囤積居奇の取締を強化した。金融機關に於ては物價昂騰に伴ふ投機資金の移動活潑であつたが、銀行は特殊筋に對する融資以外は、新規資金の放出を抑制したため、金融は依然梗塞状態を持續して次期に推移した。

二 商 品 市 況

一 生 絲

生絲は一月中に産地よりの搬入八十擔、二月中に三十擔の出廻りがあつたが、舊正の決濟資金手當のため手持筋の處分が出で、一月九十擔、二月三十擔見當の商内があり、相場は他の商品に追隨して七千元臺に上つた。三月に於ては産地の在庫も愈々枯渴し、出廻りは僅かに九擔で、商内は極めて閑散であつたが、一般物價高に伴ひ、十萬元臺を唱へ、下旬は七萬元臺に低落して越月した。

二 雜 糧

五九

一月に於ては落花生油一斤八十元替にて約二十七萬斤、小麦粉は三百八十元八十仙にて五千五百五十俵、二月に於ては落花生油一萬三千斤、小麦粉三千七百袋（業者向七百二十元）、大豆、赤小豆八百五十袋の入荷があつたが、實需を充つことが出来ず、一般物價高に伴はれて何れも三、五割乃至六割騰貴した。三月に於ては全品目共配給がなく、市中の在庫數量も薄いので、商内の見るべきものがなかつたが、中旬米價の暴騰に伴ひ、小麦粉は四千元元、落花生油は二萬三千元元、その他豆類等何れも極めて強調であつた。然るに三月下旬日華兩當局の非常措置に因り、夫々高價より三割乃至四割方の急反落を示して高價警戒裡に越月した。

三 綿糸布

本期に於ては三月中旬に特殊筋に對し綿布四〇反、綿絲二〇番手五十二梱の出荷以外一般民需用の配給は無く、市中現物拂底の状況にて僅かに相を數束に分割賣買し、四圍の情勢に刺激されて飛躍的に暴騰し、一月には綿絲二〇番手十六萬元、晒金巾五千八百元、細布五千元を唱へ、二月は綿絲二〇番手二十二萬元、晒金巾九千元、三月中旬は綿絲四十八萬元、晒金巾一萬五千元を唱へたが、下旬には綿糸二十八萬元、晒金巾一萬元に夫々急反落した。

四 砂糖

一月に於ては臺灣糖六百二十四擔、邦人家庭向五百五十五元十七仙替、業者向七百八十元替、赤糖六百九十二擔

華人向八百元にて夫々配給があり、配給量は先月に比べて激減し、市中も品薄のため相場臺灣糖四千一百元、赤糖二千元を唱へた。

二月には一般民需向一千五百擔三千元替、邦人家庭向二百四十擔五百七十五元替、邦人業者向六百六十九擔七百八十元替にて夫々配給があり、其の上順德糖も多少出廻りがあつたが、原價高と米價高により上昇歩調を辿つた。

三月には邦人家庭向白糖四百擔千二百二十五元六十一仙替、一般民需向白糖一千六百五十擔四千五百五十五元五十六仙替、赤糖七千五百八十六擔一千六百八十九元替にて夫々割方豊富に配給があつたが、順德糖の原價高（擔に付四千四百元見當）のため市中値は依然配給値を上廻り、然し乍ら他の商品に比し相場の變動は甚しからず、即ち上旬五千三百元、中旬六千二百元、下旬五千五百元並に保合越月した。

五 水産物

本期に於ては日本産鹽干魚の入荷全然無く、沿岸物は一月中天候悪きため先月に比し入荷減少し、二月は香港、澳門より多少入荷があり、三月中旬は同じく十數萬斤の入荷があつた。相場は品薄のため一月に於ては沿岸物の上等品三千八百元、中等品三千一百元、下等品三千一百元で、前期末に比し四割方の昂騰を示し、殊に野菜類等副食物高に賣行きは頗る良好であり、また三月下旬の諸物價反落にもかゝらず、何等の影響もなく強調裡に推移した。

(華銀)

海口金融事情概況

(昭和十九年第一・四半期)

六二

一 一般市況

舊正月前は中國民衆の祝賀用品購入に依り市況盛況を呈したが、舊正月以後は閑散期に入った。之に加へ對岸交易は本年に入るに及んで、種々の事情に依り殆ど取引なく、爲に物資缺乏を來し、自然物價の昂騰を促し、就中綿布其の他日常必需品の昂騰は其の極に達してゐる。又奥地上産品の輸入も活潑ならず、市況低調、暗雲低迷の裡に推移した。

二 物價狀況

前期より上昇の一途を辿り來つた諸物價は、本年一月に入り舊正月を迎へるや俄然急騰した。即ち舊正月用食料品(豚肉、鹽、冬粉、鹽魚)、紅紙(新年祝賀紙)、薪、陶器及び化粧品等は購買力特に旺盛にして昂騰の一途を辿り、消費に反して日用必需品の缺乏益々甚だしく油類、化粧品類等の在庫殆どなく、中國醬油の如きは二月中に百斤二百五十圓より一躍四百五十圓へ、更に百圓方暴騰した。肉類は三月に入り産地高と出廻り不圓滑の爲、市

場では指定價格より概ね二割乃至二割五分方の増値を以て取引せられて居り、一部では秤賣を廢し見當賣りを爲す等甚だしい状態である。

煙草は「常夏」一箇一圓五十錢(二月)から二圓(三月)に上り、公定三十錢、「南星」は五十錢(公定二十錢)の相場を唱へる現状にして、一部中國人間には之等日常生活必需品の配給制を望む聲が巷間に傳はつてゐるが、煙草等の配給は依然として潤澤に行はれてゐない。

土産米では一月中前期より稍々上昇し、每斗二十七、八圓であつたが、三月の端境期に入ると漸次品薄となり、之に加へ流言蜚語に禍はされて一時奔騰し、政府の「戰時物價管理暫行條例」發布に依り、漸く一時轉落、一服状態となつた。

雜糧は二月以來大體保合であつたが、強含みである。今瓊崖交易協會調査の小賣物價指數を示せば左の如くである。(皇軍上陸直前を100とす)

昭和十八年九月	八一〇
十月	八八〇
十一月	九八〇
十二月	九九〇
昭和十九年一月	一、一三〇

純金相場は需要旺盛にして、一月中は前期末に比し毎兩約四百圓昂騰して一千七百圓となり、二月に入るや俄然

六三

活潑なる動きを見せ最高三千圓と氣狂ひ相場を稱へ、三月には三千七百圓となり、尙昂騰の氣配濃厚である。之が原因を探究するに

- (一) 物資減少により浮動資金の換金氣配濃化せること。
 - (二) 廣東、廣州灣方面の純金相場騰貴せること。
 - (三) 舊正月並に春季遊神の祭に當り婦女子の實需旺盛となつたこと。
 - (四) 金舗業者の相場操縦のあつたこと。
- 等である。

三通貨事情

一月中海口市内に於ける舊法幣の流通は見受けられず、奥地に於ける舊法幣相場は漸次低落し、舊正月用品購入の爲軍票の需要多く、舊法幣相場は稍軟調を辿りつゝあり、従つて舊法幣に對する信頼も漸く遞減したかに見えたが、二月に入るに及んで海口市周邊地區は軍票十二圓五十錢（協定相場六圓）、奥地は軍票十五圓を稱へ、三月には遂に對軍票相場二十一圓と強調、漸騰氣配濃厚である。

銀貨は二月中軍票六圓二十錢であつたが、三月には十圓となつた。然し一般に之が死藏をなす者多く、市場には

餘り流通して居ないやうである。

四軍票回送高

一回送高	一月	二、〇〇〇圓
文昌向現送	二月	八、〇〇〇圓
澄邁向現送	三月	三、五〇〇圓
二回送受高	一月	三、〇〇〇圓
澄邁より現送	二月	四七、一四五圓
文	三月	七三、七〇三圓三〇錢
昌	二月	二九、三三五圓八六錢
	三月	

(華銀)

南方の黄麻栽培

一 東亞共榮圏の黄麻需給状態

黄麻は棉花と共に東亞共榮圏内に於て現在最も缺乏せる二大纖維の一つである。マニラ麻といへば直ちに比島を思ひ出すのと同じやうに、黄麻といへば印度を思ひ出すのが常識である。即ち印度は全世界の黄麻産量の九九%を占め、(一九四〇年に於ける世界黄麻生産一千七百六十萬噸の中、印度より千七百四十萬噸を産し)殆ど獨占的な地位を確保して居るからである。

黄麻纖維は紡織用としてはガンニー袋及びヘシアンクローズの原料となり、ガンニー袋は米、砂糖を首め、その他の雑穀、鹽、澱粉、コブラ、銻石類の包装用とし、ヘシアンクローズはテント、カーテン、敷物、工場用品等に利用せられ、尙紡織用の外、綱索用(ロープ類、荷造紐)、製絲用(蠶の縦絲、綴絲)等その用途は頗る廣い。其の

中最も多量に使はれるのはガンニー袋である。

東亞共榮圏内に於ける黄麻袋の所要見込量は第一表の如く大略合計三億枚で、之が所要黄麻は一枚當り平均を二斤と見積れば約六億斤、即ち三十六萬噸を必要とするのである。之に對し東亞共榮圏内に於ける生産状況は第二表の如く僅かに四千三百餘萬斤にして、これに少量ながら内地及びタイその他の各地に於ける若干の生産を入れても五千萬斤足らずであり、従つて第一表の所要見込量から觀れば三十三萬噸の不足を生ずることになる。この不足量は現在の日滿華の食糧自給上からみて増産を期待することは出来ず、その増産は是非共南方圏に依存しなければならぬ。幸に南方各地は高温、多雨にして黄麻の栽培に適し、之が増産對策は急務中であることは何人も首肯し得るところである。

(第一表) 東亞共榮圏内に於ける黄麻需見込量

日 本	三千七百萬枚
滿 洲	五千萬枚
中 國	七千萬枚
フイリピン	二千萬枚
佛 印	二千六百萬枚

タ	二千六百萬枚
ビ	四千一百萬枚
東	二千四百萬枚

〔備考〕 昭和十八年三月二十二日東亞經濟懇話會臺灣委員會第一回總會に於ける中辻臺南製麻事務の發言要旨による。

(第二表) 東亞共榮圈内に於ける黃麻生産量

泰	一三、四二千斤
滿	一〇、〇〇〇千斤
中	一〇、〇〇〇千斤
佛	三三三千斤

〔出所〕 「東亞經濟論叢」 昭和十七年三月號二八八頁による。

二 黃麻の性狀と産出狀況

黃麻は元來熱帯地方の原産であるからその生育中には高温(平均氣温年六七度)にして多雨(生育中平均三〇〇—四〇〇耗)、而も空氣の濕度の高き地方が最適である。土壤としては暴風雨の通過せざる肥沃なる地域にして、地中に水濕の停滞することなく、又乾燥に過ぎるのも不可である。一般に河川の氾濫による肥沃度の沈積地域は栽

培の好適地にして、施肥する必要がない。

世界的黃麻の産地たる印度のベンガル州は最も之に適した立地條件を有し、同地はガンヂス、ブラマプトラ兩河の氾濫する肥沃土の沈積をみる流域地、殊にその分岐せる三角洲の如き沖積土地帯が最も理想的な栽培地である。而も黃麻の收穫には多量の勞働力を必要とするので、此の點印度に於ては相當の餘力を持つて居るのであるから、印度は最も黃麻の栽培に適し、それが今日世界的に占める比重の大なる原因をなし、他の追従を許さぬ處である。印度のほか主要産地としては我が臺灣を擧げることが出来る。その量は未だ印度に匹敵すべくもないが、世界第二位を占めて居る。本稿に於ては主として南方圈の黃麻につき調査をすゝめることとし、臺灣の黃麻作については深く觸れないことにするが、臺灣産の黃麻は印度産に比し稍々粗剛なる點で劣り、その他は幸も印度黃麻に比し遜色することなく、將來精洗麻製造技術の向上と共に、必ず印度製品を凌駕することは必至であるとみられて居る。只同じく臺灣に於ても高雄州産のものは他州に比し遙かに優秀であり、今日に於ては質より量が問題であるが、生産増強は質も量と共に向上すべきである。品質粗悪なるものゝ混入は紡績作業に支障を來し、作業能率を低下せしめ、徒らに資材勞力を浪費することになるので、將來高雄州以外の製品も相當技術的改良の餘地が多分に含まれて居り、品質の整一が第一條件であることは製麻會社の切なる要求であることを附記し、決して量のみをたのみて質の低下があつてはならないのである。



臺灣以外中華民國、滿洲、日本内地に於ても栽培されて居るが、その量は問題とするに足らぬ程度である。東亞共榮圏以外ではブラジル、エジプト、ロシアその他各地に於ても試作されたが、何れも失敗に歸し、かくて印度は永久に黄麻界の王座を占めて動かぬ。

次に東亞共榮圏内に於ける黄麻需給状態から見て、黄麻纖維の自給自足體制の確立に於て、大東亞産業の綜合的立地的再編上、その開發は南方圏が重要な立場に置かれて居ることは勿論であり、南方に限り多量生産の急進化が期待されるのである。然るに南方圏現在の農業經濟性格と其の技術程度を以てしては、その隘路が打開せられるものでないことを知らねばならぬ。そこに我が臺灣の技術導入が是非共要請せられる所以であり、現に臺灣の技術陣及び關係商社が佛印を首め、比島、タイその他の各地に於て活躍せられ、黄麻を中心に臺灣と南方圏の結ぶ紐帯は愈々緊密に結束されつゝあることは、本島に於ける過去の熱地研究に對する成果を物語るものにして、臺灣の熱地研究は今後は單に過去の如き試験程度に止まらず、新種の育成、栽培技術の改善等に突入すべきであり、臺灣の使命は一段と加重されるのを思はしむるのである。

三 佛印の黄麻

一 佛印の黄麻栽培事情

現在南方に於ける黄麻の栽培適地として第一に擧ぐべきは佛印である。佛印の中でも東京州及び安南北部が最適地で、特に東京地方のデルタ地帯は印度のベンガル州に於けるガンヂス、ブラマプトラ兩三角洲地帯とすべての點に於て類似するところが多いので注目されて居る。即ち兩地方は同一緯度であり、高温、多濕であり、河水の増水氾濫の時期も様相が酷似して居る點に於て、黄麻の隘路打開の第一工作は先づこの地帯から開拓するべきである。而も東京地方は人口稠密で、黄麻の精製に要する勞力の供給は安易に得られ、之に臺灣の技術を導入すれば増産は充分可能であり、將來は大に期待されることである。更に佛印が東亞共榮圏の確立上に於て占める重要な位置にある米と玉蜀黍と共に、黄麻が重要産業の一つとして擡頭することは、佛印に於ける農業經營の多角化の上からみても極めて重要な意義を有するものである。

過去に於ける佛印の黄麻生産をみるに、その作付面積は第三表の如く僅か二、三百ヘクタールにして、而も逐年減退の傾向にある。また其の栽培は主として玉蜀黍や米の間作物として栽培せられてゐるので、産量も甚だ少く、一般に黄麻の栽培に對する認識は非常に缺けて居る。

(第三表) 佛印に於ける黄麻栽培面積表

計	輸出		新	入	
	数量	金額		数量	金額
バク・ニン		五〇・〇		一〇九・五	
ハイデユオン		六・三		七・九	
ハ・ナ		三六・三		一〇〇・〇	
ユン・エン		三七・一		一〇七・五	
キン・ナン		八・一		九・九	
ナム・デイン		五六・八		九一・〇	
ニン・ピン		三二・八		五〇・〇	
タイ・ピン		一二六・八		四一七・二	
計	三五四・二		八九三・〇		

(第五表) 佛印に於ける黄麻の輸出及び麻袋の輸入状況

年次	輸出		新	入	
	数量	金額		数量	金額
一九三九	一五二	二七二	一九、九八九	七五九	
一九三八	三八二	四〇	二五、二三一	一、〇六四	
一九三七	二二七	二二六	二七、九五九	一、八八〇	
一九三六	三七	四二一	三〇、五二五	三、八六九	
一九三五	二四八	二二一			

二 佛印に於ける邦人商社の黄麻栽培

佛印に於ける黄麻栽培の立地條件が絶対優位にあり、而も佛印側に在りても各地の試験所に於て栽培研究に従事し、優秀なる成績を擧げて居るが、助長行政機構の不備と、農民に對する指導に善處を缺き、その爲に黄麻の栽培獎勵が計畫されても一向進捗せず、百年一日の如く原始的農業の段階に止まり、更に立體的増收に至つては絶対に望むべくもない状態であつた。

昭和十六年九月帝國政府の計畫により結成せられた官民合同の佛印資源調査團に於ても、特に黄麻班の組織があり、臺灣總督府よりも技術員を派遣して調査研究に當らしめ、その結果昭和十七年三月臺南州技師江副辰次を團長に、以下五十名の指導員が佛印に渡り、同月二十五日河内に到着し、資源調査團長横山公使と大使府西貢支部三宅清水領事の強力なる支援を得て直ちに開拓に着手した。

七六
當時佛印側では河内東方カナル・デ・ラビッドに沿ふ肥沃な土地を豫定して居たが、調査團が實地調査の結果は、既に玉蜀黍、芋その他等が栽植されて居たので、不得已他を選定することになり、結局當時休閑中の十月作米田を選定し、かくて種子の到着と共に團員は第六表の如く四班に分ち、本部は河内の東北地方約二十軒河内バクニン街道の中間にあるフイツソン村に置き、三月の適期を過ぎて四月八日に始めて耕作に着手し、適當な土地に播種されたのである。

その栽培地域は十月作米田の空閑地にして雜草繁茂し、その土質は柔粘、而も保水力が無く、耕作當時は乾燥して鋤も通らぬ程であり、更に指導員と農民との間に於ける言語の不通はまだしも、一般に南方の住民は作業能率が低く、臺灣の三分の一程度に過ぎず、かくて指導員は種々な困難を克服して、七月二十五日より收穫を開始し、六百五十石見當の成果を得た。各地により收穫成績に差異はあるが、第四班のヘクタール當り精洗麻の收量は一・八トンにして、當初豫想の三倍に達する好成績であつた。即ち臺灣種は佛印の在來種に比し著しく優位性であることが立證せられたのであるが、種子の現地自給と、現地の風土に適合する品種の研究により、今後は一段と増産が期待される。

尙、昭和十七年度に於ける日本側の黃麻試作と歩調をとり、佛印側もその近接地帯に於て約一千ヘクタールの黃麻栽培を試作した。佛印側の要する種子は同じく臺灣産のものにして、臺灣より取寄せたる種子の中から東京州

農業技師ジャンン氏及びバクニン州知事の要請により夫々二百五石、三四石を與へたのである。

越えて昭和十八年度に於ては、日・佛印最初の農業合作として、臺拓ほか在ハノイ邦人商社十二社は、ハノイから南定(ナム・ディン)に至る紅河流域地帯及びハノイから東方セツトバゴドに至るラビド運河地帯に於て左記(第七表)割當により約一萬ヘクタールを豫定して、三月二十日前後より播種を開始し、八月に收穫を見、何れも前年度の試作に比し良好なる成績を挙げ、年産六千トンの第一年度目標を見事に達成し、目下五年計畫事業の繼續中である。

佛印に於ける黃麻の栽培に當り、今後特に研究を要すべきは土地問題、玉蜀黍との輪作關係、優良品種の選定、買付價格、播種期、株間、施肥等の技術的問題に至るまで尙一段の工夫改良が必要である。殊に價格の點については、一九三八年度トン當り僅かに八〇ピアストルであつたものが、逐年騰貴を示し、一九四二年度の試作黃麻のうち八百五十ピアストルにて取引されて居るものがあり、適正價格の設定又はその他莫荷上適宜なる措置を取ることが要望されて居る。

(第六表) 佛印に於ける黃麻栽培臺灣指導團の分擔表

班別	所在地	面積	積	人数
第一班	クンバン		三二五	一八
第二班	チャンレイ		一六〇	一四
第三班	タムソン		一五五	一二
第四班	フウーラオ		六〇	三
計			六九〇	四七

〔備考〕(一) 第一三班は本部の各一里以内の近距離にあり、第四班は河内の東北約五十軒セバゴの近くにある。
 (二) 團員五十名の中、三名は病氣のため中途降参した。

〔第七表〕 昭和十八年度佛印に於ける黄麻栽培割當面積

會社別	割當面積	備考
臺南製麻	一、五〇〇	
日本棉花、三井、三菱、大同、又一	各 七〇〇	
東洋棉花、江商、大南公司	各 四〇〇	
三興、大丸	各 二〇〇	
計	八、一〇〇	

〔出所〕 第一表に同じ

四 タイの黄麻

タイの農業は著しく米作に偏重して居るので、最近政府は農業經營の多角化に積極的に乗り出し、棉花、黄麻その他の新興農産物は急激な増加を示すやうになつた。

黄麻はタイ米の輸出に缺くべからざる麻袋の製造に絶対必要であり、之が自給確保は緊急に解決を要すべき問題にして、タイ政府は一九三九年より新に黄麻栽培奨励費を豫算に計上し、その額は一九四一年三十萬銖、四二年十九萬八百銖で、外に四二年度には黄麻工業振興費が六萬銖計上されて居た。

タイに於ける黄麻の生産状態を見るに、アユタヤ縣バン郡地方に於ける栽培は、その品種は臺灣の青皮種に

似て施肥除草もしないがその發育は至つて良好であり、その上病蟲害もなく、收量は殆どインド産のものに匹敵する程の成果を収めて居る。尚タイの農家經濟の主軸を占める米との收入比較に於ても著しく有利な條件にあり、タイ農務省は一ライ當り純益六十銖乃至百銖であると發表されて居る。従つてタイに於ける黄麻産業が發達しないと云ふ一部の見解は、必ずしも當を得たものではなく、只此處に懸念されるのは黄麻の開花期に必要な熟練労働と纖維製造に要する技術の缺如が難點で、殊にタイ人は水浸分解法を知らず、青田のまゝに印度人に賣渡すか、又は粗麻に製するか程度である。

由來タイに於ける黄麻の用途は主として結縛用に限られ、生莖より木質部を除いて乾燥したもので、臺灣の粗麻に當るものである。タイに於ては精洗麻の製造は殆どその經驗がない。今より約三十年ばかり前、印度政府よりタイに於ける鐵道建設指導のために雇はれたクローオードなるものが、會つてベンガルに居住したことがあり、この人によつて纖維の浸解法が一部の地方に傳へられた。即ちクローオードは印度より取寄せた黄麻種子をクロンラシットに程近いラム・ルカ郡の米田内に播種せしめた。此の地方の土壤は頗る粘土質にして、黄麻の生育に不適であり、收量は期待される程でも無かつたが、製造した纖維の品質は印度に劣らぬ良好なものだと謂はれて居る。タイは到る處に水が多いので、精洗作業は比較的容易で、その指導のため我が臺灣の技術を導入すれば充分に期待されるであらう。

タイ政府は一九四一年十月二十八日訓令を以て黄麻纖維の輸出禁止を布告し、賣品として搬出した黄麻に對しては數量の如何を問はず、政府は他作物との均衡と奨励の意味に於て、適正な價格を以て全部これを引受けることになつて居る。従つて製品は中間機關に搾取されたり、或は消化し切れない危惧は無い。又大東亞戰勃發前迄は國內に製麻紡織工場が存在がなく、今日タイ經濟の自主性回復は當然國內に於ても輕工業振興を必要とするので、從來殆ど印度より輸入してゐた麻袋の自給化に乗出し、愈々麻袋製造工場を設立することになり、既に機械は日本に發注して居る。

要するに過去に於けるタイの黄麻産業の不振は、稻作に對する傳統的執着と、黄麻の市價不安定も一因はあるが、タイの黄麻産業の發達は、英領印度の産業とは對立相剋の立場にあり、タイの金融經濟勢力が完全に英國に掌握されて居た過去の實情から見て、當然發達すべくして發達し得なかつたともいへる。

因にタイ農務省の選定した黄麻適地は次の如くである。

北部地方 スコタイ、ピサヌローク、ピチット、ナコーン・サワン、ロブプリー、サラプリー、ナコーン・ラチャシマー
中部地方 チャイナート、シンプリー、アーントーン、アユタヤ、スパーン・プリー
南部地方 ベチャプリー、ラーチャプリー、カンチャナプリー、ナコーン・パトム

五比島の黄麻

比島に於ける天然要素は黄麻の栽培に適し、品種の選擇、栽培法に宜しきを得れば、經濟的に不利な作物ではない。殊にA型氣候に屬するルソン島西部ネグロス、パナイ、ミンドロ諸島の立地條件は寧ろ臺南よりも優位にある。従つて之が増産を圖り、自給自足の途を講じ、併せて比島の農業組織を漸次多角的農業經營に進展せしめる上から見ても又必要である。

比島に於ける黄麻の増産計畫は昭和十七年より昭和二十一年に至る第一次五箇年計畫に於て、初年度は二十町歩の小規模の試作程度に止まり、これによつて適當なる種類の選擇及び採取を行ひ、第二年度は百町歩に増加し、この二箇年の試験的栽培によつて相當なる經驗が積み重なることになり、第三年以降は本格的栽培に乗り出すべく、逐次躍進的に増加し、第五年度には合計四千町歩の黄麻栽培面積を獲得する豫定で、これにより年産六千噸の收穫を期して居る。黄麻栽培の企業擔當者としてはダバオ州に三菱商事株式會社、アグサン州に三井農林がこれに當り、夫々當初の計畫に従ひ、目下開發増産に挺身しつゝある。

比島に於ける栽培計畫は次表の如くである。

比島に於ける黄麻年度別増産計畫面積 (單位町)

第八表

年度別	直營	契約	計
第一年度	二〇	一	二〇
第二年度	五〇	五〇	一〇〇
第三年度	三〇〇	七〇〇	一,〇〇〇
第四年度	六〇〇	一,四〇〇	二,〇〇〇
第五年度	一,〇〇〇	三,〇〇〇	四,〇〇〇

(備考) 第一年度は昭和十七年
年度は植付年度
(一) 田所、比島軍政監部軍政公報、第七號二七頁に依る
(二) 川所、比島軍政監部軍政公報、第七號二七頁に依る

第九表 比島に於ける黄麻増産面積及び生産目標

年度別	面積		生産量	
	直營	契約	直營	契約
計	計	計	計	計

英國に隷屬されて居る印度の輸入が杜絶されたので、自給自足のため緊急なる對策が必要となつて來たのである。

昭和十八年三月麻類暫定處理要綱と黄麻栽培五箇年計畫を決定し、有力邦人商社日本棉花、江南、千田商會、小原製麻の四社が擔任することになり、既に黄麻栽培組合も結成せられた。初年度の昭和十八年度は一萬エーカーの水田を黄麻栽培に轉換し、マウビン縣を中心に積極的な栽培が行はれて居る。

ビルマに於ては黄麻の栽培經驗が乏しいので、此處も臺灣の技術を導入し、種子も臺灣産のものを使つて居る。

泰國輸出入品物價概況

一 輸出品物價概況

主なる泰國輸出品二十五品の昭和十六年、十七年、十八年の三箇年間に於ける物價指數を見るに、輸出品の大宗たる米は十六年中は平均一割方下落し、十七年下期より微騰を続け、十八年に於ては平均三割方の騰貴を見、同年十二月は指數一一九と約二割方の騰貴率を示した。

今十八年十二月に於ける騰貴率の最高なるものより順次に列擧すれば、第一は實棉であつて十七年迄は微騰を示したが、十八年三月に至つて急騰し、十二月には實に指數六九八と約七倍に暴騰した。次はマイヤン材及椰子油であつて約五倍、皮革類は約四倍、蓖麻子、燕巢及マンゴローツバーク等約三倍、チーク、タンダステン、大風子、タピオカ等は二倍の騰貴を示し、下落してゐるのは生護謨、カボック、屑鐵等の三品で、總平均七割の騰貴率を示して居る。輸出品物價指數調査要項並に之に因り得られた物價指數は次の如くである。

一、調査品目並にウエイト

ウエイト	品目數	品	目
二五點	一	米	
五點	四	生護謨、チーク、錫、タンダステン	
一點	二〇	椰子油、實棉、カボック、蓖麻子、大風子、タピオカ、鹽牛皮、乾水牛皮、鹿皮、燕巢、屑鐵、スチックラック、燐	
計	二十五品目	六十五點	

〔註〕(一) 物價は市中相場を採つたが

品名	単位	昭和十八年十二月	昭和十五年十二月	昭和十八年十二月	昭和十五年十二月	昭和十八年十二月	昭和十五年十二月	昭和十八年十二月	昭和十五年十二月
牛骨	担	一八〇	一〇〇	一八〇	一〇〇	一八〇	一〇〇	一八〇	一〇〇
マイセン材	立方尺	一六〇〇	一〇〇	一六〇〇	一〇〇	一六〇〇	一〇〇	一六〇〇	一〇〇
ダマール	担	三〇〇〇	一〇〇	三〇〇〇	一〇〇	三〇〇〇	一〇〇	三〇〇〇	一〇〇
肩鉄	担	三〇〇	一〇〇	三〇〇	一〇〇	三〇〇	一〇〇	三〇〇	一〇〇
スチックラック	百斤	三〇〇	一〇〇	三〇〇	一〇〇	三〇〇	一〇〇	三〇〇	一〇〇
マンダローウバーク	担	二〇〇	一〇〇	二〇〇	一〇〇	二〇〇	一〇〇	二〇〇	一〇〇
照合		一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

(縦谷〇〇會調)

九〇

二 輸入品物價概況

次に輸入品六十五品を七類に大別し、其の種類により昭和十八年十二月の物價指數を見るに、輸入品は悉く暴騰し、殊に金屬類は昭和十五年十二月に比し平均十六倍の昂騰を示し、丸釘の如きは一樽六銖五十士丹のものが三十五倍即二百銖以上の高値を唱へ、次は織物類にして平均十五倍騰貴し、黒染金巾の二十八倍、捺染ポプリンの二十五

倍を最高とし、藥品類も亦暴騰し、平均十二倍となり、硫酸の如きは四十倍近くに達し、其他纖維製品類十倍、雜

貨類九倍、食料品類八倍、陶磁器、硝子、鐵器類六倍となり、總平均十倍を示して居る。

尙日本よりの輸入品は、支那事變以來大東亞戰爭後も多量の見越輸入があつたため在庫豊富である。輸入品物價指數調査要項(昭和十五年十二月基準)並に之に因り得られたる結果は次の如くである。

一、調査品目(單位價格)

(一) 織物類、九品

品名	單位	金額
生地綿布	一米	〇・二八
晒金巾	一米	〇・二三
晒CBポプリン	一米	〇・二七
捺染ポプリン	一米	〇・一五
カーキードリル	一米	〇・七〇
黒染金巾百本	一米	〇・一七
スフサージ	一米	〇・四五
人絹鹽湖晒	一米	〇・三五
絹人絹交織クレープ	一米	〇・七〇

九一

(一) 物價は市中小賣相場を採る
 (二) ②あるものは開値を採る

二、算定方法

(一) 指數基準は一九四〇年十二月を採る
 (二) 本指數は加重算術平均總和法に依る

三、輸入品物價指數

類別	昭和十五年		昭和十六年		昭和十七年		昭和十八年	
	年十二月	六月	年十二月	六月	年十二月	六月	年十二月	六月
一、織物類	100	100	100	100	100	100	100	100
二、織維製品類	100	100	100	100	100	100	100	100
三、雜貨類	100	100	100	100	100	100	100	100
四、食料品類	100	100	100	100	100	100	100	100
五、陶磁器、硝子、鐵器類	100	100	100	100	100	100	100	100
綜合	100	100	100	100	100	100	100	100

類別	昭和十五年		昭和十六年		昭和十七年		昭和十八年	
	年十二月	六月	年十二月	六月	年十二月	六月	年十二月	六月
六、金屬類	100	100	100	100	100	100	100	100
七、藥品類	100	100	100	100	100	100	100	100
綜合	100	100	100	100	100	100	100	100

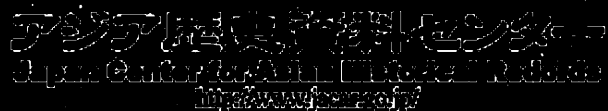
〔註〕 六十五品を七類に大別し毎月分を六月、十二月のみ摘記した(綜合突合せとあるところあり)

(盤谷〇〇會調)

盤谷泰人生計費指數

〔華 銀〕

泰人中流家庭の生活費、飲食費、住居費、被服費、雜費を四つに分類し、日常生活に最必要なるものにウェイトを置き、例へば米一五%、家賃一三%、衣類七%の如く實生活上缺くべからざるものと然らざるものに區分して合理的に物價指數を作成した。之によれば昭和十五年十二月を一〇〇とし十八年十一月の夫れと比較すれば飲食費及び住居費は小幅に漸騰し、指數二六八と二八五を示し、輸入品に依存する被服費は騰貴率甚しく、約十二倍、指數一二〇九を示し、雜費に於ても雜貨、醫藥費の騰貴により五倍強、即ち指數五三九を示し、生計費全體に於ては四



昭和十七年 平均	昭和十七年											
	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月
一九二	一九八	一九〇	一六一	一六二	一三七	一三六	一三四	一二五	一一〇	一〇九		
一八八	一九〇	一八九	一七八	一七五	一六五	一四五	一四〇	一三六	一二七	一二三		
六九一	六八一	六六四	六五五	六七二	六二五	四三五	三六六	三二六	三〇五	二六二		
三五八	三六二	三四五	三〇一	二八六	二七五	二六八	二四五	二三〇	二〇五	一九三		
二七四	二七六	二六八	二四三	二四二	二二二	一九五	一八一	一六九	一五四	一四五		
二〇九	二八八	二八八	二〇九									
二〇〇	二〇〇	二〇四	七二八									
二一〇	八三〇	四〇二	三七九									

昭和十八年 平均	昭和十八年			
	十一月	七月	六月	五月
二三四	二六八	二六五	二四七	二二六
二二九	二八五	二三九	二二七	二〇七
一〇三六	一一〇九	一一一六	一一〇〇	九一三
四五九	五三九	四七六	四七二	四四五
三五八	四二二	四〇四	三八〇	三二九

(穀谷〇〇會關) (華銀)

印度の黄麻工業

印度に於ける最初の黄麻工業は一八五五年にリシラに設けられたもので、これは作業を開始して黄麻絲を紡織することゝなつたが、やがて工場は火災で半滅し、最後に今のウェリントン黄麻製造所に合はせて仕舞つた。又有力なる織機を有つ會社が初めて現はれたのは一八五九年で、これはボルネオ會社によつてパラナゴールに設けられ、ジョージ・ヘンダーソン合名會社が之の代理店となつた。

この工業は急速に發展し、其の後色々の場面に達着したが、一九三六―三七年の期節に黄麻製品の消費が高まり、この事業は將來性あるものと折紙付けられるに至つた。次の年には注文が減つて状況は悪くなり、製品の貯蔵は山と嵩み、価格は殆んどその底に達したのであるが、その生産を制限する契約を取り結ぶことはなかつた。これが一九三八―三九年の黄麻業隆盛時に入らんとする少し前の光景である。貯蔵物品は益々堆積するの、依然として操業をつづけるので価格は遂に原價を割るに至り、此の工業は經濟上死活の線に直面することとなつた。この時に當つて、ベンガル政廳はこれが調整に乗り出し、條令を發布することとなつて、その作業時刻を制限する策をとり、一九三八年九月末からは、作業時間一週當り四十五時間と縮限した。

この條令の發布のあつた後、印度黄麻工業協會委員会は、特別の規約を設けて全印度の業者をそれに包括せよらうとして全力を盡した。この委員會の努力は功を奏し、一九三九年一月、ベンガルに於ける總ての業者（一箇所を除く）とベンガル以外の四、五のものとで委員會の會合となり、制限時間内の作業をすることに同意した。

條令の發布は次いで製品の價格と貯蔵品の減少に改善を加へられることになつた。然るに一九三八年の十二月になつて貯蔵は再び山積するに至り、果ては委員會が生産量をもつと制限せねば不可であると考へられるやうになつた。此の二回目の危機は、幸に當時英本國政府から砂袋の莫大なる注文があつて辛うじて脱れたが、この注文とても事業の繼續を充分ならしめる程のものではなく、そこで委員會はベンガル政廳の縮限方針を體して作業時間

を週四十時間に減することを決定した。

第二回目の時間短縮は一九三九年の七月三十一日から開始することになつてゐたが、これは短期間の實施で終つた。それといふのはその年の九月に歐洲大戰が勃發し、黄麻製品の凡ゆるもの及び砂袋に増加注文が殺到するに至つたからである。總ての機械は封印を解かれ、作業は週四十五時間とされ砂袋の注文は續々とつゞいた。

此等の注文に應ずる爲め、又普通製品の注文増加に對處するためには、勢ひ生産量の増加が不可欠で、作業時間は週五十四時間ともなり、やがて週六十時間ともなつた。この作業時間の消長は自然に原料黄麻の手當に影響し、時間延長の結果として黄麻の消費を増大したから、次期の手當はずつと不足となると考へられた。それで一九三八―三九年の期節の後半には收穫期の短縮が始められた。此等の結果として、原料黄麻の價格は上昇して前の四、五年間の最も高い所にさへ上つた。

一九三九年の播種は前年よりずつと多く、そして期間中及び次の期節を通じて好調な收穫に入つた。供給がかく順調に出廻り始めると急に鋭い値下りとなり、工場は製品の原價切詰めと將來の市場に對する思惑に乗り出した。原料の買入れは市場を安定せしめ始めたが、其時にベンガル政廳は條令を發して、將來の市場に於て最低價格を一依三十六ルピーに安定せしむべきであるとした。委員會も此の意を體して公定價格より高價に買入れせざることに協調せしめんとしたが、協約は守られず、原料黄麻の價格は直により高い水準へと突き進んだ。栽培者は最も高

額の利益を充分に受け、長い間受けて来た利益よりも一層の恩恵を受けるに至つた。印度に於ける黄麻工業による原料黄麻の消費は、一九三八―三九年に於て前の二年のいづれよりも低位にあり、一九三九―四〇年には七百十萬袋、一九四〇―四一年には五百五十萬袋であつた。期節の終り頃の工場の貯蔵は一九三七―三八年には二百九十二萬五千袋、一九三八―三九年には二百十三萬三千袋、一九三九―四〇年には二百萬袋、一九四〇―四一年には三百五十萬袋であつた。この期節には、いつも大量の砂袋の注文があるので、委員会は作業時間を週四十五時間から増して遂に六十時間にした。これから推定すると一九四一―四二年の原料黄麻の消費量は七百五十萬袋であると思はれる。

ベンガル政廳は嚴に制限を守らすべきなのに、政府自身から乗出して小作人達に黄麻の値上りは必至であるなどと語つて一九四〇年の播種に當らしめた。加ふるに政廳は嚴正なる制限を止めて、黄麻の価格は又も値上りを見るに違ひないと宣傳した。その結果、一九四〇―四一年の期節に黄麻の收穫は非常な巨量に達し、千三百萬袋を記録したが、この政廳の計畫は國際狀勢によつて覆へされ美事に失敗した。戦争は擴大して原料黄麻に對する市場の三分の二は閉ざされ、又製品に對して有望としてゐた市場も同じく閉ざされた。此等の國々と通商關係にあつて、印度と商取引をしてゐた國々も、船腹不足で取引困難となつた。此等の不利な因子を以てした政府は、原料價格と製品價格との上に安定を計らうと無意味の努力をつとげた。將來の市場に對し、黄麻とヘシヤンの最低價格を定めやう

とする政廳の條令は、市場に實行しようとしたが、實際には無力であつた。政廳は古い收穫物を買上げて見たが、市場に何等の效き目もなく市場は下落を續けるので、政廳は買上價格を引上げてそれに效果あらしめようとした。此等の爲に州の損失は約百萬ルーピーに及んだ。原料黄麻の價格を調整しようとする政廳の惨めな失敗は、遂に一九四〇年ベンガル黄麻調整法を通過せしめねばならぬこととなつた。政廳は一九四一年の早期に黄麻植付許可面積を、法令によつて一九四〇年に記録されたもの三分の二に引下げた。同時に政廳は最低價格の點で委員會と妥結した。政廳の執つた手段は或程度、所期の效を奏するやうになり、一九四〇年の終り、一九四一年のはじめと徐々に而も手堅く上り、一九四一年の第二・四半期には高い水準を保ちつゝ一九四一年の終りに及んだ。之に加へて、委員會は一九四一年四月に印度政廳から砂袋とヘシヤンの注文を受け、他からも同じく砂袋とヘシヤンの注文を受けるに至つた。北米合衆國に於けるヘシヤンの消費も、一九四〇―四一年の期節中よく續き、その爲に黄麻製品の價格は一九四〇年終りまで次第に上り、一九四一年第二・四半期の間に相當の値上りを見た。この少し安定した後にはベンガル原料黄麻稅法が實施され、これが一層の値上りを結果付けることとなつた。

一九四一―四二年の期節間の原料と黄麻製品とは好調であらうが、此頃の如き不安定なときに豫言を爲すことは困難である。だが次の事實は記してよいと思ふ。委員會加入の工場は一九四一年六月末に三百五十萬袋の貯蔵品を持つてゐた。この外にカルカッタの公設市場、印刷所、倉庫には、百五十萬袋があり、内地へ運ばれたものが三百

袋から四百萬袋と計算される。之に加へて、新しく生産されると豫想される收穫が少くとも六百萬袋乃至八百萬袋である。こう計算して來ると、工場の貯蔵を別にして、最低千五十萬袋から千三百五十萬袋の供給可能量となる。これに對し、工場側で一九四二年の七月末日に貯蔵品を今の通りに持ち、且つ週六十時間の作業を繼續して行かうとするのであると、工場側からの可能要求は七百萬乃至七百五十萬袋でなければならぬ。同時に輸出手當には百二十萬袋は當てねばならない。夫故、工場の現在の貯蔵を別にして、十八箇月分の消費に等しい供給があるわけである。こんな風であるのに、原料黄麻の價格を一九四一年末まで今の高い水準を續けて行かうとするには到底出來そうにもないことである。又黄麻製品を顧みると、これは一時はもつと良い價格で賣れることもあらうが、價格を若し急に高めるとすると、必然的に代用品が現はれて來るが、この重大なる敵手に對抗することは最も好ましからぬことである。價格統制でさへ、一九四〇—四一年の第一・四半期には、北米合衆國へのヘシアンの輸入を切り詰めて、充分に高價になし得たと考へてゐた。次の事は此の點について教訓的のものであらねばならない。即ち北米合衆國のヘシアン消費が現在のやうであることは満足すべきものではない。この消費はもつと實質的に増加せねばならない。然るにそうでないのは一考を要する。この消費が昨年と同じであるといふ事は不十分なことである。あの工業の股盛を以て、そのまゝといふ筈はない。工業指數からすると、一九四〇年の七月から一九四一年の二月末までに五十九萬二千九百ヤードであるべきであつた。それなのに實際はどうであらう。たゞ四十六萬七千ヤードに

過ぎなかつた。これは取引に於ける損失であつて、全きものと見るわけには行かない。船舶が不足だからとするも知れぬが、北米合衆國は船操りは充分で、買取らうとすれば幾何でも引取れるのである。これは明らかに黄麻製品に厭氣がさしたのと、代用品を選択せんとしつゝあるからである。そしてそれは價格の高いことに歸因するやうである。一九四一年に労働争議の小さいのが起つたが、これは委員會の手によつて六月一箇月に一ルービーの増額を全黄麻工場就業者に支給することによつて解決した。それに昨年は一割の増給も行はれてゐたのである。印度中央黄麻委員會及び印度黄麻工場委員會は、この工業を悩ましつゝある色々の問題に就いてその解決策に關心してゐる。ゼー・エー・ドット教授はベンガル政廳の招聘によつて英本國から來朝し、將來の市場に關する計畫を立て、建築するところがあつた。

この工業の地位は次の表示によつて明らかにされ得る。

黄麻栽培面積と生産高

地名	面積	生産高
アッサム	千ヘクタール 三五六	千噸 九一八
ベンガル	五、〇〇二	一一、六三〇

布地・袋の在荷量 (単位千ヤード)

月次	年											
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十	十
一九三七	七八	七八	六〇	七六	一〇一	一〇一	一〇二	一〇三	一〇四	一〇五	一〇六	一〇七
一九三八	九二	九二	九二	九二	九二	九二	九二	九二	九二	九二	九二	九二
一九三九	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八
一九四〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
一九四一	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八

原料黄麻の輸出 (単位千袋)

輸出先	年次	
	一九三七—三八	一九三八—三九
英 本 国	八二一	一〇二二
北 米 合 衆 国	五五五	一七四
ド イ ツ	八〇一	七三九
計 (其他とも)	四、一八五	三、八六六

【註】一九四〇—四一年の原料黄麻の輸出は二四四、〇〇〇噸であつた。

黄麻原料及び製品の価格の指数

年次	原料黄麻		黄麻製品	
	指数	年	指数	年
一九三五	三三九	一	三三九	一
一九三六	三三九	一	三三九	一
一九三七	三三九	一	三三九	一

黄麻製品の輸出

配付豫定頭數 一五、〇〇〇 年末所有牝頭數 一七、〇〇〇 【摘要】牝兎のみに付計劃。

(二) 年次別増加表

1 中華民國三十四年	生産頭數 二三八、〇〇〇	廢死頭數 三五、七〇〇	屠殺頭數 一八二、三〇〇	種兎配付豫定頭數 二〇、〇〇〇
2 中華民國三十五年	生産頭數 五二八、〇〇〇	廢死頭數 七七、七〇〇	屠殺頭數 四二七、三〇〇	種兎配付豫定頭數 一三、〇〇〇

汕頭

汕頭舊法幣の流通を禁止

日華同生共死の鐵則を堅持すべく、わが方は新國民政府育成に有りとあらゆる努力を盡し、特に國民政府が新中國の紙幣として儲備券を發行してからは從來流通して來た軍票の新規發行を廢止し、儲備券對舊法幣は二對一の割合

で儲備券の流通強化に邁進して來たが、最近に至り和平地區の擴大と共に舊法幣を操る一部不逞奸商がわが方の眞意を解せず舊法幣を所持し、甚しきに至つては、儲備券の流通を阻害するものあるので、この一部不逞分子の經濟擾亂行爲を封ずるため、今回新和平地區内の舊法幣を一掃すべく、新舊法幣の交換を實施すると共に全和平地區内にある舊法幣の流通を禁壓することになり、これが違反者に対しては斷乎たる處置に出づることになり、次の如き軍當局談を發表した。

軍當局談

軍は客年一月九日盟邦中華民國の對米英宣戰を契機とし、兩來名實ともに眞に日華提携の實を擧げ、就中儲備券の育成強化にはその全力を傾注し、昭和十八年四月一日軍票新規發行廢止に伴ひ、いよ／＼儲備券の統一具現に邁進し來たれり。然るに巷間一部の不逞分子は我が眞意を解せず徒らに現下の情勢を誤認し、却つて流言蜚語を放ち儲備券の價値を毀損し、或は和平地區内に於ける舊法幣取引を繼續してこの流通を防害、最近その傾向特に顯著となれり。軍は飽くまで廣東省政府の施策に全面的に協力して儲備券の價値維持、物價騰貴抑制に努め、以て民生安定を圖る方針に變化なく、また今般各縣政府の實施する新和平地區内に於ける新舊法幣の交換に對し協力すると共に、將來不逞分子の暗躍跳梁するものに對しては各縣政府と協力して斷乎たる處置に出づることを茲に聲明す。

汕頭に在留邦人職業補導所を設置

内地の總動員に積極的に寄與すると共に、現地生産部門に於ける人員配置の調整、重點職業配置の変更、斡旋をなし、以て現地決戦態勢を擴充するため、この度汕頭に在留邦人の職業補導所を設け、四月十日より事務を開始した。同事務所は居留民會内に置き、居留民會長が委員長となり、委員會制度で在留邦人の職業状態を調査し、その轉廢業に關する事項につき領事館に建議し、これが實行を促進する事になつてゐる。

戦局ますます深刻苛烈化する今日、凡てをあげて戦力増強に寄與せねばならない時、本職業補導所の使命は重大であり、これが運用に當つては一黨一派にかたよる事なく何處までも厳正公平であるべきを要望されてゐる。

廣 東

廣東の米價安定化す

廣東省政府の兩替店營業停止、日華兩當局の各商社並に個人に對する在庫高調査の通達その他の施策によつて、廣東の物價は最近反落歩調に轉するに至つた。即ち土產米（百斤）の足どりを觀ると三月二十日には十八日に比し

五十六元安、二十三日は更に續落して百四十三元安となつた。然しその後一部の押目買ひに稍々反騰氣勢に轉じたが、三月末日華兩當局の告示により再度高値一服の状態を示し、四月に入つてからは小幅ながら軟勢を告げた。かかる米價低落の諸原因は勿論關係當局の機宜を得た右施策に俟つものであるが、他方省食糧管理局の第三回目貯藏米廉價放出及び三月設立した第一精米廠が現在の日産能力の二倍強近くを供給し得る見込確實視される點等を如實に反映してゐる。而して今後の現地米價格は急激なる下値は望めないまでも、漸次安定性を強め堅實な足どりを示すものと期待される。

廣東省長陳耀祖氏暗殺さる

廣東省長陳耀祖氏は四月四日午後六時すぎ廣東市内文德路を通行中、重慶側暴力團員のため拳銃及び手榴彈を以て狙撃され、直ちに最寄の病院に收容手當を施したが、重傷のため遂に五日午前一時五十五分逝去した。右に關し南支軍では同日正午最高指揮官談と共に左の如く發表した。

南支軍發表表 (五日十二時)

陳省長は四日午後六時十分頃市内文德路を通行中兇漢に襲撃せられ、直ちに病院に收容治療せるも五日午前一時

五十五分途に逝去せられた。犯人は目下日華協同にて嚴探中なるも重慶側テロ行爲と推定せり。追而省長の職務は汪警務處長、綏靖主任の職務は黃綏靖公署參謀長がそれ／＼これを代行する。

南支軍最高指揮官談

陳耀祖氏が四日兇漢の手にかゝつて殉職されたことは誠に哀惜に堪へない。省長の在職中の功績は枚擧に暇がないが、特に大東亞戰爭完遂のため總ゆる方面に率先陣頭指揮し、又綏靖主任として軍の作戰警備に協力せられた數々の偉勳は吾人の感謝に堪へぬところである。

吾人は省長が大東亞戰爭最後の勝利を見ずして倒れたことについて誠に遺憾に堪へないが、省長の精神は必ずや中國官民を奮ひ起たせ戰爭目的に邁進せしめるであらうことを疑はないものである。中國々家は官民一同が今回の禍を轉じて福となし、今後益々大東亞戰爭の完遂に邁進せんことを望んでやまない。尙畏き邊りでは陳耀祖氏の日華親善關係の増進に盡せる功を思召され、四月十四日次のやうに勳章贈與の御沙汰あらせられた。

中華民國廣東省々長 陳 耀 祖

勳二等旭日重光章贈與

因に陳耀祖氏の殉職に伴ふ後任省長につき同省の特殊な立場と使命に鑑み、國民政府は慎重人選を進めた結果、

現建設部長、國民黨中央黨部組織部長の要職にある陳春圃氏を起用することに決定、四月十四日夜國府令を以て左の如く發令した。

陳 春 圃

特任廣東省長

廣東で葉煙草を栽培

東亞煙草廣東出張所では豫てより優良葉煙草の現地栽培を計畫中であつたが、この程番禺縣沙浴郷に二百三十町歩の葉煙草栽培適地を獲得、優良種、在來種の本格的栽培に乗り出すこととなつた。右農地は既に一部に於て稲作、野菜類の栽培が行はれてゐるが、葉煙草はこれ等作物の收穫後より播種を開始して翌春までには收穫十分可能といふ天恵的な條件を備へてゐるため、この成果は頗る期待される。同所では更に農地開拓を機に、中國人の農事、中堅指導者を養成すべく教習所設立の計畫も着々進めて居り、實現の曉は現地農業振興に寄與する所少からざるものがあらう。

粵海關轉口税を徵收

粵海關では南京政府の指令により廣東市を中心とする省各地間との搬出入物資に對し、從來省政府に於て二・五バ

會員募集中のところ、豫定額の三倍たる三十萬圓の多きを見た。また商人の間にも配給の圓滑化に特別の注意を拂ひ、其会社の如きは貧困者のために「白米特價購買券」を發行、これら地區事務所を通じて配給し、この券持参者には市價を割つた低廉な白米を提供してゐる。

香港特定地域向け輸移出取締規則を廢止

香港總督部では四月十五日附總督令を以て特定地域向け無爲替輸移出取締規則廢止の件を公布した。右に依れば今後は物資輸移出に當つて物資搬出入取締規則に依る物資搬出入許可を受ければ、たとへそれが無爲替輸移出であつてもあらためて無爲替輸移出に關する總督の許可を受ける必要がなくなつた譯である。

因に總督部では昨年四月總督令を以て輸移出貨物代金を著積して必需物資獲得の運轉資金に當てる爲、特定地域向け無爲替輸移出取締規則を公布、無爲替輸移出の場合には凡て總督の許可を必要として來たが、其の後昨年七月公布された物資搬出入取締規則に依りこれが取締が充分となつたので今回の措置が取られるに到つたのである。

南方一般

南方諸地域の爲替事務取扱開始

通信院では五月一日からマライ、スマトラ、ジャワ及び北ボルネオとの間に通常爲替及び電信爲替の取扱ひを、又セレベス島、南ボルネオとの間に電信爲替の取扱ひを開始することとなつた。これに依つて大部分の南方諸地域との間に郵便爲替取組の道が開け、これら地域にある邦人の經濟生活に寄與する所が大きい、本爲替は無集配特定郵便局以外の郵便局で受付け、又爲替取組の手續は内國爲替と同様であるが、外國爲替管理法令の適用を受けるから、送金者は原則として大藏大臣の許可を受けねばならぬ。尙爲替料金は通常爲替に就ては内國爲替と同額、電信爲替に就ては百圓まで七圓、三百圓まで八圓五十錢、五百圓まで十圓、一千圓まで十一圓五十錢である。右に關する通信院並に運輸通信省令は左の如くである。

運輸通信省令第六十六號

帝國ト南方諸地域及ビ香港占領地トノ間ニ取組ム郵便爲替ニ關スル件左ノ通り定ム

昭和十九年五月一日

運輸通信大臣 五島 慶 太

帝國ト南方諸地域及ビ香港占領地トノ間ニ取組ム郵便爲替ニ關スル件



第一條 帝國トマライ、スマトラ、ジャワ、北ボルネオ、南ボルネオ、セレベス島、アンボイナ島、フィリピン諸島及香港占領地トノ間ニ取組ム郵便爲替ニ付テハ本令ニ規定スルモノヲ除クノ外内國郵便爲替ニ關スル規定ニ依ル

第二條 郵便爲替ノ取扱ヲ爲ス對手地ヘ別ニ之ヲ告示ス

第三條 電信爲替一口ノ爲替料ハ左ノ如シ

一 香港占領地宛ノモノ

百 圓迄 二圓五十錢

三百圓迄 四 圓

五百圓迄 五圓五十錢

千 圓迄 七 圓

二 其ノ他ノ地域宛ノモノ

百 圓迄 七 圓

三百圓迄 八圓五十錢

五百圓迄 十 圓

千 圓迄 十一圓五十錢

第四條 郵便爲替證書ノ有効期間ハ其ノ發行ノ日ヨリ百二十日トス

第五條 郵便爲替ニ關スル各種ノ取扱ニシテ別ニ告示スルモノハ之ヲ請求スルコトヲ得ズ

第六條 マライ、スマトラ、ジャワ及北ボルネオトノ關係ニ於ケル郵便爲替ノ種類ヘ通常爲替及電信爲替トシ通常爲替ノ金額ニハ一回未滿ノ端數ヲ附スルコトヲ得ズ

前項ノ通常爲替證書ハ名宛地ニ於ケル郵便官署ニ於テ之ヲ發行シ受取人ニ送達ス

第一項ノ通常爲替ニ付テ替ヘ郵便爲替規則第十五條第二項及第三項ノ規定ヲ又郵便爲替金ノ拂戻ニ付テハ同第三十一條及第三十二條ノ規定ヲ準用ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十八年二月通信令第十六號ハ之ヲ廢止ス

通信院告示第二百十七號

帝國ト南方諸地域及香港占領地トノ間ニ取組ム郵便爲替ニ關スル件第一條及第五條ニ依ル郵便爲替ノ取扱對手地及各種ノ取扱ニシテ請求スルコトヲ得ザルモノ左ノ如シ



本告示ハ本日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十八年八月通信省告示第九百二號ハ之ヲ廢止ス

昭和十九年五月一日

通信院總裁 鹽原時三郎

第一 對手地

一 マライ

通常爲替

昭南特別市 ジョホール州 マラツカ州 ネグリ・センビラン州 セランゴール州 ペラ州 ペナ

ン及ウエルスリー州 パハン州

電信爲替

昭南特別市 ジョホール・バル マラツカ セレンバン クアラ・ルンプール イポー クアラ・

カンサル ベナン クアラ・リビス

二 スマトラ

スマトラ西海岸州 リオ州 スマトラ東海岸州 アチエ州 タバヌリ州 バレンバン州 ジャンビー州 ランボ

ン州 ベンクレーン州 パンカ、ピリトン州

三 ジャワ

マラシ マデウン マゲラン ボンドオソ ボジョネゴロ ボゴル ベカロンガン プルオケルト パメカサ
ン パテー バンドン テガル チレボン ソロ セラン スラバヤ スマラン スカプミ ジョクジャカル
タ ジャカルタコタ ジャカルタ ジエンベル ケデリ

四 北ボルネオ

通常爲替 クチン シマンガン シブ ビンツル ブルネイ ミリ コーラ・ブライト マエタシマ アビ

クダツト ポーホート ケニンガウ サンダカン タワオ ラハット・ダツ

電信爲替

クチン シブ ブルネイ ミリ アビ サンダカン タワオ

五 南ボルネオ

バンジエルマシシ パリツクパパン

六 セレベス島

マカツサル メナド

七 アンボイナ島

アンボン(當分ノ内電信爲替ノ取扱ヲ爲サズ)

八 ファイリツピン諸島

マニラ バギオ レガスビー セブ ダバオ
九 香港占領地

香港 九龍

第二 請求スルコトヲ得ザル取扱

- 一 連達又ハ航空郵便ニ依ル通常爲替證書ノ送達
- 二 電信ニ依ル振出請求書ノ誤記訂正、拂渡済通知、拂渡済否取調又拂渡停止又ハ解除
- 三 電信爲替ノ至急電報ニ依ル取扱、爲替證書ノ電報ノ別便配達若ハ解船配達ノ例又ハ連達郵便若ハ別便配達郵便ニ依ル送達、爲替證書留置、拂渡郵便局特定

南洋各地の文教態勢

南方各地に於ては従來の米英植民地的教育を一掃し、東亞人たるの自覺に燃えた新教育が各地に確立されてゐる。その大要を述べれば次の如くである。

ビルマ國

ビルマ國政府は基本國策大綱に基く新教育態勢確立について成案を得たので、四月六日ビルマ文教態勢確立要綱

として發表した。これは戦前の英國的教育を一掃すると共に新ビルマを背負つて立つビルマ人の育成を主眼としたもので、新東亞的ビルマ教育を全國民に滲透せしめんとするものである。従つて國民普通教育、専門大學教育を一貫してビルマ語を教育語とする外、外國語としては東洋語を主とし、特に日本語教育に重點を置いてゐることは注目される。而して國民普通教育にあつては智育、德育、體育の三者綜合訓育を主とし、特に體育に力を注ぎ、又専門、大學教育に就いては國家的意志による教育を施すべく種々擴充策がとられ、特に理科系統の學科に主力を注ぐことゝなつた。

(二) 比 島

米國的教育、米國的思想等に蝕まれてゐた比島に於ても教育の刷新と思想の革新に就いて當局の眞摯な努力が續けられてゐるが、去る四月三日政府は今後國立フィリピン大學に於て國語、歴史、論理に關する講座はすべて比島人教授によつて擔當すべきことを言明すると共に、その他の各公私立學校に於ても前記の大統領令を嚴守すべきことを要望した。これは獨立比島國の國家意識の輕重、愛國心涵養の重大性により教育を以て比島建設の重要根幹たらしめんとする大統領の所信を明かにしたものである。フィリピン大學には既に東洋精神講座が設けられ、新東亞教育の確立による米國の頭腦の切替へが着々進められてゐる。

(三) ジャバ

ジャワに於ても教育が著しく普及しつつある。即ち荷蘭印政府の具體的な統計によるとジャワ五千萬民衆の内、文字を解する者備かに七〇と言ふ情ない有様であつたが、これが皇軍裁定二箇年にして三十四〇と言ふ驚異的躍進を擧げた。國民學校では學校数は戦前に比して減少してゐるが、全島就學兒童は六十五萬人に上り、荷蘭印時代嘗て見なかつた就學率を示し、中等學校、實業學校生徒数は十一萬七千以上に上り、特に戦前三校しかなかつた農學校が八校に増加してゐる。又高等專門學校では學校數七校、生徒數二千、大學としてはジャカルタ醫科大學の外四月からバンドンに初の工業大學が開校された。この外師範學校が八校ある。その教育の重點は施政、防衛、増産に置かれ、且つ日本語とマライ語を正科とし、ジャワ現地に正しき東亞人としての自覺を持たしめると共に實際的な教育により新生ジャワ建設を双肩に擔ふ若人を育て上げてゐる。

佛 印

佛印の黃麻増産實行計畫

佛印の黃麻栽培協會では愈々黃麻播種期となつたので、これが増産改良を圖るため十九年度事業實行計畫を樹て西部佛印擔當商社十二社に對し採種並に増産方法を指示した。

(一) 黃麻採種事業

黃麻の種子は従來臺灣に依存してゐるが、現地の風土に適合した品種を選択普及せしめるため〇〇をして二十ヘクタールの原種圃に於て優良種の採種に當らせる。また種子の現地自給を目指し各商社に對し採種を選定せしめ、來年度栽培豫定面積二萬ヘクタール中七百ヘクタールをこれに充て、採種目標額を〇〇トンとし、經營者に對しては一ヘクタール當り七十ピアストルの補助金を交付する。

(二) 黃麻多收穫競争會

黃麻の立體的増收を圖り、農民の勞働意識を喚起せしめるため黃麻多收穫競争會を開催し、個人競争會では特等(五百ピアストル)より四等まで、團體競争會では特等(一千ピアストル)より三等までそれ〴〵賞金を與ふ。

(三) 自給肥料の獎勵

農民の施肥觀念を養成し、増産を圖るため、自給肥料を獎勵し、綠肥獎勵面積百ヘクタール、堆肥獎勵面積百ヘクタールを指定、ヘクタール當り二十ピアストルの獎勵金を交付する。

(四) 紡織機懸賞募集

當地に於ける麻袋製造事業を促進するため手紡機、手織機の發明改良の懸賞募集を行ひ、手紡機一等三百ピアストル、手織機一等五百ピアストルの賞金を交付することとし、本年末審査發表する。

このほか麻袋の検査所をハノイ、ナムディン、ハイフォンに設置すると共に、代用麻袋の試作を行ひ、これに對して助成金を交付する。また隨時黄麻適地調査や講習、講話會を開催するほか、黄麻栽培指導員、農民等の表彰を行ふ。

佛印でゴム製品の自給計畫進捗

最近佛印の自給態勢確立の計畫は着々と進捗し、殊に纖維の自給を圖るため、黄麻の他苧麻の増産にも乗出し、種子、挿木の無償配給を行つてゐる。

又佛印總督府では、鑛山學中央研究所ツーラン支部をして製絲、紡績及び製紙の實驗研究を行はしめ、現地產品の品質改良にも乗出してゐる。他方園藝發展を期して果實、野菜栽培の指導を行ふ傍ら、ゴム製品展を通じ自動車、自動車タイヤ、靴、敷物、織物、チューブ、ベルト、その他ゴム製品の生産状況を明らかにし、その増産を奨励した。最近公布された統制關係法令に

- (一) カボック配給及び加工に關するもの
 - (二) 松脂の搾油からテレビン油抽出に至るまでの取引加工に關するもの
- があるが、カボックに就いてはトンキン理事長官令でハノイの業者よりなる中央行政機關及び加工業者組合を組

織、指定製造業者をしてカボックの加工を營ましむることとなつた。松脂はダラットジリン地區のものを除き佛印全域に於て搾油業者は松脂の自由販賣をなすを許されず、搾油せる全量を特定倉庫に移管し、地方テレビン油製造の蒸溜工場は、この買付に當り當局の許可を要することとしたもので、品質の改善を圖ると共に業者の暴利を抑壓した。

佛印にて畜産業者に休閒地を無償拂下

佛印政廳では食肉及び家畜勞働力確保のため昨年來家畜増産施策を強化し、家畜の自由移動禁止、屠殺制限を實施する一方、關係官廳たる畜産局の豫算を増大して農家への融資を容易ならしめる途を開いたが、今回小規模畜産業振興策として休閒地を無償で拂ひ下げることとなつた。拂ひ下げを受くべきものは自己の畜産計畫を明示せる申請書に所有家畜数を特に明記することが要請されてゐるが、差し當り申請者一人につき三百ヘクタールを限度として拂ひ下げられることになつてゐる。

佛印交趾支那で機械類の移動を禁止

サイゴン、シロン地区を有する交趾支那は佛印工業の中心地帯として自給經濟確立に重要な役割を演じてゐるが、交趾支那政廳では工業生産力維持の見地から各種機械類の移動禁止を實施することとなり、この政廳より發表された移動禁止を受けるものは機械類全部で、僅かに輸送機關のもののみが除外されるに過ぎず、その他はすべて政廳當局の許可を得ることが必要となつた。

佛印ジャンクで沿岸航路開設

敵在支米空軍は本年初めより佛印縦貫鐵道に對する攻撃を續け、南北佛印の遮斷を企圖しつつあるが、佛印當局ではこれに對應して沿岸航路の強化を圖り、過般總督令を以てジャンク統制を行ふと共に佛華合辦のジャンクの輸送會社を新設、南北佛印沿岸航路を開設した。

佛印最初の水力發電所近く竣工

佛印に於ける最初の水力發電所として多大の期待を懸けられてゐるアングルエーダムはサイゴンのシエット・ド

ラガージュ建築土木會社の手で近く竣工の運びとなつた。同ダムはグンキアノ湖を活用したもので、最大出力〇〇キロワット、落差〇〇メートルであつて、佛印の工業振興上に重要な使命を果すものと期待されてゐる。

泰 國

泰國纖維界の近況

バンコックの最近の經濟界の實情をみると次の如くである。

一 纖維製品の強力統制考慮

バンコックの綿絲布相場は年初來昂騰歩調を辿つてゐたが三月に入ると共に急激に上昇した。政府は此の情勢に對處するため、薄給官吏、勞働者、空襲被害者に對する衣類の廉價配給を行ひ、下級生活者の生活保證に努めると共に國內の各市場に専門家を動員して市場の動向、物資の消費生産狀況の調査に努めてゐるが、更に纖維關係部門に對する廣範圍な統制を考慮し、先づ三月十七日には棉花の最高販賣價格を市價の三、四割方下値に定め、更に三十日にはバンコックトンプリ地区より綿製品搬出禁止令を公布する等諸般の施策を講じたため相場も漸く落付いた。然しその他の物價は依然昂騰氣勢を示し三月末の金地相場は十五瓦當り二百八十八パーツと月初めより四十五パーツ

一四〇
高、白米特等品十四パイツ七十五サタンと一パイツ二十五サタン高を示して居り、煙草小賣値段も一躍二十割方引上げられた。

二 綿製品の自給策進展

昭和十五年度の泰國綿製品の輸入高は重量にして約二千萬疋、これに要する棉花は百二十七萬ピクル、更に同年度の國産棉花及び輸入棉花の量は八萬二千ピクルで、合計百三十五萬二千ピクルとなり、現在の棉花生産量〇〇萬ピクルはその〇〇%に當つてゐる。然し乍ら戦前の綿製品輸入量は投機的な見越し輸入が多く、實際の需要量を遙かに上廻つてゐたもので、この程度まで達しなくとも充分自給し得るものと見られて居り、棉花増産の進捗と共に日泰合辦紡績會社の操業開始、消費規制の確立が行はれば、泰國の纖維製品自給も遠くないと期待されてゐる。

泰國衣料統制令を發布

泰國政府は最近の衣料品の暴騰に對處するため對策を考究中であつたが、四月十日附勅令を以て衣料類の事實上の販賣移動停止、並に買溜め、買占め禁止の統制令を發布した。同法は未晒綿布、白布、色染布、タオル、人絹布、毛織物、スフ布等各種衣料類を自家消費用として八十米までの販賣を許可制とし、既製服類の販賣は一着に限定

した。自家消費の日用製品は統制法に依つて規定された數量を超えて所有する場合には四月末迄に商務省商品統制局まで届出るを要し、特別許可なき限り右品目の販賣、譲渡、名義變更等を禁止したものである。今回の統制令は現在著しい高値を告げてゐる衣料類の完全統制への第一歩とみられる。

泰國工業界の二つの新研究

自給自足經濟の確立を目指して精進するタイ國化學工業家の努力は最近目覚ましいものがあるが、この程左の二つの研究が實を結びタイ國工業界の話題を賑はしてゐる。

バンコック地區選出代議士アン・ボン・ソボン氏は先にビブン首相より二萬パイツの奨励金を受け、自動車タイヤの製造研究を開始したが、二箇月に亘る苦心研究の結果、遂に従來の輸入品に匹敵するタイヤ製造に成功、この最初のタイヤをビブン首相に贈呈することゝなつた。現在同氏の工場設備は日産〇〇のタイヤ製造が可能で、今後資本を増加し、設備を擴充すればタイ國內の需要を充すことも不可能ではないと觀られる。

南部タイの錫・ゴム會社勤務中の一青年技師は最近ある種の燈油製造に成功した。同油は樹脂及び或種の木の葉より抽出され、月産〇萬トンに上ると見られ、重工業に必要な油の代用品として使用し得るものである。

マライの銀行預金増加

マライに於ける銀行預金額は逐月増加を示してゐるが、本年一月には合計二億五百八十九萬餘ドルに達し、更に二月には二億一千三百二十萬四千餘ドルに上り、前月比約八百萬ドルの増加を告げた。一月中の預金額内譯は當座預金一億六千二百六十二萬八千ドル、特別當座二千一百七十一萬二千ドル、定期預金二千一百十六萬八千ドル、貯蓄預金三十七萬ドルであつた。二月中に於ける内譯は當座預金一億六千七百五十五萬六千ドル、特別當座二千一百五十三萬八千ドル、定期預金二千三百五十九萬七千圓、貯蓄預金五十六萬一千ドルで、貯蓄預金の増加が目立ち、戦局の勸奨に呼應する貯蓄増強の目覚しい躍進の一端を物語つてゐる。尙民族別銀行取扱実績は左の如くである。

日本人銀行	一〇三、九三九
華人銀行	九三、四二八
印度人銀行	一五、八三七

マライ原住民の勤勞觀一變

一 マライの食糧増産

戦争第三年目を迎へ、マライの食糧増産も今や新しい構想と施策を盛込んで、最後の完全自給達成の域に向つて突進してゐる。第三年目に當る本年は、いはゞ最後の仕上げの段階に當り、増産方法も地道に而も凡ゆる創意を絞り隠時を競つて進展してゐる。昭南、ペナン、クアラルンプールは勿論、僻遠の州、町村と雖も軍政要員宿舍の庭先や嘗ては草地、荒廢地とされてゐた空閑地は、今やクビオカ、玉蜀黍が稔る豊かな大地と化してゐる。而もまだ日毎にジャングルの開拓は續き、老廢ゴム園の食糧農地への轉換が今日の新施策として早くも着手されようとしてゐる。昭和十八年現在では、十七年末よりも水稻及び陸稻の栽培面積は、夫々十七%及び六十七%の増大を遂げ、收量の點でも水陸稻平均二十一%増といふ成果を結んだ。食糧増産に要する勞働力も計畫的に配置され、特にゴム園及び家内勞働力も愈々力強い増産の尖兵となり、他方、〇萬に達する勤勞奉仕隊の出動も始まらうとしてゐる。これら勞働力の生産性を昂める技術は極度に取入れられ、総合的に過去二箇年の體験を活して増産を推し進め、増産必成の布陣は今や確固たるものがある。また輸送の問題も増産の進展に伴つて次第に重要に

なつて来たが、牛車、馬車の利用により陸上運送の隘路を開し、輸送力増強に新機軸を出さんとしてゐる。特に牛車の利用は着々と進み、有畜農家の擴充と共にマライ農業再編成上注目される施策である。目下〇千頭の牛移入の計畫が實施に移されてゐる。

二 模範農村の建設

ジョホール州エンドウ及びネグリセンピラン州バハウの集團模範農村の建設は、既に昭南から合計數千戸の移民を送り出し、肥沃な休閑地は日増しに開拓され、初の收穫の日も間近くなつた。特に華僑、安南人の増産への敢闘は、マライ住民の奮闘意識をかき立てゝゐるが、當初の一戸當り二、三英反の耕地は、華僑にとつては些か狭すぎる感じさへ與へる程に迅速な開拓が進んでゐる。このエンダウ、バハウの新天地の開拓は、従來とかく勤勞意識に缺けるとされてゐたマライ人を奮起させ、近日中に昭南から目と鼻の間にあるピンタン島の開墾に多數マライ人は勇躍して出動せんとしてゐる。過ぐる大東亞新聞記者大會に出席したマライ代表連も増産の尖兵として出動「戦ふ日本の働く人々を見てじつとしてゐられなかつた」と語つてゐるが、これこそいま全マライを揺ぶる「働かう、増産しよう」の共通の感動なのである。

スマトラ

スマトラ電氣事業を一元化

スマトラに於ける敵産電氣事業の運営は従來島内各州政廳及び特別市により經營されて来たが、スマトラ軍政監部ではこれが運営を〇〇に委託、同社では四月より業務を開始した。即ち従來同社は島内の發電所並に電氣施設の修理、建設等の事業のみを行つてゐたが、今般の委託經營によりスマトラ全島の發電、變電、配電事業の運営及びこれに必要な電力設備の建設を擔當することとなり、バダシ市に本部を、メダン、パレンバンに支部を、各州に營業所を設置してスマトラ島内電氣事業運営に挺身することになつた。これにより島内電氣、電力の供給の合理化はもとより料金政策の圓滑なる遂行等諸事業の一貫的統制が確立され、スマトラ電氣事業は一層の飛躍が期待されてゐる。

スマトラに於ける苛性曹達現地自給有望

製紙、紡績或は石鹼の原料として不可欠の苛性曹達の現地自給を目指して、スマトラ軍政監部産業部では目下〇〇に工場建設の準備を進めてゐる。同工場に於ける製造法は一般に使用されてゐる鹽、硫酸に依らず、直接工場に

ジャワ軍政當局に於ては遂に決定を見たジャワ電力増強第一期計畫たる現地自給方策により電力の増強を實施することとなり、ジャワ電氣事業社に對し補強計畫實施命令を下し、既に期的な發送電設備の改造、既設工事の移駐に着手したが、軍政監部ではこれらの建設の隘路を打開し、電力補強工事を強力に推進するため、最近左の如き諸方策を實施しつつある。即ち四月十二日電力開發本部を設置、電力開發に關する計畫設計樹立及びジャワ電氣事業社の實施する建設事項の援助督勵、現場工事督勵などを行はしめると共に、同本部と並行してジャワ電氣事業社幹部職員及び關係官廳、關係州廳などの關係人員を網羅し、軍政監直屬の電力委員會を設置、電力開發、電力供給、電力動員など電力方策審議の最高顧問機關たらしめ、委員會及び本部の指令により建設隘路を打開、完全なる現地所在代用資材の活用、設計上に於ける徹底的資材節約、現有發電變電設備の徹底的再編成を行はしめ、出力〇萬キロワットを〇萬キロワットに引上げ、ジャワ電力の飛躍的擴充を企圖してゐる。

ジャワの住民經濟新體制

軍政當局ではジャワ住民經濟の補導育成につき具體策を考究中であつたが、四月二十九日天長の佳節を期してジャワ住民經濟新體制建設要綱を發表、可及的速かに軍政部内にジャワ住民經濟新體制建設準備委員會を設置し、實

施方策を策定することとなつた。この經濟新體制は軍の指導と住民側の創意工夫とにより住民の經濟活動に新局面を開き、以て全ジャワ經濟の戦力増強を圖ると共に原住民經濟發展の堅實なる基礎を築かんとするもので、オランダ三百年の壓政下に呻吟してゐた五千萬インドネシヤは、茲に日本軍當局の篤き信頼により政治、社會、經濟生活に一大飛躍の機會を與へられたわけで、住民は感奮興起して新體制建設に邁進し、ジャワの經濟戦力増強に挺身する決意を固めてゐる。

經濟新體制建設要綱

ジャワ軍政監部より發表されたジャワ住民經濟新體制建設要綱の要旨次の通り。

(一) 新經濟理念の確立

新經濟確立運動を強力に展開し公益優先、滅私奉公、共存共榮、勤勞節約を旨とする東洋的經濟倫理を確立する。之が爲ジャワ奉公會をして民衆運動に邁進せしむ。

(二) 住民委員の軍政經濟參與

- 1 物價委員會、郵便貯金積立運用委員會、その他既存經濟關係政府委員會に住民委員を參加せしむ。
- 2 産業關係に於て住民參與の途を擴張し、一層活用を圖り、また地方に於ても同様制度を擴充實施す。
- 3 邦人商社などに於て有能住民の登庸を極力擴充す。

(三) 住民企業の創生、培養

- 1 管理敵産中軍に於て適當と認める企業の運営を住民適格者に擔當せしむ。
- 2 重要物資の莫荷または配給機構に於て可及的に住民有能者の活動を大ならしむる如き措置を講ず。
- 3 工業部門に於ける住民企業の育成指導を強化す。
- 4 前各號の實施上必要な資金、資材、勞務、技術に關し軍は極力助成す。

(四) 住民經濟協同團體の保護

- 1 農業協同體の向上發展を期し法令の整備、指導者の錬成を圖る。
- 2 商業者の濫立を防ぎ、流通、配給機構の強化を圖るため組合制度及び配給機構を擴充強化すると共に商品、金融、物價統制に關し所要の措置を講ず。
- 3 隣保組織の活用または購買組合の補導及び市場運営の指導により消費經濟の規正、安定を期す。

(五) 勤勞精神の昂揚と技術の普及

- 1 技術教育を一層擴充すると共に講習會の開催、夜間學校の開校、技術手當、その他褒獎制の活用により技術の普及を圖る。
- 2 生産意欲の刺激を期し各種表彰措置を強化する。

3 勞務協會、勞務行政機關の積極的活動を促進し勞務厚生の充實向上を期す。

ジャワにて近く行政査察制を實施

ジャワ軍政當局では天長の佳節を期して現地民官吏表彰規定を公布したが、更に近く行政査察制度を實施することを明らかにし、四月二十九日左の如き吏道の刷新及び官民親和に關する軍政當局談を發表、五千萬インドネシヤの奮起を要望した。

現地民官吏が何れも新吏道を體得感奮し、目覺しき活動を続けつゝあることは眞に同慶に堪へない。然し乍ら今日に於て尙特に高級官吏の一部に昔日の夢を棄て切れず、聖戰下に於ける官吏としての重責を全うする誠意と熱意に缺け、安易にして華かなりし舊蘭印の吏風に間然たるものなきにあらざるは遺憾に堪へないところであり、斯る徒輩に對しては今後斷乎たる方針を以て臨み、夫々有效、適切なる處置を講ずべく準備を進めつゝあると共に、全官吏はこれを遍く披擲褒賞、以て信賞必罰を明らかにし、これがため或は地方行政査察制度などを實施し、行政事務の指導監督を強化すると共に、不良官吏の淘汰を斷乎行ふ方針である。今官吏たるもの、須らく軍政施行の核心たるべきことを自覺し、一切の個人主義的行掛りを一掃して、眞に兄弟の親愛に立歸り、官吏は郷土防衛

と戦力の増強に渾身の努力を致さんことを切望して已まない。軍はこの度、天長の佳節を迎ふるに當り、今や米英ユダヤ陰謀に乗ぜられ、或は戦局の苛烈に目を蔽ふ徒輩に對しては官民を問はずこれを膺懲、以て五千萬總親和、總進軍態勢を確立し、防衛増強に協力を集中發揮すべく、合せて原住民の協力推進を要望するものなり。

ジャワ軍政監部物價安定五方針を決定

ジャワ軍政監部では重要物資特に生活必需品の島内物價安定の爲左の方針を決定した。

- (一) 労働賃銀の適正化を圖る爲、島内勞務者初給賃銀の最高價格を地域別に決定することとし、州廳をして公定賃銀の勵行を監督せしめる。
- (二) 鐵道運賃を除く諸運送料金の地域的公定を是正し、同時に諸運送の計畫化を圖り、低運賃政策を實施す。
- (三) ジャワの物價は昭和十七年一月一日現在の物價を基準として抑制して來たが、今回更に公定價格を決定した米を除く食料品、生活必需品に就いても速かに價格を決定する。
- (四) 公定價格決定と共に經濟取締り機關の強化を圖る爲、經濟警察官の訓練を行ふ。
- (五) 浮動資金回收の見地から一部稅率の適正化、消費稅率の一部引上げ等を考慮す。

ジャワ軍政當局の衣料對策

衣料の現地自活を目指し、軍政當局は昨年度以降棉花並に苧麻増産五箇年計畫を實施し、衣料の自給自足に着手して來たが、本年度は更に衣料配給計畫の完全實施に依り衣料確保の萬全を期することになつてゐる。而して本年度の衣原料對策は左の如くである。

- (一) 棉花作付面積の擴張
昨年度の植付面積は〇千ヘクタール、實收收穫量は〇〇萬ピクルに上つたが、本年度は栽培農地割當〇〇ヘクタール、生産目標を繰棉〇〇萬ピクルに擴張し、既に各棉作地とも殆んど植付を完了して順調な成育振りを示してゐる。
- (二) 雜纖維の増産
棉作と併行して苧麻、黃麻、亞麻、サイザル、ロセル等雜纖維作物の増産に努力し、殊に苧麻増産五箇年計畫は今回これを三箇年計畫に繰り上げて實施することとし、明年度迄に植付面積〇〇萬ヘクタールの擴張を終了して〇萬トン確保する方針である。衣料の再生利用、ボロ屑、ボロ布等の回收を積極的に行ひ、ジャワ更紗の染直し利用や、野生纖維の手紬ぎに依る古着の修繕、再生等を全島に普及する運びとなつてゐる。

(三) 紡績及び織布施設の擴充

一五四

軍政監部では内地紡機の移駐計畫を樹て、既に一部は現地に到着したが、他方に於て雜織維紡機、紡毛機等の特殊設備の有效利用に務め、又ガラ紡機及び手紡機等の現地製作に乗り出し、本年度には現地民の間に相當配給されることとなつてゐる。

ジャワの輸出物資取引税改正

陸軍特別會計を通ずる交易でジャワから内地を首め南方諸地域並に第三國へ積出す重要物資に對しては、昨年八月「積出物資取引條令」が公布され、積出港本船渡價格の一割五分相當額が一率に課税されて來たが、物價調整の建前から個々の物資に適應した税率を設ける必要があるので、今回同令の一部を改正、水銀首め五十一品目に對する取引税額を決定、四月一日より施行した。なほ今回決定した以外の物資は従來通り一割五分の税率が課せられる。

ジャワ食糧の統制管理を強化

ジャワ食糧の統制管理に關しては昨年八月重要物資公團の設立に伴ひ産業部内にあつた食糧管理事務所が廢止さ

れ、その業務は同公團で取扱はれてゐたが、今回更に食糧管理の強化並にこれが現業との一體化を圖るため産業部内に食糧管理局を新設、四月一日から發足した。食糧管理局は米その他主要食糧の管理及び麻袋の需給調整に關する業務を取扱ふもので、人により主要食糧の蒐荷配給は一層圓滑化するものと期待されてゐる。

ジャワの端境期米増産で不安解消

昨年十一月増大する戦争要請に應へて開始された緊急食糧増産運動は、二百餘名に上る日本人技術者の現場指導と原住民の熱烈な協力によつて米穀十七パーセント増收の好成績を挙げたが、雨季明けも近づき、連日の猛暑の中で全島各地に亘つて早くも早場米の出廻り増大が傳へられ、一時憂慮されてゐた四、五、六月の端境期に大きな朗色を投げかけてゐる。例年一月から四、五月頃までは新穀の出廻りが殆んどないのであるが、本年度の米作は苗代の改良早植の奨励など、耕種改善によつて例年より一箇月位收獲期が早められ、當地農民の協力精神を反映して一、二、三月の米穀供出量は毎月〇萬〇千トンと少しも衰へず、遂に十八米穀年度の總供出量は〇〇萬トンを上る尨大な戦果をあげた。

一五五

小スンダ

小スンダの食糧増産既定數量達成

小スンダ食糧増産の簡年計畫必成を期し遂に成立した農畜増産供出委員会は増産督勵班を各州に派遣、州長、郡長、村長、水利組合等と米を首め各種農畜産の増産供出に關する具體的諸事項を協議せしめて來たところ、何れも既定數量以上増産供出の見込がつくに至つたが、これは次の如き事情に基くもので島民の増産供出に對する眞摯な協力の結果に外ならない。

- (一) 農民は自發的にバリ獨特の水利組合の活動を積極化し既に灌溉施設構築に着手した地方は多數に上つてゐる。
- (二) 農民は自發的にバリ獨特の水利組合の活動を積極化し既に灌溉施設構築に着手した地方は多數に上つてゐる。作付増反、作付轉換等も當局の指導を俟たず自發的に行はれて居り、既にコーヒー園伐採による〇〇ヘクタールの作物轉換に着手したところもある。
- (三) 米穀供出の重要性を認識して自發的に諸類、玉蜀黍等との混食により米穀消費規正を實行してゐる部落等相當ある。

バリ島防衛義勇軍を編制

バリ島百二十萬原住民の郷土防衛の叫びに應へてバリ島防衛軍は原住民より成る劃期的な防衛義勇軍を編制することになり、四月七日海軍バリ警備隊司令並に陸軍バリ防衛隊長の名を以て聲明並に布告を發すると共に軍當局談を發し即日實施した。バリ防衛義勇軍は防衛司令の隷下に屬し、バリの郷土防衛に挺進せんとする原住民青年志願者を以て編制、各種の郷土防衛に任ずるものである。布告並に聲明左の通り。

- 第一條 大日本軍部隊は東亞防衛の精神に則りバリ百二十萬民衆の烈々たる郷土防衛の意氣に應へ原住民を以てバリ防衛義勇軍を編制す。
- 第二條 バリ防衛義勇軍は郷土防衛の挺進を志願する原住民を以て編制し一部の日本軍指揮官を附す。
- 第三條 バリ防衛義勇軍は郷土防衛精神に徹し大日本軍指導の下に米英蘭に對し各々郷土防衛に任ず。

本指令は公布の日より之を施行す。

聲明要旨

先般ジャワに於て防衛義勇軍編制せられるや米英撃滅、郷土防衛の意氣抑へ難く、五千萬民衆の熱望は火と燃上り日ならずして堂々その威容を準備するに至り、而して島内にジャワ義勇軍の報一度び傳はるやこれが編制の要望陸續として跡を斷たざるに至れり。茲に於て陸海軍當局より諸子の熱意に應ふると共に諸子の勤勉努力とを以て軍の信頼に背くなきを信じ、本日茲にバリ義勇軍の編制を布告せり。抑々郷土防衛のことたるやその責負に重

且つ大にして、堅忍不拔鐵石の覚悟を以て當らざれば克く任務の完遂を望み得べからず。諸子は粉骨挺身、没我奉公の實を發揮し以て軍の信頼に應へ自己の使命貫徹に邁進すべし。

一五八

ロンボック島の棉作豫定収量突破確實

小スンダの主要棉作地ロンボック島の本年度棉作は、十八年度植付地以外に從來全く顧みられなかつた東北部のサボテン繁茂地帯〇〇町歩をも開墾して實施され、植付品種も昨年度のアカラ種に代へてカンボジャ系種を栽培したところ、全般的にみて適度の雨量と病蟲害が比較的少なかつたために非常な出來榮えをみせ、豫定収量の突破は確實視されてゐる。尙去る四月二十五日よりスエラ地區を皮切りに新棉の收買に着手して居り、五月一杯で完了の豫定である。

ボルネオ

ボルネオにて米穀買上を實施

現地當局は管内食糧の自給を確立するため、十八年度より米穀増産年次計畫を樹立實施しつつあるが、更にこれと併行して米穀需給の円滑化を圖るため米穀の買上制を實施することとなり、今般米穀買上要綱を決定實施した。この米穀買上方策はシンカワン、ケタパンの兩縣を除く全地域に於て郡長を通じ當分の間現地當局が直接生産者より餘剩米を一元的に買上げるもので、その骨子は左の通りである。

- (一) 買上をなすべき米穀は生産者の餘剩米とし、乾燥不十分なるもの及び碎米を除く。
- (二) 買上は郡長を通じ當局が直接これを行ふ。郡長は當局の指示を受け生産者よりの米穀買上げ、保管及輸送に當る。
- (三) 買上げ価格は指定買上げ場所渡し正味一キロに付き精米十六セント、粃七セント。
- (四) 當局は各郡長に供出割當數量を定めて指示する。

ボルネオの椰子油生産卸賣に統制組合

現地軍政當局は原住民の食料油乃至動力油として重要性を増して來た椰子油の積極的増産と需給の円滑化を圖るため、この程産業者並に卸賣商等をして椰子油統制組合(假稱)を、又これに對應して奥地需要地たるシンタンに販

一五九

賣業者として椰子油荷受組合(假稱)をそれぐ組織せしめることとなつた。而して右統制組合は毎月地区別並に用途別に割當數量を決定して荷受組合に一手に供給を行ひ、消費者への適正配給を期する事になつてゐる。尚椰子油の需給統制に引続き搾粕についても同様統制を實施する筈。

ボルネオの畜類増産計畫

現地當局は食肉並に役畜の自給を圖るため、かねて十九年度を初年度とする畜産増産〇箇年計畫を立案中であつたが、この程成案を得たので愈々近く實施する。右計畫は牛、豚に重點を置きこれと併行してその他の家畜並に家禽についても増産を圖ることになつてゐるが、計畫の骨子は増産目標を最終年度に於て牛〇〇萬頭、豚〇〇萬頭としこれがため品種改良、登録制採用、牧場開設などの諸施策を講ずる。

西ボルネオの木造船建造増強

昭和十八年度の西ボルネオに於ける木造船帆船は軍官民一致の協力により優秀なる成果を収めたが、十九年度の

建造目標量に就いては、かねて關係當局と擔當商社との間に十八年度の經驗その他を基礎として打合せを行つてゐた處、このほど最後の決定を見た。これによると本年度には各商社にも海軍型の帆船の他に小型木造船の増産をも併せ行ひ、合計〇萬トンに達し、これを前年度と比較すれば實に〇倍強の飛躍的大増産に當る。

而して擔當商社では邦人従業員を首め原住民労働者の増強、製材能力の強化、資材の手當並に作業方式などにつき萬全の準備既になり、十二分の自信を以て計畫完遂に邁進することになつた。

南ボルネオの就學率激増

セレベス、南ボルネオ等の海軍々政地域のわが教育行政は、軍政の奥地滲透と學校の新増設により豫期以上の發展を示し、日本式教育の普及徹底によるインドネシア青少年の皇民化に大きな成果を上げてゐる。本年四月の新學期に於ける上級、普通公學校の就學男女兒童數は左の如く實に四十萬三百一十一名(戰前三十四萬七千五百五名)でその學校數は三千四百九十二校に達し、ところによつてはその就學率は戰前の八十乃至四十六パーセントの増加を示した。これを地域別にみると、

ボルネオ 八八七校 七七、一五六名



セ	レ	ベ	ス	一、七〇六校	二三四、九五五名
セ	ラ	ム		八九九校	八八、二〇〇名
計				三、四九二校	四〇〇、三二一名

一六二

となつてゐる。尙男女中學校、師範、農業その他實務學校等の中等學校は、四月現在總數は六十八校（内セレベス二十九、ボルネオ十六、セラム二十三校）となつて居り、生徒數も激増してゐる。

セレベス

海軍々政地區に恩赦

四月二十九日天長節の佳節に當り現地軍當局は廣く受刑者並に受刑者の刑罰を減刑し、廣大無邊の聖恩に浴せしむることとなり、同日附夫々これに伴ふ措置を講じ、同日現地當局により發表された。今回の刑罰減刑は軍律會議の受刑者を除き民政法院の受刑者たる現地のみでも約五千名に上り、舊蘭印時代の減刑が犯罪の種類を局限し、刑期の長短に拘らず一律に僅か三箇月又は六箇月を減する申譯的な方法であつたのに對比し、今回の措置は無期刑並に死刑の減免を首めとし、有期刑では本人の行刑成績に應じ減刑期の最高三分の一を減する等我、が仁政の本質を遺

憾なく明示するものであつて、被減刑者は勿論、一般原住民は有難き大御心に感激を新たにしてゐる。

現地當局四月二十九日發表

本日天長の佳節に當り全海軍々政管下に於ける軍律會議の受刑者並に民政法院の受刑者に對し刑罰減刑の措置を講ぜられたり。その要旨左の如し。

- (一) 死刑は無期又は十五年以上の監禁とす
 - (二) 無期監禁は十年以上十五年以下の監禁とす
 - (三) 有期監禁はその全刑期の四分の一乃至三分の一を減す
 - (四) 敵性國人及び抗日思想に基き罪を犯したる者、其の他破廉恥罪による者は減刑せられず
- 而して民政法院受刑者にして本措置により減刑の恩典に浴する原住民約五千名、内約一千五百名は本日釋放せられる見込なり。

海軍々政當局米穀消費規正の基準量を明示

現地海軍々政當局は、管内に於ける最近の米穀消費激増傾向に對處し、米穀の消費規正の勵行を圖つて非常時に

一六三

備へ、又各種需要の充足を計畫化する爲、この程管下各民政部に對し米穀配給消費數量の基準を明示した。從來、マカツサル市の如きは、邦人は舊來の慣習として、使用原住民の消費を含めねばならぬ特殊の事情に基き、一人一日當り四合五勺の大量配給を行つて來たが、今後は斯る特殊事情を認めず、邦人並に原住民共それ〴〵實際に消費すべき數量を明確化したもので、これにより邦人、原住民とも從來の配給量に比し、二三割の消費節約に當る。

海軍々政地域の十八年度木材増産好成绩

海軍々政地域の木材開發に就いては、主産地であるボルネオを中心として積極的増産に努めた結果、十八年度伐採実績は全體的に計畫目標を約一割方突破する優秀な成績を収め、十九年度に於ては現地木造船の建造計畫並に他地域の需要増大に應ずるため、十八年度を約倍加する大増産計畫を樹立したが、これが完成を期するため、先づ輸送力の強化と製材能力の擴充に重點を置き、實施する筈である。

セレベス纖維工業の増産要綱決定

現地當局では食糧増産、機帆船建造の進捗等に伴ふ梱包材料並に帆布その他各種雜纖維の自給を圖るためこの程管下全般に亘り纖維工業の振興を圖ることとなり、左の増産要綱を決定、各地宛通牒した。右は現地に豊富に野生するパインアップル、ババス、ブナス、テツカル等有用多數の纖維植物の徹底的利用を圖らんとするもので増産方策は左の通りである。

- (一) 需要の緊急度より見て生産の重點を差當り代用帆布、袋物梱包材料に置く。
- (二) 各企業擔當者に生産品目並に生産數量を割當て實行に就いては全面的に責任生産制を實施する。
- (三) 各業者に對して自家用品の生産を奨励すると共に附帯業務としてこれが生産に全能力を發揮せしむることとし、餘剰生産ある場合に可及的に他の緊急需要方面に振り向けること。
- (四) 原住民家内工業による賃織を奨励し、その勞力の活用及び手紡機の活用による製織を行ふ。
- (五) 供給の潤澤化を圖るために新纖維の發見に努め、また加工利用並に製織方法につき研究に努める。

セレベス海運共同事務所を設置

現地軍政當局は海上輸送力の強化と輸送手續の簡捷化を圖るため、進出全海運業者の海運共同事務所を設置せし



め、當局の移出物資の蒐荷状態調査並に船腹割當事務の補助代行機關たらしめることとなり、この程活動を開始した。即ち海軍々政地域内の配船、運航並に物資の移動に就いては軍政當局が一元的に計畫及び實行に當り、極めて順調且つ円滑となつてゐるが、今回輪移出關係に就いても迅速且つ簡素なる事務處理を行ふため右の共同事務所を設置し、民間海運事業者の経験と創意を發揮せしめることになつたものである。

南セレベスの建設驚異的進捗

海軍民政府總監は一週間に亘り南部セレベス地區の初巡視を行つたが躍進するセレベス建設の現状と感想を左の如く語つた。

一巡して最も感じたことは先づ原住民が非常な熱意を以て對日協力に起上つてゐることだ。到るところで酋長に會つて見たが、何れも自主的協力の熱意に燃えて居り、殊に過般原住民の政治參與方式として具現したマカツサル州會の設置は、原住民指導者の協力を一屏強く且つ具體的たらしめたものとして非常に感激してゐる。又青年層の協力組織として、過般來各地に續々青年團が結成されてゐるが、この活動は極めて旺盛な意欲を以て展開されて居り、今後これを中心とする一般原住民の指導は期待されるところ頗る大きい。一般原住民の各方面

に對する協力も積極的で、食糧増産を首め道路、港灣、其の他の建設は、この爲極めて円滑に進捗してゐる實情だ。次に軍政の滲透状況は、僅かな軍政機關の陣容でよくこれ程奥地に到るまで徹底したと感心した。これは一に交通不便を首め、多數の困難をもとせず敢然軍政の第一線に活躍する軍政要員の氣魄の賜物で、殊に原住民と渾然一體となつて萬事を處理する熱情は、一般原住民の心を根底から動かしてゐるのだ。かゝる観点から、今後これら地方軍政機關は益々強化すべきで、この爲、目下各種の措置を考究中である。産業建設の發展も全く豫想外の成果を擧げてゐる。鑛産資源の開発では、當初の調査を全く裏切る程の素晴らしい品位の鑛石が續々發見採掘され、戦力化への軌道に乗るに至つた事は頼母しい。木造船も十九年に入つて愈々本格的軌道に乗つて來た今年度の増産計畫は十八年に比し畫期的なものだが、これに對する諸資材、勞務等の手當も整つてゐる。工業建設として注目されたのは現地紡績の進捗で、大量の優秀な製紡機が内地より移駐を終り、目下機械を据付けてゐるが、五月からは數工場が操業を開始する段取りとなつてゐる。少數の邦人で、かゝる大量の機械が斯くも急速に整備されたかと頭が下る思ひがする。以上今回の視察の結果を結論的に言へば、セレベスの建設は現地自體の必勝不敗の態勢が一步步々牢固さを加へて居り、特に今後數箇月ならずして一切の建設が驚異的段階に入ると言ふ感を深くした。

マカツサル市内外の米穀小賣價格改訂

現地軍政當局は各種建設部門の進展に伴ふ各地米穀消費の増加並に最近に於ける一般經濟事情の變化に對應し、米穀(白米)の小賣最高販賣價格の改訂を準備中であつたが、この程正式決定實施した。これによれば從來の小賣最高販賣價格はマカツサル市及びマカツサル市以外の二本建で決定して居り、従つてその間運賃、手数料、金利等の相異に基く各消費地間の不均衡があつたが、これを全消費地とも同一價格に統一調整して合理化を圖つたもので、全般的に二割乃至二割五分程度の値上りとしたほか、新たに右に準じて糯米の價格を決定した。而してこれと同時に配給機構に就いても改正を加へ、從來の軍政關係による買上拂下制を全面的に撤廢して、特殊地域を除き原則としてセレベス物資配給組合をして一元的に配給せしめることとしたほか、生産者販賣價格は從來通り据置きとした。

マカツサル農業中學校を開設

セレベスに於ける原住民教育は、その後現地文教當局の努力により着々と進展し、軍政施行滿二箇年にして既に舊蘭印統治時代を遙かに凌駕する教育機關を整備するに至つたが、更に來る七月マカツサルに四年制の農業中學校

を開設、農業教育機關は現在の農業實務學校、農業技術員養成所と併せて三本建となつたわけである。

比律賓

比島開發事業の一部を業者に委託經營

南方現地に於ける軍の委託經營事業は、從來敵産事業場の經營管理を軍より委託されたものに限られてゐたが、その後情勢の推移と共に、これらの委託經營事業以外でも軍の指令を受けて各種開發に進出して居り、その内一部事業に就いては、この重要性に鑑み、經理上或程度の安全保障を與へる必要性が感ぜられるに至つたもので、比島に於ては今回棉花栽培擔當業者(一部は既に委託經營)、マニラ麻、芋麻、黃麻栽培擔當業者、並に軍用米擔當業者等を軍委託經營事業とすることになり、この程その旨命令が發せられた。この結果、新委託經營業者は今後損失を度外視しても擔當事業の發展増産に邁進し得ることになつた。

比島の礦物増産順調に進展

激増する日本の特殊鋼、合金、非鉄金属の需要に應へて、比島では地下資源の急速開發に奮闘を続けて来たが、昭和十八年度（十八年四月より十九年三月まで）の鑛物生産実績は十七年度生産高を遙かに突破する好成績を示した。即ち戦前比島に於ける銅は金山の副産物として生産され、銅自體の生産に主力が注がれて居なかつた爲、銅山は充分開發されず、而も相當戰禍を蒙つてゐたが、官民一體の努力により急速に復興し、昭和十七年度には鑛量にして〇萬屯の生産を示した。而して十八年度には更に一躍その三倍近くの生産実績を擧げるに至つた。

次に十八年度クローム生産実績を見ると前年度に比し〇千屯の増加を示してゐる。この増加率は銅程でなかつたが、之が原因は十八年度前半期中内地の需給關係から銅の生産に主力を注ぎ、クロームの生産が抑制されてゐたためであるが、最近に至りクロームの需要増大し、加ふるに距離的關係から比島に對するクロームの期待度は著しく増大するに至つたので、本年度からはクロームの飛躍的増産が企てられてゐる。

クロームに並んで有力なる比島地下資源たるマンガン鑛の十八年度生産実績は〇萬屯で、十七年度生産額に比すれば驚くべき大増産を示してゐる。これは十八年度に入つてマンガン鑛が本格的生産に着手されたことを示してゐる。この他鐵鑛、石炭、木炭銑、アスファルト等も順調な増産振りを示して居り、殊に木炭銑は農具その他に對する需要増加から生産増加し、十七年度の生産実績を突破してゐる。次にこれらの資源の對日運送成績を見るに、内地向け船腹は潤澤ながら陸上輸送關係に制約されて山元に貯蔵されてゐるが、大體に於て順調で、殊にクロームは

期待量の二倍近くに達してゐる。

斯くの如く比島の鑛物資源開發は概して良好な成績を示してゐるが、關係者はこの成績に満足することなく、戦局の決戦段階に對處して十九年度は非常増産措置を採つて地下資源の急速戦力化に邁進することになつた。更に本年度は生必需品の勞務者向け配給を増加して勞務者の確保を圖る一方、各種資材殊にトラックの優先的配車を行ひ、陸運輸送に萬全を期すこととなつてゐる。

比島の木材生産増大す

本年三月を以て終る十八年度中の比島木材組合員による木材生産は〇〇萬石で、昭和十七年度生産実績に比すれば實に三倍半近くの激増を示してゐる。これは十八年度に至つて業態整備が行はれたこと並に各擔當商社が治安、食糧、燃料、輸送等の悪條件を克服して増産に獻身的努力を拂つたことに起因してゐる。

材種はラワンが最も多く、全體の七割を占めてゐる。生産成績を地域的に見れば、スリガオ、バターン地方が良好で、北ミンダオ方面は稍々良好であつた。而して關係當局では木材業の重要性に鑑み、過般木材開發部門の業態再編成を實施し、用地を能率主義に山つて整理し、地原毎に業者の隣組を設けて資材、勞力、資金の重點融通を行

ふに至つたが、現下の木材増産の最大隘路は輸送關係にある爲、更に優先的配船を実施する他、種々の對策を講じて居り本年度比島木材生産は更に飛躍的増大を見るものと期待されてゐる。

比島の木造船建造

比島經濟再建の基底をなすものは輸送力にあるといつて過言ではなく、殊に七千八十三の島嶼を結合する海上輸送力如何は、今後の比島經濟の再建のみならず、國防力にも影響するところ極めて甚大であるため、過去一年來木造船の建造にはありとあらゆる努力が傾注された結果頗る好成績を收め、比島の前途に明るい將來を約束してゐる。比島に無数の木造船さへ出来れば食糧の偏在も是正されようし、島内主要物資出廻りも促進されるであらうから、比島の再生産活動は確かに急角度を以て上昇するであらう。

建造目標達成

本年三月末を以て終る木造船機帆船建造目標數は、昨年十二月大出水に見舞はれてすべての經濟基調に異狀を來し、木材供出も甚だしく遅延したが、官民一體となつての懸命の努力によりこの不足の困難は見事に克服されて本年三月一日現在では目標數の殆んど大部分を進水または着工させ、四月中旬にはこれらを全部進水せしめ得る見透しが

つくに至つた。十八年度には機帆船の他に〇トン船〇〇隻(殆んど目標數の一〇〇%)及び〇トン曳船〇〇隻(目標數の一六六%)の輝しい建造成績を收めた。機帆船發動機は内地より〇〇臺が到着、現地調達のものを含せ〇〇臺を確保し、このほか上海で中古發動機〇臺の輸入契約が行はれてゐる。これで本年度建造機帆船は全部發動機を裝備できる譯であるが、今後發動機の日本地依存を可及的速かに廢止するため、現地に於ける燒玉エンジン製造に努力が注がれた結果、月産能力〇臺の能率を擧げてゐる。現地燒玉エンジン製造設備は鋭意擴張中で、明年度は月産〇臺の目標を樹てゐる。

副原料の自給進展

木造船に必要なボルトその他の鐵材に就いては屑鐵を原料とし、目下月産〇〇〇トンの生産を行つてゐるが、屑鐵は遠からず枯竭する恐れがあるため、仲鐵工場と二本建に製鋼場の現地建設が計畫され、既にこれに必要な設備の半分は日本より到着し、残り半分も近く到着の豫定で、順調に行けば〇月下旬には完整の豫定である。

十九年度の目標

十八年度の成績に満足することなく、十九年度計畫は戦局の緊迫超非常時下を織込んで更に老大な建造計畫が樹立され、各種の船型を合せて實に〇〇隻を遙かに突破する老大なものとなつてゐる。この老大な計畫に對處する一方策として、四月一日よりこれまでのマニラ中心造船は現場中心の造船に切替へられ、大量の木材を要する機帆

船は殆んど全部木材産地附近の造船場で建造することになった。先般来マニラ以外の適地に造船所の建設が進められ現在〇〇所と實に戦前比島が有した造船所数の十倍近くを保有するに至つた。この他増産方策として労働賃金の調整、米及び生活必需品の優先的配給も行はれてゐる。

比島代用粉乳の製造に成功

比島科學者會議會營養學部では、曩に発見したココナツチーツの製法に次いで、今回ココナツツを原料とする代用粉乳の製造に成功、比島内に無限に産するココナツツを利用して、現下の食糧自給の一助として近くこれを大量生産し、營養不足患者を中心に配給する事となつた。

マニラ麻にて代用吠を製作

従来廢品として顧みられなかつたマニラ麻の外皮より麻袋代用の吠が製作され、戦力増強に一役買ふことになつた。ダバオ市カリナン町はダバオでも特に麻栽培の中心地で、捨てられる外皮の量も莫大なものに達するので、こ

れを何とか利用出来ないものかと種々工夫の結果吠の代用品として利用に成功、目下地元商店では現地製の手織縫機〇臺を据付け、現地女子の餘剩努力を活用、大々的生産を行つてゐる。これは麻の外皮を一センチ位の幅に裂き、これを縫に織るだけであるが、頗る強靱で、土石運搬用の「もつこ」にも利用され好評である。

緬甸

ビルマ行政機構改革

ビルマ國政府はビルマ曆一千三百六十六年の新春を迎へるに當り、一段と強力なる戦争協力態勢の確立を期し、新たな構想を以て邁進する事となつてゐるが、その第一着手として戦争協力徹底と戦時下に於ける民政確保の實を擧ぐべく内閣組織の一部を改造し、新たに物資供給省を創設するに決定、バーモ國家代表の裁決を得て四月十七日左の如く決定した。即ち物資供給省はその管下に運輸、物資調整、米穀買付の三局を置き、その大臣には現農務相クミン・タン・トン氏が就任、農務相の後任にはタキン・ルンポー交通灌溉相が轉任した。物資供給省の創設と同時に土木復興と林務の二省は合併し土木林務省が新設され、その長官には前林務相ウラベ氏が就任した。

ビルマ全国に蓖麻栽培運動を展開

一七六

ビルマには蓖麻が野生し、その栽培は有望視されてゐたが、昨年泰國産種子を輸入し、これを野生種と共に棉作地域に試作の結果、蓖麻子油〇〇萬屯收穫の成果を得た。因つて關係當局は潤滑油自給の緊要性に伴ひ、遂に決定した主要作物増産対策とは別個に蓖麻増産五箇年計畫を決定、第一年度たる本年度の栽培目標を〇〇エーカー、一エーカー當り收穫目標は氣候、地質、特異性を考慮して〇千〇屯とし、泰國及びジャワより種子を輸入し、企業増産社による計畫栽培を行ふと共に蓖麻栽培の全國運動を興す事となつた。差し當り本年度はラングーン地区の日本人官吏、ビルマ人官吏、日語學校、工場等を動員し、その附近の空地に夫々數坪乃至十數坪を栽培させ、これを實踐の第一歩として第二年度より本格的な栽培運動に擴大する豫定である。

ビルマで麻袋代用ゴム袋の製作に成功

關係當局は代用麻袋の緊急増産を目指し、その一方法として舊臘來ビルマの過剩物資たるゴムを原料とするゴム袋の試作研究を行つて來たが、この程鑛石用麻袋代用として優秀なゴム袋の試作に成功、直ちに新年度よりゴム袋

當企業社、各鑛山擔當企業社をしてこれが大規模な生産を行はしめ、鑛石輸送にはこの袋を使用し、その上を簡單な紙で包むこととし、現下の麻袋需給解決に一曙光を與へることとなつた。尚今回のゴム袋はその製造に要する凝固剤に木炭を焼くときの副産物たる醋酸を利用するもので、材料一切が現地自給といふ創意工夫の結晶である。

印 度

自由印度政府の新銀行設立

自由印度假政府下の東亞在住三百萬印度人のために豫ねてより設立準備を進めてゐた新銀行は、諸般の準備全くなり四月五日北澤參事官、タキン・ミヤ副總理首め日緬軍官民並に在緬印度人代表多數參列の下にビルマ〇〇で盛大な開行式を舉行、即日業務を開始した。同銀行の使命は財的關係動員の役割を果すことにあり、同銀行の設立によつて自由印度假政府の經濟的基礎は更に強化されるに至つた。なほ同銀行は一般銀行業務をも取扱ひ、ダイナ・ナイツ氏以下四名の理事によつて運営される事となつた。

一七七

統計

南支各地域別在留邦人人口概計表 (二月一日現在)

種別	地方別	戶數		人口	
		大	小	大	小
內地人	廈門	1,013	1,013	5,100	5,100
	鼓浪嶼	70	70	350	350
	金門	2	2	10	10
	海嶼	2	2	10	10
朝鮮人	廈門	3	3	15	15
	鼓浪嶼	1	1	5	5
	金門	1	1	5	5
	海嶼	1	1	5	5
臺灣人	廈門	101	101	505	505
	鼓浪嶼	1	1	5	5
	金門	1	1	5	5
	海嶼	1	1	5	5
合計	廈門	1,117	1,117	5,625	5,625
	鼓浪嶼	72	72	360	360
	金門	3	3	15	15
	海嶼	3	3	15	15

種別	地方別	戶數	人口
內地人	禾山	2	10
	總計	2	10

(廈門總領事館)

汕頭

種別	地方別	戶數		人口	
		大	小	大	小
內地人	汕頭市	3,000	3,000	15,000	15,000
	南澳島	1	1	5	5
	潮陽	1	1	5	5
	澄海	1	1	5	5
朝鮮人	汕頭市	1	1	5	5
	南澳島	1	1	5	5
	潮陽	1	1	5	5
	澄海	1	1	5	5
臺灣人	汕頭市	1	1	5	5
	南澳島	1	1	5	5
	潮陽	1	1	5	5
	澄海	1	1	5	5
合計	汕頭市	3,002	3,002	15,010	15,010
	南澳島	2	2	10	10
	潮陽	2	2	10	10
	澄海	2	2	10	10

品名	單位	價格	摘	要
米 (中)	一擔	一、三八八・〇〇		
小麥	一擔	八八八・〇〇		
大豆 (黃)	一擔	一、八六一・〇〇		
花生油	一擔	七、九六二・〇〇		
土榨品	一擔	四、一〇一・〇〇		
廣西品	一擔	四、〇〇〇・〇〇		
臺灣糖	一擔	四、〇〇〇・〇〇		
省營糖	一擔	二、〇〇〇・〇〇		
魚力	一擔	八、〇五五・〇〇		
豚肉	一百個	三八八・〇〇		
雞	一百個	一五五・〇〇		
薪炭	一擔	四四四・〇〇		
木炭	一擔	一六四、四四四・〇〇	仙桃牌二〇番手	
綿絲	一正	五、〇〇〇・〇〇		
細布	一正	五、〇〇〇・〇〇		
晒金	一正	五、八三三・〇〇		

三 廣 東
(一) 卸 賣

雜	菜蔬及實果	料 燃
石 硫	玉 白 密	石 木 薪
險 安	葱 菜 ナ 柑	炭 (現地)
一 袋	一 擔	油 品
一 袋	一 擔	一 擔
一 袋	一 擔	一 擔
三、四〇〇・〇〇	三、五〇〇・〇〇	三、二〇〇・〇〇
一、三五〇・〇〇	四、二〇〇・〇〇	一、八〇〇・〇〇
一、〇〇〇・〇〇	三、六〇〇・〇〇	一、〇一〇・〇〇
	三、二〇〇・〇〇	
	斤 斤 斤 斤	
	三、五〇	
	四、〇〇	
	四、五〇	
	三、七〇	

五
海
南
島

地 方 別	件 數	金 額	摘 要
佛 印	一八	五九、二九四	
海 島	四	七一〇	
比 島	一八	一、二二〇	
馬 島	三三	三、一五〇	
爪 哇	一	二五〇	
合 計	七三	六四、五二四	

(汕頭總領事館)

一
廈
門
(資料未着)

二
汕
頭

華僑送金表

(二月中)

牛	鷄	木	石	石	倉	紅	白	芥	生	白	綠	紅	六	磷
肉	卵	炭	炭	油	魚	衫	菜	菜	菜	豆	豆	茶	安	寸
斤	箇	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	包
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二〇〇	一〇〇	一〇〇	三五〇	九〇〇	六〇〇	四六〇	〇四〇	〇四〇	〇四〇	〇三〇	二五〇	二二五	二七〇	二七五〇
小	大													

(香港出張員事務所)

昭 和 十 八 年 末 中 に 於 て	増減状況		昭 和 十 八 年 末 現 在	
	自昭 和 十 七 年 末 至 昭 和 十 八 年 末	自昭 和 十 八 年 五 月 末 至 昭 和 十 八 年 末	男	女
増	(+) 10,000	(+) 10,000	4,000	6,000
減	(-) 10,000	(-) 10,000	4,000	6,000
増減	(+) 10,000	(-) 10,000	4,000	6,000

備考 1. 總督部昭和十八年五月末人口調査の結果非實在人口約十萬人を發見した。
2. 昭和十六年十二月釐定當時の人口推定は、九〇〇,〇〇〇人にして、歸郷疎散人口は九九三,三五八人である。

香港人口調査結果表

(昭和十九年三月十二日午前零時現在)

一年齡別

區 別	一 歲 — 五 歲		六 歲 — 五 九 歲		六 〇 歲 以 上		合 計
	男	女	男	女	男	女	

區	一 歲 — 五 歲	六 歲 — 五 九 歲	六 〇 歲 以 上	合 計
中區	2,700	3,400	1,000	7,100
西區	1,400	1,700	1,300	4,400
水城區	1,400	1,700	1,300	4,400
水前區	1,400	1,700	1,300	4,400
小玉區	1,400	1,700	1,300	4,400
東區	1,400	1,700	1,300	4,400
春日區	1,400	1,700	1,300	4,400
青葉區	1,400	1,700	1,300	4,400
銅鑼灣區	1,400	1,700	1,300	4,400
筲箕灣區	1,400	1,700	1,300	4,400
元港區	1,400	1,700	1,300	4,400
赤柱區	1,400	1,700	1,300	4,400
元島區	1,400	1,700	1,300	4,400
鹿島區	1,400	1,700	1,300	4,400
青山區	1,400	1,700	1,300	4,400
大角區	1,400	1,700	1,300	4,400

二種族別

籍別	日本人		中國人		第三國人		合計
	戶數	人口	戶數	人口	戶數	人口	
總計	29,066	289,943	8,946	249,946	3,458	35,670	489,559
香取區	2,448	23,950	4,031	40,583	1,111	11,294	65,827
瀨田區	4,411	42,900	4,968	49,831	1,711	17,294	106,933
山下區	4,000	38,800	4,800	47,200	1,600	15,600	102,400
啓德區	3,500	34,500	4,200	40,800	1,500	14,500	88,800
荖灣區	3,000	29,000	3,800	37,200	1,300	12,600	79,800
西貢區	2,500	24,500	3,200	31,200	1,100	10,800	66,500
大埔區	2,000	19,000	2,800	27,200	900	8,800	55,000
元朗區	1,500	14,500	2,200	21,200	700	6,800	42,500
上水區	1,000	9,000	1,500	14,500	500	4,800	30,300
沙頭角區	500	4,500	700	6,800	200	1,900	12,000
新田區	300	2,900	400	3,800	100	900	5,600
沙田區	200	1,900	300	2,900	100	900	5,700

籍別	日本人		中國人		第三國人		合計
	戶數	人口	戶數	人口	戶數	人口	
總計	29,066	289,943	8,946	249,946	3,458	35,670	489,559
中區	5,500	53,500	6,500	63,500	2,500	24,500	141,500
西區	4,500	43,500	5,500	53,500	2,000	19,500	116,500
水城區	3,500	34,500	4,500	43,500	1,500	14,500	92,500
藏前區	2,500	24,500	3,500	34,500	1,000	9,500	68,500
小區	1,500	14,500	2,500	24,500	800	7,800	46,800
東區	1,000	9,000	1,500	14,500	500	4,800	30,300
春日區	500	4,500	700	6,800	200	1,900	12,000
青葉區	300	2,900	400	3,800	100	900	5,600
銅鑼灣區	200	1,900	300	2,900	100	900	5,700
符箕灣區	150	1,450	220	2,120	70	6,800	42,500
元港區	100	900	1,500	14,500	500	4,800	30,300
赤柱區	50	450	700	6,800	200	1,900	12,000
元區	30	290	400	3,800	100	900	5,600
鹿島區	20	190	300	2,900	100	900	5,700

家事被備人	其他ノ有業者		其他自由業		畫家、彫刻家、音樂家、寫眞師		新聞、通信、著述者		醫務ニ關スル業		教育關係者	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
三	一	二	一	一	一	一	四	二	三	四	一	〇
一	三	一	一	一	一	一	一	一	二	一	三	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	一	二	一	一	一	一	四	二	三	四	一	〇
一	三	一	一	一	一	一	一	一	二	一	二	一

二二五

宗教關係者	官公吏、雇傭		理髮、髮結、浴場業		同、從業者		旅館、料理屋、貸席及藝妓業、遊藝場、興業場		會社員、銀行員、商店員、事務員		女
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	
一	三	四	一	一	一	三	五	五	二	七	一
一	三	二	二	一	二	一	六	一	六	一	四
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	八	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	三	四	一	一	一	三	五	五	二	七	一
一	三	二	二	一	二	一	六	一	六	一	四

二二四

海口金融事情概況 (昭和十八年第三・四半期)	三六號	右
海口金融事情概況 (昭和十八年第四・四半期)	三七號	言
海口金融事情概況 (昭和十九年第一・四半期)	三八號	空

南洋

南方圏の棉花資源	三六號	七
南方各地本年度豫算概要	三七號	言
南方の勞務態勢	三七號	蓋
南方の黄麻栽培	三八號	矣
佛印のゴム栽培	三六號	〇元
泰の外國人土地所有法と非常時信用統制法	三六號	一六
泰國の戰時經濟分析	三七號	三
泰國ゴム栽培事情	三七號	〇五

泰國輸出入物價概況	三八號	六
盤谷泰人生計費指數	三八號	九
インパール其他	三七號	二天
印度の黄麻工業	三八號	101

時報

(南支・南洋)

厦門

厦門セメントの消費を規正實施	三六號	一五
厦門勸業銀行の營業狀況	三六號	一美
厦門市政府荒地利用獎勵を佈告	三七號	一毛
厦門婦女工業社の業績着々進捗	三七號	一六
禾山の米買上廢止	三七號	一五
厦門の養蠶増産三箇年計畫	三八號	一五



汕頭

汕頭舊法幣の流通を禁止……………三八號……………二八

汕頭に在留邦人職業輔導所を設置……………三八號……………二〇

廣東

廣東在留邦人の生活實態を調査……………三六號……………一五

廣東にて重要物資の管理を企圖……………三六號……………一五

廣東物資統制審議委員會分會設立……………三六號……………一六

廣增公路の修復成る……………三六號……………一六

廣東香港貿易協定成立……………三七號……………一四

廣東の米價安定化……………三八號……………二〇

廣東省長陳耀祖氏暗殺……………三八號……………二三

廣東で葉煙草を栽培……………三八號……………二三

粵海關轉口税を徴收……………三八號……………二三

海南島

海南島の彩票大好評……………三六號……………一五

瓊崖臨時政府適正物價を設定……………三七號……………一四

臺拓海南島事業を獨立化……………三八號……………二四

香港

香港で營業、出入兩取締規則を公布……………三六號……………一三

香港華人工業の現狀……………三六號……………一四

廣九鐵道全線開通……………三六號……………一四

廣九鐵道保護に省鐵路警察隊を編成……………三六號……………一五

香港食米の一般配給を停止……………三七號……………一四

香港地區養畜組合成立……………三七號……………一四

香港への食米輸入順調……………三八號……………一五

香港特定地域向け輸移出取締規則を廢止……………三八號……………一六

澳門

澳門政府本國より紙幣發行權を付與……………三六號……………一五



澳門にて保有及毫銀貨の登記を實施
廣州灣

南方一般

對南方地域爲替を中央儲備銀行に集中
中國人船大工の南方派遣願調
共榮圏各地の防空振り
南方諸地域の爲替事務取扱開始
南洋各地の文教態勢

佛印

佛印産米の對日供出協定意見一致
佛印鑛工勞務者に傷害補償制度を實施
佛印政廳經濟統制力を強化
佛印織物類に對し全面的統制

三六號

三七號

三六號

三六號

三七號

三八號

三八號

三六號

三六號

三六號

三六號

三六號

佛印政廳キーネに強力な統制を實施
佛印農業の開拓に日本農事關係者積極的協力
佛印ゴム栽培率を増加
北部佛印の亞麻栽培願調
日・佛印經濟協定成立
佛印の對日折衝迅速化す
佛印本年度の粗選搬費値上げ
佛印トンキン州の麻袋等製造好成績
佛印の黃麻増産實行計畫
佛印でゴム製品の自給計畫進捗
佛印にて畜産業者に休閒地を無償拂下
佛印交趾支那で機械類の移動を禁止
佛印ジャンクで沿岸航路開設
佛印最初の水力發電所近く竣工

三六號

三六號

三六號

三六號

三七號

三七號

三七號

三七號

三七號

三八號

三八號

三八號

三八號

三八號

三八號

スマトラにて學資送金手続きを簡易化……………三六號……………一八五

スマトラよりの各地向送金額（八月中）……………三六號……………一八六

スマトラ軍政監部物品賣買取締令を公布……………三七號……………一八四

スマトラ地方長官會議開催……………三七號……………一八四

スマトラ軍政監部食糧と造船の増産に主力……………三七號……………一八五

スマトラ電氣事業を一元化……………三八號……………一八五

スマトラに於ける苛性曹達現地自給有望……………三八號……………一八五

スマトラに鑛山會を設立……………三八號……………一八五

スマトラにて紅頭嶼藤を栽培……………三八號……………一八五

ジャワ

ジャワ現地民官吏戦時服務規律を制定……………三六號……………一八六

ジャワ輸出入統制令を公布……………三六號……………一八七

ジャワ民衆運動を統合組織……………三六號……………一八八

ジャワで電力を本格的に開發……………三六號……………一八九

ジャワ發電の立地性……………三六號……………一九

ジャワ華僑の旅行制限撤廢……………三六號……………一九

ジャワ奉公會成立す……………三七號……………一九七

ジャワの農業増産對策……………三七號……………一九七

ジャワ電力の大擴充を企圖……………三八號……………一九七

ジャワの住民經濟新體制……………三八號……………一九七

ジャワにて近く行政巡察制を實施……………三八號……………一九七

ジャワ軍政監部物價安定五方針を決定……………三八號……………一九七

ジャワ軍政當局の衣料對策……………三八號……………一九七

ジャワの輸出物資取引稅改正……………三八號……………一九七

ジャワ食糧の統制管理を強化……………三八號……………一九七

ジャワの端境期米増産で不安解消……………三八號……………一九七

小スンダ

小スンダの食糧増産既定數量達成……………三八號……………一九七

バリ島防衛義勇軍を編制……………三八號……………一九七



ロンボック島の棉作豫定収量突破確實……………三八號……………一六

ボルネオ

ボルネオにて米穀買上制を實施……………三八號……………一六

ボルネオの椰子油生産卸賣に統制組合……………三八號……………一五

ボルネオの畜類増産計畫……………三八號……………一六

西ボルネオでゴムと椰子の新用途を發見……………三六號……………一四

西ボルネオの蓬萊米試作好成績……………三七號……………一七

西ボルネオの木造船建造増強……………三八號……………一六

南ボルネオで水田可耕地擴張に着手……………三六號……………一四

南ボルネオ米穀増産に重點……………三六號……………一五

南ボルネオの就學率激増……………三八號……………一六

セレベス

セレベス海軍々政當局農林産物蒐荷に重點主義強化……………三六號……………一七

セレベス海軍々政地域よりの内地向大口送金許可……………三六號……………一七

セレベス運航界帆船造船に新着想……………三六號……………一六

セレベスの灌漑工事殆んど完成……………三六號……………一六

セレベスに於けるジャワ人集團移民の増産熱意……………三六號……………一六

セレベス原住民の貯金熱旺盛……………三六號……………一六

セレベスの輸入希望物資……………三七號……………一七

セレベスの伸鐵工場完成……………三七號……………一七

セレベスの纖維工業整備……………三七號……………一七

セレベスの油脂工業進展……………三七號……………一七

海軍々政地區に恩赦……………三八號……………一六

海軍々政當局米穀消費規正の基準量を示……………三八號……………一六

海軍々政地域の十八年度木材増産好成績……………三八號……………一六

セレベス纖維工業の増産要綱決定……………三八號……………一六

セレベス海運共同事務所を設置……………三八號……………一六

南セレベスの建設驚異的進捗……………三八號……………一六

マカツサル諸工業の建設状況.....三六號.....三〇一

マカツサルに食糧の責任生産制實施.....三六號.....三〇三

マカツサル市内外の米穀小賣價格改訂.....三八號.....一六

マカツサルに農業中學校を開設.....三八號.....一六

比 律 實

比島議會増稅關係十二法案可決通過.....三六號.....三〇三

比島政府強制農耕令を公布.....三六號.....三〇五

比島産業資源の對日寄與著増.....三六號.....三〇五

比島全國米穀統制局新發足.....三六號.....三〇八

比島側金融機關活性化.....三六號.....三〇八

比島棉花協會實棉豫想數量を發表.....三六號.....三〇九

比島木製樽生産に着手.....三六號.....三〇

比島鹽統制組合原住民の製鹽指導に乗出す.....三六號.....三〇

比島許可工場數.....三六號.....三三

比島中央銀行法成立す.....三七號.....一七

比島の農工業年内に整備.....三七號.....一七

比島生必組合重點配給制を實施.....三七號.....一八

比島政府當局休閑地使用方法を指示.....三七號.....一八

比島暴利取締令を施行.....三七號.....一八

比島保險法一部改定.....三七號.....一八

比島人の企業投資増加.....三七號.....一八

比島森林資源の戦力化.....三七號.....一八

比島のコブラ増産方策.....三七號.....一八

比島棉花栽培三年度の實行計畫.....三七號.....一八

比島標準實棉價格一疋當り二ペソに決定.....三七號.....一八

比島砂糖の公價を改訂.....三七號.....一七

比島共和國公債第一回發行.....三七號.....一八

比島開發事業の一部を業者に委託經營.....三八號.....一八

比島の礦物増産願調に進展.....三八號.....一八

比島の木材生産増大す……………三八號……………一七

比島の木造船建造……………三八號……………一七

比島代用粉乳の製造に成功……………三八號……………一七

カリバビ単一政黨として新發足……………三七號……………一八

マニラ麻にて代用紙を製作……………三八號……………一四

種 旬

ビルマ地方行政機構を改革……………三六號……………三三

ビルマ國立銀行開行……………三六號……………三三

ビルマ政府米の新價格を決定……………三六號……………三五

ビルマ棉の蒐荷順調……………三六號……………三五

ビルマ手工業の振興を企圖……………三七號……………一八

ビルマ所得税法を改正す……………三七號……………一八

ビルマ行政機構を改革……………三八號……………一七

ビルマ全國に蓖麻栽培運動を展開……………三八號……………一七

ビルマで麻袋代用ゴム袋の製作に成功……………三八號……………一七

印 度

インド最近の人口構成……………三七號……………一五

自由印度假政府の新銀行設立……………三八號……………一七

漆 洲

漆洲經濟の實相……………三六號……………一六

オーストラリアの麥粉輸出状況……………三七號……………一五

ラバウル

ラバウル片貌……………三七號……………一六

統計

臺灣よりの支那向渡航者諸統計表 (七—九月中)……………三六號……………一八

臺灣よりの支那向渡航者諸統計表 (十—十二月中)……………三七號……………一五

南支各地域別在留邦人々口概計表 (七—九月一日現在)……………三六號……………一四

南支各地域別在留邦人々口概計表 (十—十二月一日現在)……………三七號……………一四

一八

南支各地域別在留邦人々口概計表 (二月一日現在)	三八號	二六
南支各地物價表 (七月九日末日)	三六號	三五
南支各地物價表 (十一月十二日末日)	三七號	三五
南支各地物價表 (二月末日)	三八號	一六
華僑送金表 (七月九日中)	三六號	三七
華僑送金表 (十一月十二日中)	三七號	三四
華僑送金表 (二月中)	三八號	三二
潮州關稅收額表 (昭和十八年中)	三七號	三四
南支各地物價指數表 (昭和十八年中)	三七號	三四
廣東占領地區內中國人々口概計表 (昭和十八年三月一日現在)	三八號	三三
廣東占領地區內第三國人々口概計表 (昭和十八年十二月三十一日現在)	三八號	三三
香港總督部營業許可狀況表 (昭和十八年中)	三六號	三四
香港・廣東食料品市價對照表 (昭和十八年中)	三六號	二八
香港管區內人口構成表	三八號	三五
香港人口調查結果表 (昭和十九年三月十二日午前零時現在)	三八號	三六

一九

西貢總領事館管內在留邦人調 (昭和十八年十月一日現在)	三八號	三二
南方放送局表 (昭和十四年十二月末日現在)	三六號	三六

昭和十九年九月二十日印刷
昭和十九年九月二十五日發行

【非賣品】

臺灣總督府外事部

臺北市新富町一丁目一九四番地

印刷者 安東正紹

臺北市新富町一丁目一九四番地

印刷所 株式會社 光明社商會

